

島 遺 跡

昭和58年度 市道島一宮前線道路改良工事及び
平成7年度 下水道污水管渠埋設工事に伴う
埋藏文化財発掘調査報告書

1998. 3

石川県小松市教育委員会

島 遺 跡

1998. 3

石川県小松市教育委員会

例　言

1. 本書は、石川県小松市島町に所在した、島遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、昭和58年度に小松市（建設部土木課）が行なう市道島宮前線道路改良工事に伴い、小松市教育委員会が主体となって市単独事業として行なった。平成7年度には、小松市（建設部下水道課）が行なう下水道工事（汚水管渠埋設）に伴い、担当課直営事業として行なった。
3. 発掘調査は、前者は、昭和58年12月2日から12月25日・昭和59年2月21日から3月18日にかけて行ない、樋田誠が担当した。また、後者は、平成7年10月11日から12月22日・平成8年3月6日から3月21日にかけて行ない、川畠謙二が担当し、調査補助員として室梅義彦、坂野直哉があつた。
4. 出土品整理及び報告書作成は川畠が担当し、坂下義視の協力を得た。
5. 本書の編集は、宮下幸夫・望月精司指導のもと、川畠が担当し、平成9年度埋蔵文化財保護啓蒙事業として行なった。
6. 本書で示す方位は、すべて磁北である。尚、第1図には国土地理院発行25,000分の1地形図（昭和62年度発行「小松」）を使用した。
7. 本調査において出土した遺物をはじめ遺構・遺物の実測図、写真等の資料は、小松市教育委員会が保管している。
8. 調査の実施及び報告書作成にあたり、鍛冶関連遺物の所見について穴沢義功氏の御協力と御指導を得た。記して謝意を表したい。また、この調査に協力して下さった地元の町民の方々に感謝申し上げる次第である。

目 次

第 1 章 遺跡の位置と環境	(川畑謙二)	1
第 2 章 調査の経緯と発掘調査概要	(川畑)	3
第 1 節 昭和58年度の調査	3	
第 2 節 平成 7 年度の調査	4	
第 3 節 調査区の設定と基本土層	6	
第 3 章 遺構	(川畑)	9
第 1 節 昭和58年度の調査	9	
第 2 節 平成 7 年度の調査	18	
第 4 章 出土遺物	31	
第 1 節 出土遺物について	(川畑)	31
第 2 節 鍛冶関連遺物について	(坂下義視)	57
第 5 章 まとめ	(川畑)	62

第1章 遺跡の位置と環境

小松市島町に所在する島遺跡は、東には加越山地・江沼丘陵がそびえ、西の平野部には木場潟・柴山潟・今江潟（現在は干拓により消滅）の三湖をはじめ、潟堆積平野及び月津台地、海岸部の砂丘からなる小松市中南部地域の、月津台地東端に位置する。付近には江沼丘陵より発する日用川から木場潟を通り、前川を中継して梯川に合流し日本海へそそぐ水系がある。この辺りは近現代の開発が激しく、木場潟付近も例外ではない。遺跡は住居域の外れ標高9mの畠地にあるが、南辺と東辺は既に掘削により断崖となつており、現在は畠地で水捌けを考えて整地された人為的な地形である。

この地域に始めて人類の痕跡が確認できるのが、念仏林遺跡出土の石槍で、旧石器時代～繩文時代草創期のものである。繩文海進により三湖があり江の状態だった繩文前期には明確な集落がみられるようになる。木場潟東岸の丘陵端部にある大谷山貝塚等があげられる。中期には月津台地上に多くの集落が成立する。念仏林遺跡、念仏林南遺跡、茶臼山A遺跡等であり、その成立には、この地が格好の漁場であったことが要因であろう。繩文後期以降は、分布の中心は丘陵部へ移動し、この地では希薄となる。弥生時代の前期・中期の遺跡はなく、後期に入り念仏林南遺跡で検出されるようになる。この遺跡では古墳時代中期と後期に集落が営まれており、古墳時代にはその周辺でも遺跡数が増加する。矢田野遺跡、矢田B遺跡、刀何理遺跡等である。古墳群は一般に「三湖台古墳群」と呼ばれており、最も集中して見られるのが矢田借屋古墳群の存在する地域で、小規模円墳を主体としている。台地南西端には、家型石棺を持つ孤森塚古墳、横穴式石室と家型石棺を持つ矢田新丸山古墳があり、台地西側には多量の埴輪を持つ矢田野エジリ古墳、全長40m級の全方位円墳の養輪塚古墳、そのやや北方に切石積横穴式石室の符津石山古墳がある。さらに、台地北東部に全長52mの月津台地最大の前方後円墳のほど古墳等のグループと、台地最北端に位置する御幸塚古墳等のグループが存在する。一方、木場潟の対岸の丘陵にも木場古墳群が存在するが、詳細は不明である。古代に入ると、月津台地上では、縁辺部に集落が成立する。この地は、行政区割でいえば越前国江沼郡に属し、台地北西には額見町遺跡を中心とする額見町古代遺跡群、南には矢田新遺跡、西には島遺跡が成立する。額見町遺跡は古代の末端行政区のひとつ額田郷に属すと考えられ、律令制関連遺物の存在や、オンドル状遺構の発見から渡来人の移住も指摘され、その地域の中核集落として別格の遺跡である。矢田新遺跡は矢田郷に属していたと考えられる。島遺跡に関しては文献資料がなく郷名に関してはわからない。北部には今のところ薬師遺跡という広範な須恵器散布地があるが時期不詳のため不明確なままである。平安時代以降は、前述の額見町遺跡ですら建物の数を半減し衰退していく。島遺跡では遺物はあるが遺構は確認されていない。また、新たに散布地として矢田野神社前遺跡があるが、明確に集落として確認できるのは額見町遺跡のみとなる。

台地と接する丘陵地には、南加賀古窯跡群が存在し、今までに200基以上が確認されており、古墳時代から室町時代にかけて連続と営まれている。また、場所を同じくして製鉄遺跡が数多く営まれており、その支群が木場潟東岸部の丘陵地まで伸びており、それぞれ木場町と蓮台寺町に位置する。木場A遺跡、蓮台寺ニューバ遺跡を除き、ほぼ平安時代にその主体があるようである。ちょうど丘陵の出口にあり、これら製鉄遺跡との関連も考えられる、木場B遺跡と三谷大谷遺跡の両集落遺跡も平安時代の遺跡だが、これらは中世まで存続するようである。一方、矢田新遺跡や島遺跡では中世陶磁器も採取されているが、月津台地及び木場潟東岸地域の中世集落遺跡の動向ははっきりしない。

室町時代には宗教関連遺跡が現れてくる。戦国期には一向一揆関連の城が築かれたようで、この地が要



- 1 御幸塚古墳 2 土百古墳 3 狐山古墳 4 矢崎B古墳 5 笛石山古墳 6 白のはぞ古墳 7 左門殿古墳 8 茶臼山古墳
 9 鞍輪塚古墳 10 矢田野エジリ古墳 11 念仏塚古墳 12 念仏林古墳 13 借屋古墳群 14 矢田野古墳群 15 百人塚古墳 16 無名古墳群
 17 孤森古墳 18 矢田新丸山古墳 19 中村古墳 20 御幸塚城跡（中世） 21 五郎座貝塚（縄文） 22 今江横穴（古墳）
 23 土百遺跡（縄文） 24 菊池遺跡（不詳） 25 笛津A遺跡（縄文） 26 笛津B遺跡（縄文） 27 念仏林遺跡（縄文、弥生末、古墳）
 28 念仏林南遺跡（縄文、弥生末、古墳） 29 月津新遺跡（縄文） 30 頬見町遺跡（縄文～中世～近世）
 31 頬見神社前A遺跡（縄文） 32 頬見神社前B遺跡（弥生～古墳） 33 頬見町西遺跡（奈良） 34 茶臼山祭祀遺跡（奈良）
 35 茶臼山A遺跡（不詳） 36 矢田A遺跡（縄文） 37 矢田B遺跡（古墳） 38 矢田野遺跡（古墳） 39 矢田新遺跡（奈良）
 40 刀河理遺跡（古墳） 41 矢田野神社前遺跡（平安） 42 島遺跡（奈良～平安） 43 島B遺跡（奈良、平安） 44 島経塚
 （不詳） 45 下栗津1、2号横穴（古墳） 46 下栗津横穴（古墳） 47 壱台寺遺跡（中世） 48 三谷遺跡（縄文） 49 壱台寺
 ガッショウタン製鐵跡（不詳） 50 壱台寺ニューハル山遺跡（不詳） 51 壱台寺チャワン山遺跡（古墳～平安） 52 壱台寺ハ
 カノ遺跡（奈良、平安、江戸） 53 壱台寺B遺跡（中世） 54 三谷大谷横穴（不詳） 55 三谷大谷遺跡（平安～中世） 56
 三谷大谷A遺跡（不詳） 57 三谷大谷B遺跡（不詳） 58 大場温泉遺跡（縄文） 59 木場古墳（古墳） 60 池田城跡（中世）
 61 木場B遺跡（平安、中世） 62 木場古墳群（古墳） 63 大谷山貝塚（縄文） 64 津波倉ホット寺遺跡（室町末） 65 林八
 種神社経塚（縄文） 66 井口遺跡（奈良、平安） 67 スギトギA遺跡（不詳） 68 スギトギB遺跡（不詳） 69 小山田A遺
 蹤（不詳） 70 長谷齋油屋の山遺跡（不詳） 71 木場製鐵遺跡群（奈良～平安） 72 南加賀古窯跡群、製鐵遺跡群（古墳～中
 世）

第1図 島遺跡と周辺の遺跡

所であったのであろう。

近世に入ると初めて「島」の地名が文献上でも見られるようになり、当時の行政区画で、能美郡栗津郷内の一村として捉えられ、明治に木津村・栗津村の字となり、大正期を経て昭和15年に島町となり現在に至っている。

第2章 調査の経緯と発掘調査概要

第1節 昭和58年度の調査

第1項 調査に至る経緯

小松市島町の撚糸工場が建ち並ぶ台地の一画に、約10,000m²に及ぶ畠地が広がっている。その畠地は過去に耕作整理が行なわれており、既に台地の南端と東端は平地と同じレベルまで削り取られ崖状を呈している。その後、たくさんの須恵器・土師器片が拾われ、住民によって小松市教育委員会に持ち込まれたりもしていた。また、南の崖面には豎穴住居跡が縦に切られた状態で露出しており、台地上に遺跡が存在することは周知されていた。

小松市（建設部土木課）は、この畠地のほぼ中央を南北にはしる市道島～宮前線の道路改良工事を計画し、昭和58年11月2日に施工した。小松市教育委員会は、工事箇所333m²を緊急発掘調査するよう要請した。その結果、同年11月21日付けで発掘調査依頼書が、同年11月24日付けで文化庁への埋蔵文化財発掘通知が事業担当課より提出された。これを受けて、小松市教育委員会は同年11月22日付けで事業担当課に発掘調査の実施を回答し、文化庁へ同年11月28日付けで埋蔵文化財発掘調査通知を提出した。発掘調査は昭和58年12月1日より約1ヶ月弱で行なう予定だったが、降雪等の気象条件の悪化により、一部を順延して昭和59年2月21日から3月18日までの間に実施した。

第2項 調査の概要

調査にあたり、調査区を北から順に1区～11区に分割した。

12月2日より作業員による掘り下げを1、2区から開始した。約50cmと予想外に表土及び包含層が厚く、12月の天候が予想以上に悪かったため、包含層掘り下げのみで予定期間を終えてしまった。

翌年2月後半より調査を再開したが、まず分厚く積もった雪を除雪することから始めなければならなかった。1区より地表面精査を開始し、遺構掘り下げを始めた。住居址と思われるプランを4棟発見した。また、3基の土坑のうち1基は削平された豎穴住居のカマド施設と思われた。各遺構を精査、完掘作業を行なうとともに、平板実測により平面図を作成していく。また、完掘写真は、最後に調査区全域を撮ればよかったのだが、3月に入ても雪の降る不安定な天候が続いたため、撮れるときに撮るしかなく何区かまとめた写真のみとなった。

発掘調査は、悪天候に悩まされ、予定より3ヶ月（実動で1ヶ月）遅れで、3月18日に全ての作業を完了した。

第2節 平成7年度の調査

第1項 調査に至る経緯

平成5年に小松市が木場潟汚水幹線計画の一環として、小松市島町り番地全域で市道及び町道部分において下水道污水管渠埋設工事計画を打ち出した。その計画の一部区域が周知の遺跡である島遺跡の範囲内に及んでいたため、事業担当課である小松市建設部下水道課より平成5年10月12日付けで埋蔵文化財の取扱いについての協議書が提出された。これを受けて教育委員会では、昭和58年度調査の結果もふまえて、当該工事が遺跡を破壊することが確実であり、発掘調査が必要な旨を回答した。そして、事業担当課と協議を重ねた結果、平成7年度事業担当課直営事業として、畠地をはしる農道の真下部分のみ(178.6m²)の発掘調査を行なうこととなった。平成7年9月1日付けで発掘調査の実施依頼並びに文化庁への埋蔵文化財発掘通知が事業担当課より提出された。同年9月4日付けで教育委員会より文化庁に埋蔵文化財発掘調査の通知を提出、同年10月3日付けで発掘調査実施の回答書を事業担当課に提出した。そして、10月11日より約2ヶ月の予定で発掘調査を着手するに至った。しかし、天候不順等の影響により、一部を順延して3月6日から3月21日の期間に行なうこととなった。

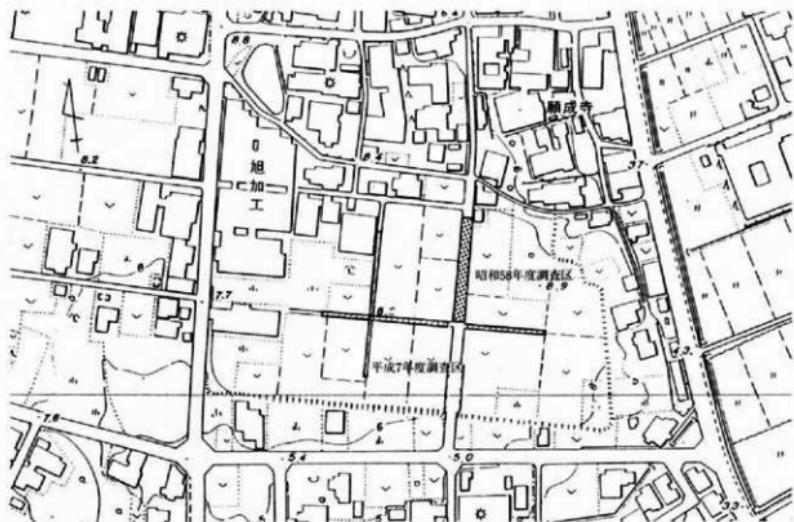
第2項 調査の経過

発掘調査は地域住民が利用する農道部分であったため、全てを通行止めにして1度に行なうことが出来ない。よって、道路が不通にならないように全体を5地区に分割し、1地区毎に全ての作業を終了させて、埋め戻してから次の地区に取り掛かる方法をとらなければならなかった。農道の中央の軸に合わせて幅約1m、全長約180mの区間を対象としており、便宜上各地区を5mごとに分割して調査をおこなった。

10月11日、1地区から人力によって表土の掘り下げを開始した。5mごとに土層観察用のアゼをのこして掘り下げた。台地の東端部分にあたる箇所では、地表から約20cm下で遺構確認面にいたったが、40mほど西の地点では約60cm下と台地が東から西へとなだらかに傾斜していることがわかった。また、遺物包含層は連続して上下2層存在していることがわかったが、幅1mと調査区が狭く一面黒色土1色であったため遺構プランは確認できなかった。そのため、やむを得ず黄褐色粘質土まで遺構確認面を下げた。そして、遺構確認作業を行なったところ、予想以上に遺構が密集していることが判明した。豊穴状遺構の1つに鍛冶関連の遺物が多量に出土したため、鍛冶関連遺構・遺物の検出が想定されたが、他の地点での広がりはそれほどでもなかった。なお、遺構平面図は、測量用のメッシュを組んで、手実測により行なった。以下の地区も同様である。

上記のように遺構密度が高かったため予定期間に遅れが生じてきた。そのため、1地区はまだ完了していなかったが、やむを得ず2地区の掘り下げを10月31日より開始した。2地区は1地区以上に遺構確認面までが深く、平均で70cm下がなければならなかった。ここでは、中央付近で黄褐色粘質土の地山の落ち込みが確認され、層の堆積からも台地の中央に谷がはしこっていることが確認された。ここでは予想外の湧水もあり、谷部では幅1mで深さ1m以上掘り下げねばならず、調査は困難を極めた。2地区はようやく12月8日になって埋め戻しまで含めて作業を終えることができた。

ここまで調査期間が残り1ヶ月弱となつたため、急遽3地区4地区を同時に調査することとなった。ここは谷を挟んで西側にあたり比較的遺構密度が低かったものの、近接した位置に井戸2基を検出した。2基とも調査区縁辺にあたり完全な形を把握できなかつた。しかし、調査区を拡張するわけにもいかず、



第2図 昭和58年度調査区と平成7年度調査区の位置 (S=1/2,500)

また、その遺構自体からの湧水及び天候の悪化により畑に降った雨が調査区内に流れ出るというアクシデントも重なり、調査は非常に危険を極めた。井戸1基の調査を断念せざるを得なかったことが悔やまれるが、12月22日に埋め戻しまで含めて全ての作業を終えた。

平成8年3月6日より発掘調査を再開し、5地区の掘り下げを開始した。この辺りでは、包含層は1層しか認められず、黄褐色粘質土面まで一気に掘り下げた。ここでも調査区のほぼ中央に谷堆積が確認された。1箇所断ち割りをいたところ、遺構・遺物は確認されなかった。さらに、湧水の危険があったため、調査期間の制限もありその箇所の掘り下げを断念した。比較的天候にも恵まれ、3月21日に埋め戻しまで含めて全ての作業を終えた。

この地区的終了をもって、島遺跡の調査を完了したわけだが、当初の予想を遥かに上回る遺構密度だった。遺構確認面までもかなり深かったため、調査期間をかなり超過したが、どうにか年度内に調査を終えることが出来た。結果的に約10,000m²の遺跡範囲に対しトレンチを入れた形となり、台地の残存部分において、広範囲に島遺跡が存在していることが確認されたわけである。

第3節 調査区の設定と基本層序

第1項 調査区の設定

昭和58年度調査区と平成7年度調査区は隣接して存在するが、便宜上それぞれの調査で使用した区割りを準用する。昭和58年度調査区は、長さ約72.5m×幅5.5m（一部幅4m）面積333m²の範囲に対し、ほぼ中央に長軸に沿って5m間隔で杭を打ち、北から順に1区～11区に分割した。また、杭を挟んで東西は「1地区東、1地区西」のように、そのまま東西を当てはめて呼称した。

平成7年度調査区は、東から1～5区に分割した。前述の通り、各地区は農道として使用されたままであり、全長が約180m前後に及ぶため、調査範囲全面の遺構を併行で検出していくことは出来ず、調査区ごとに進めた。

- 1地区：全長38m、幅1m、西から5mごとにA～Hグリッドに分割
- 2地区：全長40m、幅1m、西から5mごとにA～Hグリッドに分割
- 3地区：全長23.5m、幅1m、西から5mごとにA～Eグリッドに分割
- 4地区：全長30m、幅1m、北から5mごとにA～Fグリッドに分割
- 5地区：全長49m、幅1m、北から5mごとにA～Iグリッドに分割

第2項 基本層序について

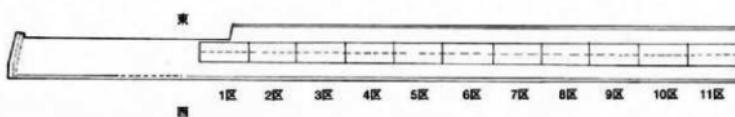
この2つの調査は13年の期間を経ているが、同じ遺跡を掘っているため両者は整合性持つてなければならぬ。ここでは、島遺跡の基本土層をおさえてみたい。

調査地は現在畠地となっているが、前述のとおり過去に一度耕地整理が行われている。地形は、市道を挟んで東側（1地区）は標高が高く、黄褐色地山土で確認すると標高8.7m前後を測る。そこから西へ向かうにしたがって低くなり、最低で標高7.6mまで下がり、また西へ向かうほど高くなっていく。一方、南北方向で見れば、標高7.8m付近まで落ち込む箇所があるが、それ以外は若干北へ上がる傾向を示しつつも、ほぼ標高8.0m～8.1mの間に収まる地形をなす。包含層①層（第5図4層）はすべての調査区で検出されており、1地区ではそれより上の堆積は見られない。また、1地区的標高の高い部分では薄い堆積を示すが、これは農道付設の際に、排水のために角度をつけて付設しているためであり、1地区のみ元地形と異なる東側が下がる地形をなすことからも考えると、農道付設の際に削られており、もっと厚く堆積していたものと考えられる。他の地区で検出される包含層①層より上の土層は農道付設工事に伴うものである。

包含層②層（第5図6層）は、一部2地区の一番低い箇所では確認出来ないが、東西方向では共通に見られる層である。しかし、南北方向では様相が異なり、南へ行くほど薄くなり、4地区では途中で見られなくなり上位の8層のみとなる。北方向でも、5地区途中で確認できなくなり下位の10層が堆積している。

ここで、昭和58年度調査区との対応関係を見てみたいと思う。基本的には上下2層に分類され、I層が包含層①層、II層が包含層②層に対応すると考えられる。それは包含層①層では、上からの掘り込みが見られないのに対し、包含層②層では上からの掘り込みが昭和58年度調査区と平成7年度調査区に共通して見られることからもわかる。このことは、黄褐色地山と包含層②層と地山が2面存在する可能性が強いことを示している。また、谷部の深い地区ではその地点でのみ確認される黒い粘質土層（7層）が堆積しているため、谷が埋まった後に遺構を掘り込んだ可能性が考えられるが、どちらも、前回及び今回の調査では面上に捉えることは出来なかった。

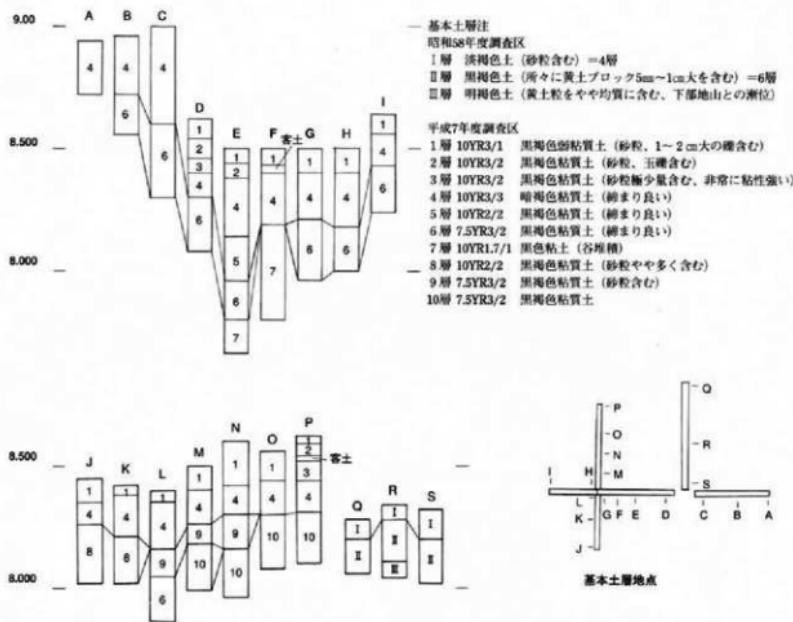
計画道路



第3図 昭和58年度調査区 (1/500)



第4図 平成7年度調査区 (1/1,250)



第5図 基本土層図 (S=1/20)

第3章 遺構

第1節 昭和58年度の調査

第1項 調査区について

遺跡範囲のはば中央に南北に設定された調査区である。弥生時代から古代までの遺構を検出した（遺物は中世まで出土）。中央を分断する溝2基のほか、竪穴状遺構（住居かどうかは個々に判断）5基、掘建柱建物跡2棟、柵跡3基、土坑3基を検出しており、特に、1区から6区までに遺構が密集している。弥生時代などの古い時期の遺構は、この区域に分布している。遺構の時期については、田嶋 明人氏の編年案（1）に基づいて述べる。なお、はっきり竪穴状の掘り込みが確認できないものも、ここでは竪穴状遺構に含めた。

第2項 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構

7区東と8区東の境で検出された小型の掘り込みである。フラットな床面を検出しているが、住居かどうかは判断できない。

主軸はN-48-Eで、計測可能範囲で約180cm×230cmを測り、長方形体をなす。壁高は確認高で25cmである。屋外のP-1、P-2を上屋構造に関係ある柱穴としたが確定はできない。径は、それぞれ60cm程度で、深さはP-1が30cm、P-2が45cmを測る。掘り込み内部では南端部で幅80cm、深さ10cmの楕円形の土坑が検出されている。

覆土は、壁面の崩落土が堆積した後に、焼土や炭化物を多く含む土が堆積している。断面で捉えられるように、掘り込みは確認面より15cm以上上からで、実際の壁面は現況よりかなり高くなる。

遺物は殆どが土器類で、須恵器・土師器が出土している。殆どが土師器の細片で、その中でも甕の破片が多い。床面付近からも少量出土している。その他鍛冶関連遺物として、輪の羽口の破片が2片出土している。時期はI-2～II-1期頃に位置付けられる。

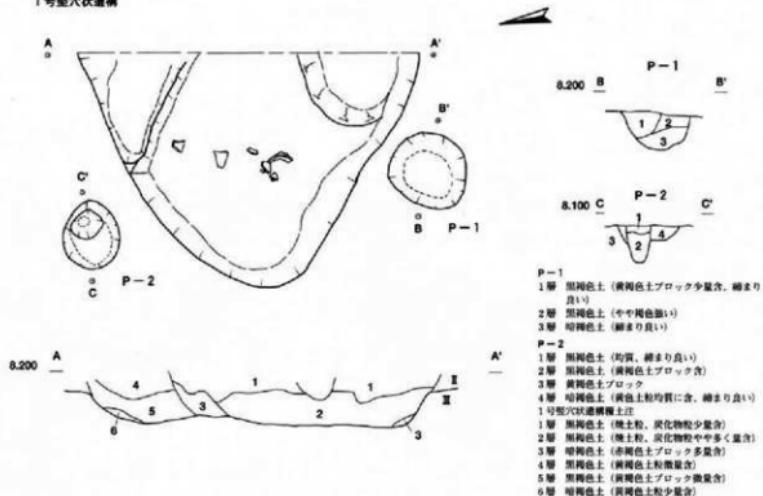
2号竪穴状遺構

4区西で検出されたピット2基を主柱穴の一部とする竪穴住居跡の一部と予想されるが、削平を受けた状態で、しかも、1号溝と重複しているため、実際のプラン形態は不明である。ただ、東側と南側の壁面が2号竪穴住居跡のものとするならば、壁際に主柱穴を持つタイプと言える。

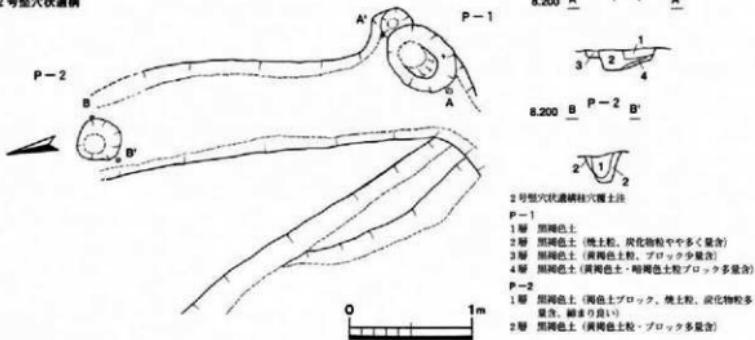
主軸はN-2-Eで、中間寸法は7.8mで、P-1が径56cm深さ16cm、P-2が径30cm深さ22cmを測る。P-1は、西側に倒して柱を抜き取ったようであり、形が崩れている。両者とも、焼土粒、炭化物粒を含有する土で埋められている。

遺物は、須恵器壺、土師器甕等が出土しているが、2号竪穴住居跡と1号溝の遺物が混在しており、両者を明確に分けることは出来なかった。しかし、下底面から出土した遺物は弥生時代の遺物で他の遺物とは明らかに時期が異なるため、1号溝の遺物と判断した。よって、2号竪穴状遺構の時期は、III期頃と想定する。

1号豎穴状遺構



2号豎穴状遺構



第6図 1号・2号豎穴状遺構実測図 ($S=1/40$)

3号豎穴状遺構

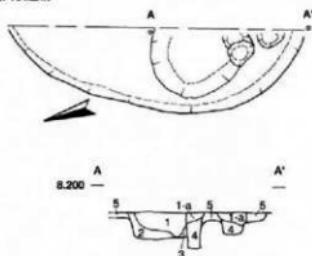
3区東の中央部付近で、断面上のみで確認された豎穴状の掘り込みである。覆土は焼土粒、炭化物粒を含む黒褐色土で、これも包含層②層面からの掘り込みである。時期は確定できない。

4号豎穴状遺構

3区東と4区東の境で西側端部のみを検出した、小型の豎穴状遺構である。貼床が確認できたため、住居跡と予想するが、保留部分を残す。

主軸はN-16-Eで、計測可能範囲で1辺約230cmを測り、隅丸方形をなす。壁高は確認高で6cm程度し

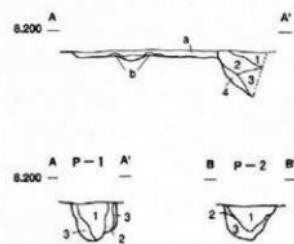
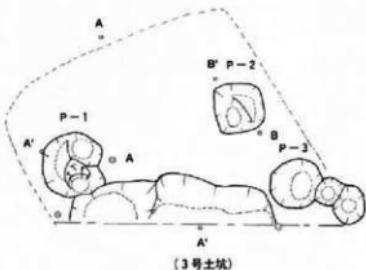
4号竪穴状遺構



4号竪穴状遺構覆土注

- 1 層 黒褐色土 (焼土ブロック、炭化物粒、黄土ブロックやや多く含む)
- 2 層 黒褐色土 (大きい黄土ブロック多く含、縛まり良い)
- 3 層 黄褐色土
- 4 層 黒褐色土 (焼土ブロック、黄土ブロック少量含、縛まり良い)
- 5 層 品褐色土 (均質で縛まり良い)

5号竪穴状遺構



5号竪穴状遺構柱穴覆土注

- P-1
- 1層 黒褐色土 (黄褐色土ブロックやや多く含、縛まり良い)
 - 2層 黒褐色土 (黄褐色土ブロック多く含、非常に堅く縛まり良い)
 - 3層 品褐色土 (黄褐色土ブロック含、縛まり良い)
- P-2
- 1層 黒褐色土 (黄褐色土ブロックやや多く含、炭化物粒少量含)
 - 2層 黒褐色土 (黄褐色土ブロックやや多く含)
 - 3層 黒褐色土 (焼土・炭化物粒極少量含、縛まり良い)

第7図 4号・5号竪穴状遺構 (3号土坑) 実測図 ($S=1/40$)

かなく、殆ど削平されている。主柱穴は、確認は出来ない。住居内部の土坑は、上位遺構の重複と考えられる。

住居の覆土は検出できず、暗褐色の貼床のみ確認できる。

遺物は非常に少なく、須恵器・土師器の細片のみで時期は確定できない。

5号竪穴状遺構

1区西で検出された竪穴状遺構で、ほとんど削平を受けた状態であるが、P-1～3が主柱穴と想定され、竪穴住居跡と判断される。点線の範囲をプラン想定ラインとしている。

主軸はN-60-Eで、柱間寸法はP-1～P-2間1.36m、P-2～P-3間0.8mを測る。P-1は径50cm深さ32cm、P-2は径40cm深さ30cm、P-3は径40cm深さ38.9cmを測る。東端の柱であるP-1、P-2とも2段掘りである。P-1の覆土は堅く締まりの良い土で一気に埋まっており、柱が抜かれた後すぐに埋め戻されたようである。P-2も最初に埋まった土は、堅く締まりがよいため、同様に埋められたものと推測する。

遺物は、須恵器、土師器等が出土しているが、殆どが細片である。須恵器の坏身や坏蓋の破片が目立つが時期は確定できない。

第3項 挖建柱建物跡・柵跡

掘建柱建物跡は8区・9区にまたがる地点で2棟確認されており、どちらも北辺と東辺の一部のみ検出している。

1号掘建柱建物跡は1×1間以上、2号掘建柱建物跡は2×2間以上で、両者は主軸をほぼ同じくしており、柱穴の大きさもほぼ50cm代で等しく、梁行寸法、桁行寸法の両者ともほぼ等しいことからも、一方が一方に建替えられたものと推察する。遺物は殆ど出土しておらず時期を確定することはできない。

1号柵跡は1・2号掘建柱建物跡と主軸とを同じくして、東側に沿うように立てられているのが特徴である。2号柵跡は、1号柵に比べ柱間寸法は狭いが主軸は同じで、60cmほど東へずれて連続する形で検出された。出土遺物はなく時期は不明だが、主軸を同じくすることから、1・2号掘建柱建物跡と同時期のものと推定される。

3号柵跡は5区・6区にまたがり検出されている。途中溝によって分断されているが、確認長で8m12cm、柱穴の大きさも50～60cmと1・2号に比べ大きなもので、主軸もやや西方へずれている。出土遺物はP-1からのみで、IV-2古～V-1期頃と考えられる。この時期が上記の溝の時期と一致するため、溝と切りあっていたのではなく、溝の部分が空いていた可能性が高い。

以上、確認された掘建柱建物跡及び柵跡について略説したが、詳細については掘建柱建物跡・柵跡計測表を参照して頂きたい。

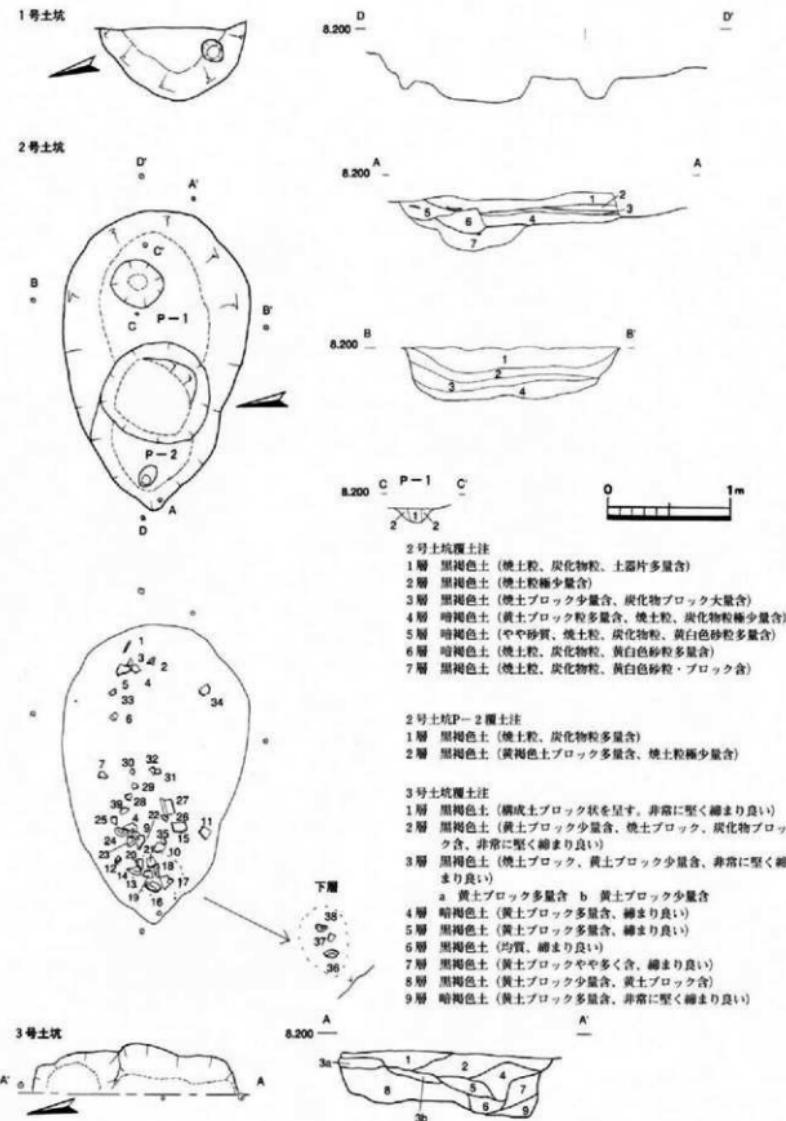
第4項 土坑

1号土坑

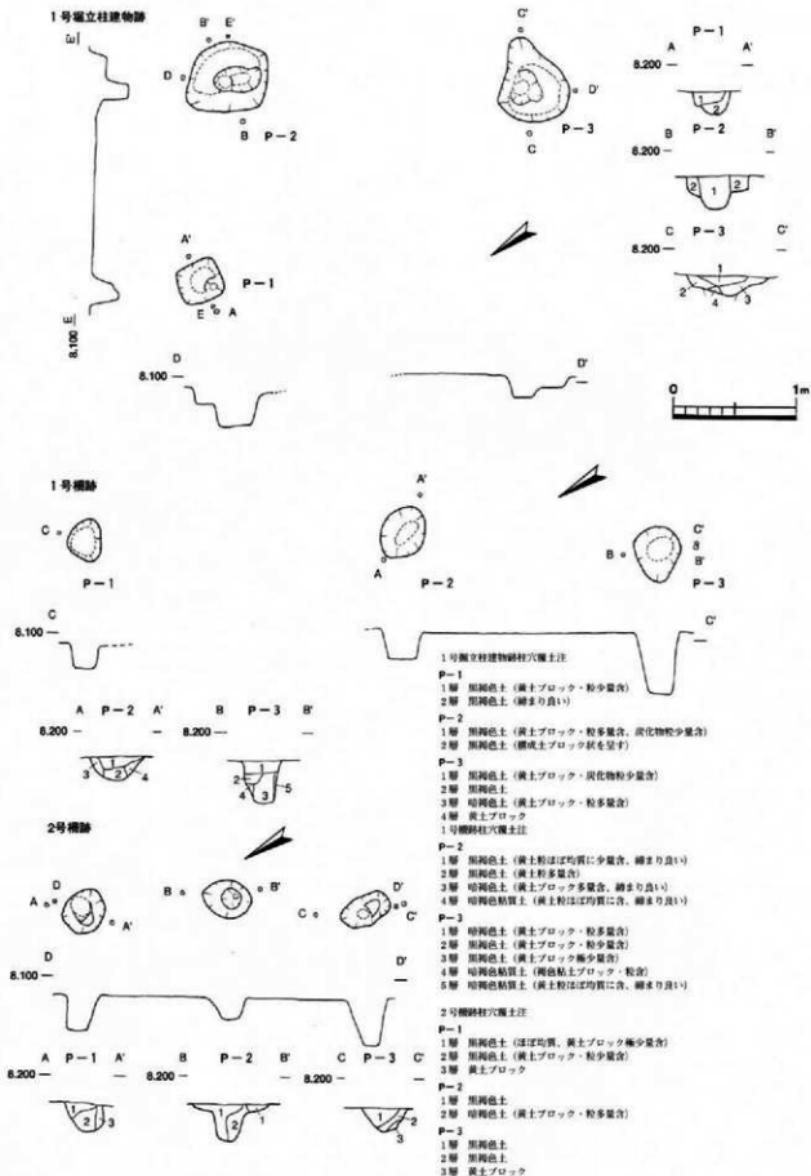
11区北東端で西半分のみ検出された、小型の極浅い掘り込みである。形は円形または椭円形が想定される。規模は直徑約120cm程で、深さは約7cm程度と浅い。しかし、この調査の性格を考えると削平を受けていると考え方が妥当であろう。出土遺物は少なく細片のみである。須恵器坏片、土師器煮炊具片が見られるが、時期は確定不可能である。

2号土坑

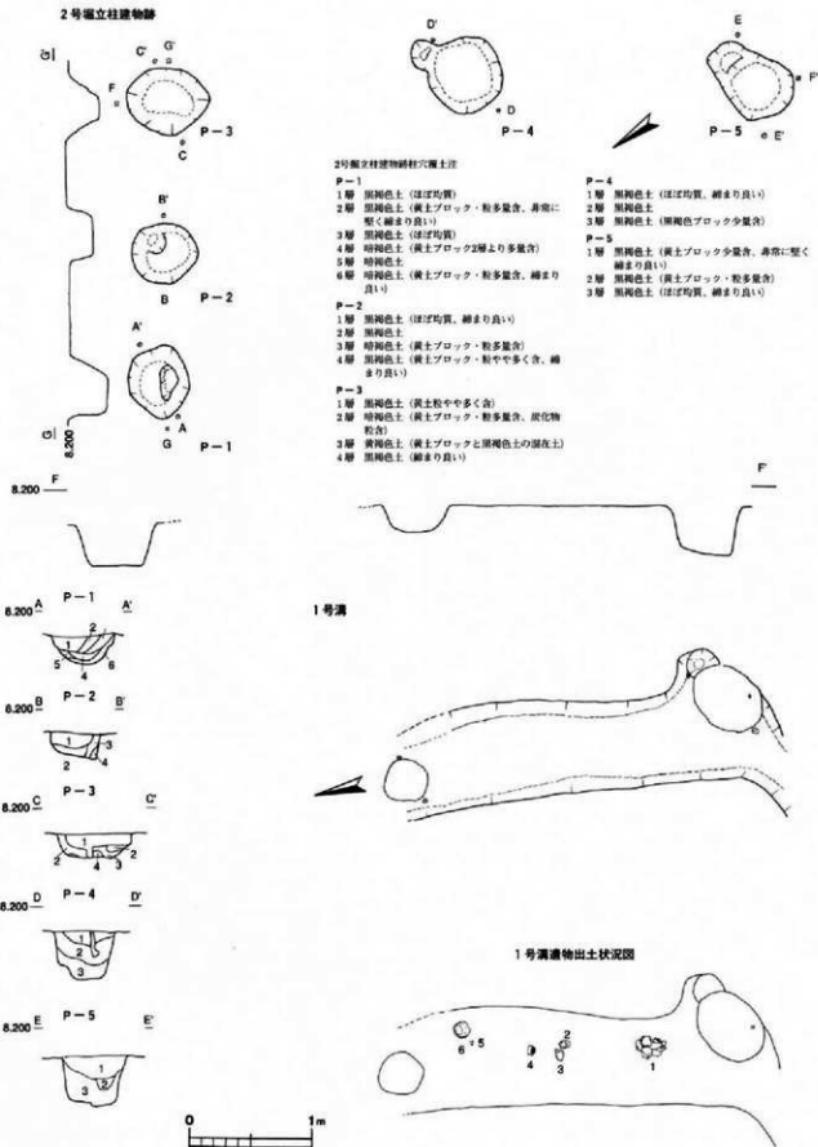
3区と4区の境の中央付近で検出された椭円形の土坑で、長径246cm×短径150cm、深さ84cmを測る比較的大型の土坑である。西寄りに1段低い掘り込みがあり、西端と東端付近にピットがある。覆土は平均に堆積しているが、中間層の3層は炭化物を多量に含み、焼土ブロックも含むことから、この層の上面が生活面で火を使っていた可能性があり、以下は掘り方土坑の可能性がある。遺物は1層出土が最も多く、須恵器坏、土師器碗（赤彩も含む）、土師器甕といった食膳具、煮炊具が他の遺構に比べて圧倒的に多く出土している。また、比較的完形に近い破片が多いのも特徴である。時期は、IV-2古期頃を中心とする時期と考えられる。遺構の性格としては、火を使った作業場とだけ想定しておきたい。



第8図 1号・2号・3号土坑実測図 ($S=1/40$)

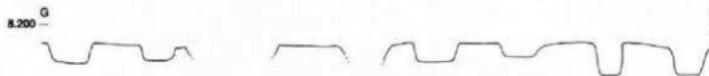
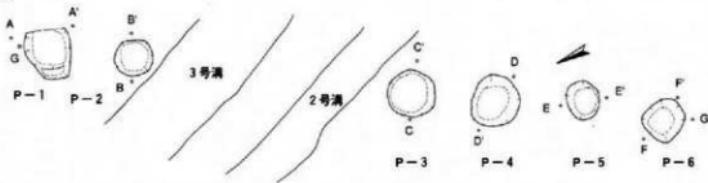


第9図 1号掘立柱建物跡、1号・2号柵跡実測図 (S=1/40)



第10図 2号掘立柱建物跡、1号溝実測図 (S=1/40)

3号樋



A P-1 A' P-2 B' B
8.200 - 8.200 -
2 3 4
1 2 3 4

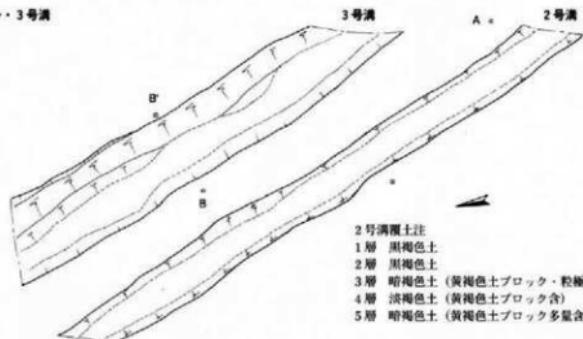
C P-3 C' D P-4 D' E P-5 E' F P-6 F'
8.200 - 8.200 - 8.200 - 8.200 -
2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5

3号樋跡柱穴覆土注

- P-1
1層 黒褐色土（黄褐色土粒少量含）
2層 黑褐色土（黄褐色土粒多量含）
P-2
1層 黑褐色土（黄褐色土粒少量含）
2層 黑褐色土（黄褐色土粒多量含）
3層 黑褐色土（黄褐色土ブロック・粒多量含）
4層 黑褐色土（黄褐色土ブロック・粒多量含）
P-3
1層 黑褐色土（黄褐色土粒少量含）
2層 黑褐色土（黄褐色土ブロック多量含）

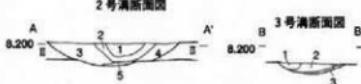
- P-4
1層 黒褐色土
2層 黒褐色土（黄褐色土ブロック・粒、褐色土ブロック少量含）
3層 黒褐色土（黄褐色土ブロック・褐色土ブロック多量含）
P-5
1層 黒褐色土（黄褐色土粒少量含）
2層 黒褐色土（黄褐色土ブロック・粒、褐色土ブロック・粒多量含）
3層 黒褐色土
4層 黒褐色土（黄褐色土粒多量含）
P-6
1層 黑褐色土（黄褐色土粒少量含）
2層 黑褐色土（黄褐色土粒少量含）
3層 暗褐色土（黄褐色土ブロック多量含）
4層 黑褐色土（黄褐色土粒含）
5層 黑褐色土（黄褐色土ブロック多量含）

2号・3号溝



- 2号溝覆土注
1層 黑褐色土
2層 黑褐色土
3層 暗褐色土（黄褐色土ブロック・粒極少量含）
4層 淡褐色土（黄褐色土ブロック含）
5層 暗褐色土（黄褐色土ブロック多量含）

- 3号溝覆土注
1層 黑褐色土（黄褐色土ブロック・焼土粒少量含）
2層 暗褐色砂質土（黄褐色土ブロック・焼土粒・炭化物粒少量含）
3層 暗褐色土（黄褐色土ブロック多量含）



第11図 3号樋跡、2号・3号溝実測図 (S=1/60)

3号土坑

1区西端で一部検出された側丸形の土坑で、径176cm、深さ98cmを測る土坑である。5号竪穴住居跡の範囲内で検出されているが、切り合ひからみて、5号竪穴住居跡よりも新しいと考えられる。形態は比較的平面が直立し、底面はフラットだが、北よりが1段低くなっている。それは最下層が堆積した段階で一度掘り直した時のものであろう。出土遺物はなく、時期は確定できない。

第5項 溝

1号溝

4区西で検出された南北にはしる溝だが、長さ3m程を確認したに過ぎず、殆どを前述の2号竪穴住居跡の構築時に削平されたものと推察する。幅約80cm、深さ約10cmを測る。若干南へ下っているようではあるが、2号竪穴住居跡とプランが重なっており、確定はできない。遺物は下底面より、弥生時代中期の土器がまとまって出土しており、その時期の遺構と思われる。

2号溝と3号溝

5区、6区にまたがる地点で、調査区外にまで伸びている溝で、2号溝は比較的フラットな面を検出しているので確定できないが、3号溝は南東から北西に向けて流れている。2号溝は確認面で、幅約50cm、深さ約4cm、3号溝も同じく確認面で、幅約88cm、深さ約13cmを測り、3号溝の方が大きく深い。両者の前後関係は、断面図上では捉える事が出来ないが、両者とも確認面より上からの掘り込みであったことが認められ、復元すると、2号溝は幅約164cm（直行したアゼではないため実際は若干狭い）、深さ約28cm、3号溝は幅約120cm、深さ約30cmの規模をもつ溝である。また、共通する特徴として、両者とも著しく規模を小さくするが、溝が殆ど埋まった段階で、掘り直されていることが上げられる。遺物は、2号溝は少なく、須恵器、土師器の細片が主だが、出土した須恵器片の殆どが未還元で赤褐色を呈していた。3号溝からは多量に出土しており、須恵器壺や、土師器碗（赤彩あり）等食器具の割合が大きい。時期は2号溝・3号溝とともにIV-2古期頃に比定でき、両者は同時並存していた可能性が高い。ただし、3号溝からはV-1期頃の須恵器もまとめて見られることから、それが掘り直した溝の時期にあたる可能性がある。

第6項 土器だまり

11区南東端部の約1m×1mの範囲より、土器だまりが検出されている。おそらく、土坑が削平されたものと推察される。半裁された須恵器提瓶が出土している。その時期はI-2期頃だが、時期幅のある遺物が混在するため、時期の特定はできない。

第2節 平成7年度の調査

第1項 調査区について

遺跡範囲のはば全城に東西南北に設定された調査区である。古代を中心とする遺構を検出した（遺物は弥生～中世まで出土）。竪穴状遺構（住居かどうかは個々に判断する）5基、掘建柱建跡1棟、土坑4基、井戸2基、溝11基を検出している。遺構は、全ての調査区より高い密度で検出されているが、竪穴状遺構、掘建柱建物は全て2地区中央より西に検出された谷堆積より東に検出されている。特に、2号竪穴状遺構からは、まとまって廃棄された鉱滓等鍛冶関連遺物が多量に出土している。また、その周辺にのみ鉱滓等が多量に集中して見られることから、2号竪穴状遺構周辺に鍛冶工房関連の遺構が集中して存在するものと想定される。ただし、これらのこととは、幅1mという調査区の制約もあり、トレンチに掛からなかつたという可能性もある。また、住居が検出されなかった3～5地区には井戸2基が存在しており、居住城には含まれていたようである。

谷堆積部分では、遺構が全く検出出来なかった。しかし、今回の幅1mの調査では、遺構が存在しないとは断言出来ない。また、この谷堆積が始まる手前の2地区E区からは、大量の遺物が出土しており、この調査区内で最も出土量が多い。

遺構の時期については前節同様、田嶋 明人氏の編年案（1）に基づいて述べる。

第2項 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構

1地区H区東端で、西側縁辺部を検出した。竪穴内部のP-1は柱穴のひとつと考えられ、竪穴住居跡と判断する。

主軸はN-11-Eで、形態は主柱穴が壁によるタイプなので、方形プランと予想される。壁高は確認高で10cmである。主柱穴の径は、50cm以上で、深さは約30cmを測る。

覆土は、黒褐色の粘質土で、壁外のピットまで一気に埋まっており、このピットも1号竪穴住居跡の上屋構造に関係がある可能性がある。

遺物は殆どが土器類で、須恵器・土師器が出土している。須恵器の壺、蓋がやや目立つ。その時期はⅣ-2新～V-1期頃に位置付けられる。その他製鉄関連遺物として、鉱滓が6個体出土している。

2号竪穴状遺構

1地区C・D区にまたがり、検出された掘り込みで、貼床が確認されたことから竪穴住居跡と認定した。確認幅で580cmと大きなもので、壁の立ち上がりも約20cm程度確認できている。

主軸はN-11-Eを測る。

覆土は焼土ブロック、炭化物粒を含む黒色粘質土と、黒褐色粘質土が水平に堆積している。

遺物は、土器類では須恵器、土師器があり、その数は他の遺構に比べて突出して多い。特に、須恵器の片口と、土師器片が非常に多い。また、2層より鍛冶関連遺物がまとまって廃棄された状態で大量に出土しており、輪の羽口片が95片、鉱滓が1055固体出土しており、全体の割合で見れば、95%以上を占めている。また、金床石の破片也非常に多い。これは、この竪穴住居跡が廃絶した後に、その宿みに鍛冶工房での不要物を廃棄したものと考えられ、周辺に大規模な鍛冶工房の存在が想定出来る。出土遺物の時期幅は広く、I-2期、II-3期、IV-2古期、V-1期のものが認められている。住居の下層遺物がII-3期

頃で、住居の廃絶時と考えられる。その後、鍛冶関連遺物が廃棄されたと考えられるがその時期は、Ⅳ—2古期・Ⅴ—1期の遺物が混在しているため断定は出来ない。

3号竪穴状遺構

1地区G区で南側が検出された竪穴状遺構の一部だが、主柱穴は確認できない。形態は隅丸方形と考えられる。床面が非常に良く焼けており、貼床の下まで焼けており、かなり強い火を使ったことが伺える。確認幅で180cmを測る。壁高は6cmしか残存しておらず、黒褐色粘質土の覆度が僅かに認められた。主軸はN-13-Eである。

遺物は少なめだが、床面より土師器鍋の約20cm角の破片がその場に敷かれたように出土している。その破片より時期はⅢ期頃と想定する。比熱範囲が広く、壁面にも一部認められており、土師器の焼成坑である可能性が高い。

4号竪穴状遺構

2地区H区東端で検出された竪穴住居跡で、それとはっきり分かる唯一の遺構である。南西隅部を検出しており、内部でピット3基を確認した。その内P-1、P-2が主柱穴と考えられる。形態は隅丸方形と考えられ、4本主柱を持つタイプと想定できる。

主軸はN-25-Eで、確認最大長で364cmを測り、壁高は、約20cm確認している

柱間寸法はP-1～P-2間224cmを測り、P-1は1辺が50cm深さ40cm、P-2は1辺が62cm深さ34cmで、方形である。覆度も黒褐色粘質土で、同じ様に埋められている。

住居の覆土は、幾重にも重なるように検出されており、住居廃絶後に一気に埋められたものと考えられる。遺物も非常に少なく廃絶前に引き抜かれた可能性がある。また、鍛冶関連遺物として僅かながら鉛津が2固体出土している。

時期は、須恵器・土師器の細片のみで確定できない。

5号竪穴状遺構

2地区E区南端で検出された竪穴状遺構で、北辺の部分だけであるが、P-1～2が主柱穴と想定され、竪穴住居跡と判断される。

主軸はN-9-Eで、形態は方形と考えられ、北辺長が260cm、壁高は20cmを測る。柱間寸法は242cmで、P-1は径30cm深さ14cm、P-2は径25cm深さ26cmを測る。

覆土は、黒褐色粘質土で平均に埋まっている。

遺物の出土はなく、時期は確定できない。

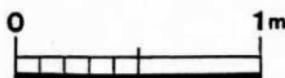
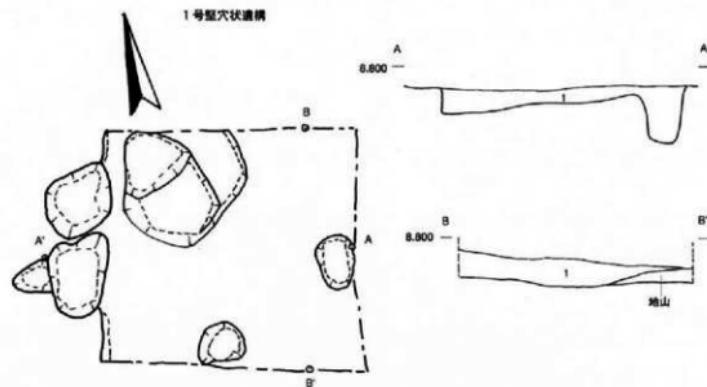
第3項 挖建柱建物跡

掘建柱建物跡は1地区G区で1棟確認されており、2間の柱列1つのみ検出している。柱穴の大きさもほぼ45cm前後で中央の柱穴は約40cmとやや小さい。平均柱間寸法は135cmである。遺物は須恵器、土師器の小片が少量認められるが、時期は確定できない。主軸はN-11-Eで、1・2号竪穴状遺構と同じである。

第4項 井戸

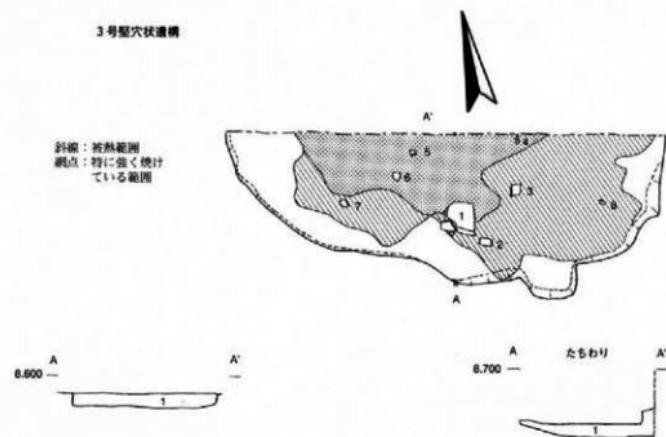
1号井戸

4地区A区検出された、掘り込みである。円筒形に落ち込む部分があることと、調査時に底から水が湧き出したことから、井戸と判断した。形は椭円形が想定される。非常に複雑な掘り込みを呈し、井戸廃棄時にかなり破壊を受けているものと考えられる。確認した規模は幅134cm、円筒形の部分の幅が54cmで、深



1号型穴状遺構覆土注
1層 7.5YR3/2 黒褐色粘質土(炭化物粒極少量含)

3号型穴状遺構



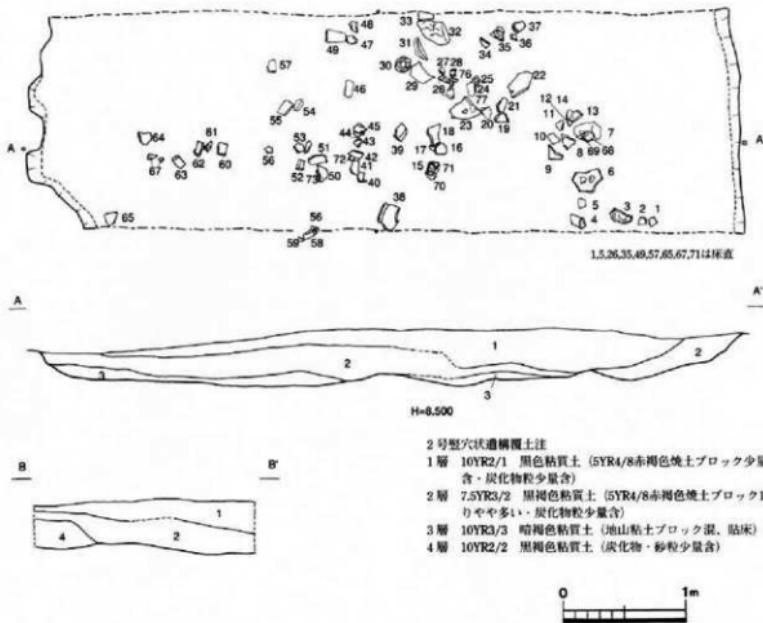
3号型穴状遺構覆土注
1層 7.5YR3/2 黒褐色粘質土(5YR4/8赤褐色燒土ブロック、炭化物粒少量含)

3号型穴状遺構貼床土注
1層 7.5YR6/6 褐色燒土・5YR4/8赤褐色燒土ブロック混入(炭化物ブロック含)

第12図 1号・3号型穴状遺構実測図 (S=1/20)

2号型穴状遺構（下層出土状況図）

74は欠



第13図 2号型穴状遺構実測図 (S=1/40)

さは約100cm程度である。

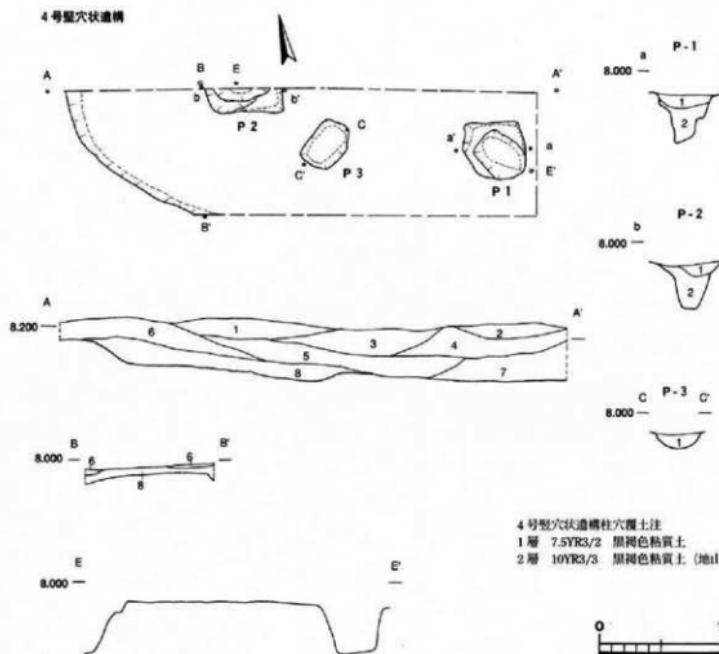
覆土は黒褐色粘質上で埋まっているが、最下層が埋まった後に、一度掘り直している可能性がある。出土遺物はなく、時期は確定できない。

2号井戸

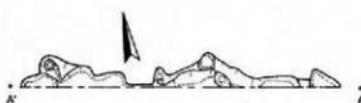
3地区E区で約半分検出された楕円形の土坑で、掘方の長径280cmを測る大型の井戸である。これも、湧水が非常に激しく、その影響で壁が崩れて非常に危険な状態となつたため、約2m掘り下げたところで調査を断念して埋め戻した。そこまで掘った段階でも井戸枠は確認できなかった。

遺物は、須恵器壺のみで、土師器が全く含まれていなかつた。特に須恵器の甕の破片が多い。時期はIV-

4号堅穴状遺構



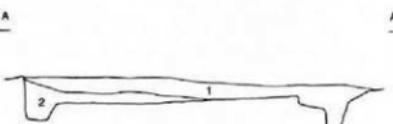
5号堅穴状遺構



5号堅穴状遺構柱穴覆土注

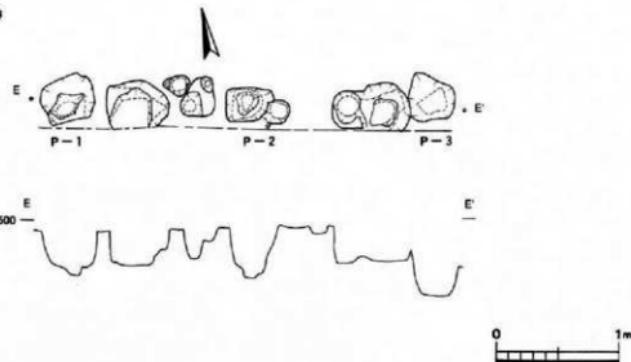
1層 10YR2/2 黑褐色粘質土 (縄まり弱い)

2層 10YR3/3 黑褐色粘質土

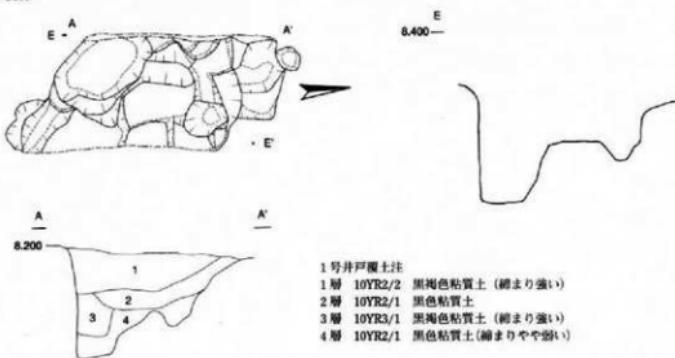


第14図 4号・5号堅穴状遺構実測図 (S=1/40)

1号掘立柱建物跡



1号井戸



第15図 1号掘立柱建物跡・1号井戸実測図 (S=1/40)

2古期頃と考えられる。

第5項 土坑

1号土坑

1地区G区で南半分のみ検出された、小型の掘り込みである。形は梢円形が想定される。規模は直径約106cm程で、深さは約20cm程度を測る。

覆土は、黒褐色の粘質土で埋まっていたが、南側の壁際の一部が、地山の粘土そのもので埋められていた。

出土遺物は非常に少なく、須恵器、土師器細片のみである。時期は特定出来ない。

2号土坑

1地区F区で検出された椭円形の土坑で、浅い掘り込みの中央に深い落ち込みがある。長径94cm、深さは、深い部分で約30cm浅い部分で約10cmを測る。

覆土は大部分を黒褐色粘質土の第1層により埋められている。

遺物は殆ど出土しておらず、土師器細片が僅かと弥生中期の甕があるが、その時期は確定できない。

3号土坑

1地区F区で検出された隅丸形の土坑で、径72cm、深さ約20cmを測る。一部東側の方が落ち込んでいる。覆土は黒褐色粘質土1層のみである。出土遺物は殆ど細片のみで、時期は確定できない。

4号土坑

1地区E・F区で検出された、大型の掘り込みである。内部は非常に複雑な掘り込みを呈し、全体の形は想定できない。規模は長径約292cmで、深さは約70cm程度を測る。

覆土は、基本的には黒褐色の粘質土で埋まっていたが、全体にどの層でも焼土や炭化物のブロックや粒を多く含んでいるのが特徴で、特に第4層と第5層では、大きな鈍い黄橙色の粘土ブロックを処々に確認された。

出土遺物は土坑の中では突出して多く、その中でも須恵器壺、壺蓋、土師器斐片が目立つ。また、製鉄関連遺物として、鉛滓が15固体出土しており、検出遺構の中では2番目に多い出土量である。

時期は、IV-1期頃が想定される。その性格は、いわゆるゴミ捨て穴と考えられ、前述の粘土ブロックは、竪穴住居に関連した施設の可能性がある。

第6項 溝

1号溝

1地区G区で検出された南北にはしる溝である。幅約60cm、深さ約10cmを測る。南側が1段下がり深さ約20cmを測る。

覆土は、溝部分は黒褐色粘質土一層で埋まっている。

遺物の出土量は少ないが、須恵器の盤が出土しており、その時期によるとV-1期頃と考えられる。

2号溝

1地区A区で検出された南北にはしる溝である。幅約50cm、深さ約24cmを測る。南側が1段下がり深さ約20cmを測る。中央部がより深く落ち込んだ形態をとる。

覆土は、黒褐色粘質土で埋まっている。

遺物は出土しておらず、時期は確定できない。

3号溝

1地区F区で検出された東西にはしる溝である。確認幅で約30cm、深さ約26cmを測る。東方に伸びると思われるが、遺構の重複により確認できなかった。

覆土は、溝部分は黒褐色粘質土一層で埋まっているが、焼土や炭化物のブロックを多く含んでいる。

遺物の出土量は少なく、時期は確定できないが、切り合いで、4号土坑より新しいと言える。

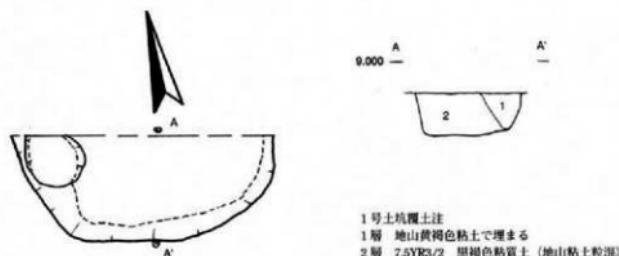
4号溝

2地区A区で検出された東西にはしる溝である。幅約20cm、深さ約5cm程度の浅いものである。

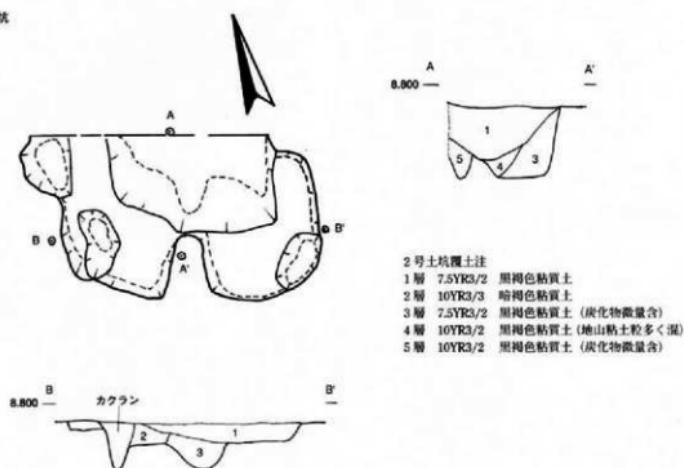
覆土は、黒褐色粘質土で埋まっている。

遺物の出土量は他の溝に比べ多く、須恵器の壺片が出土しており、その時期によるとII-3期頃と考えられる。

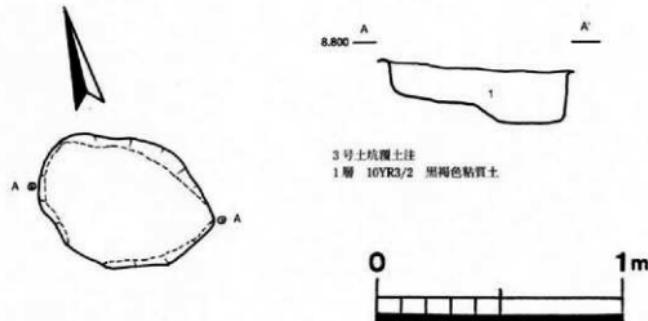
1号土坑



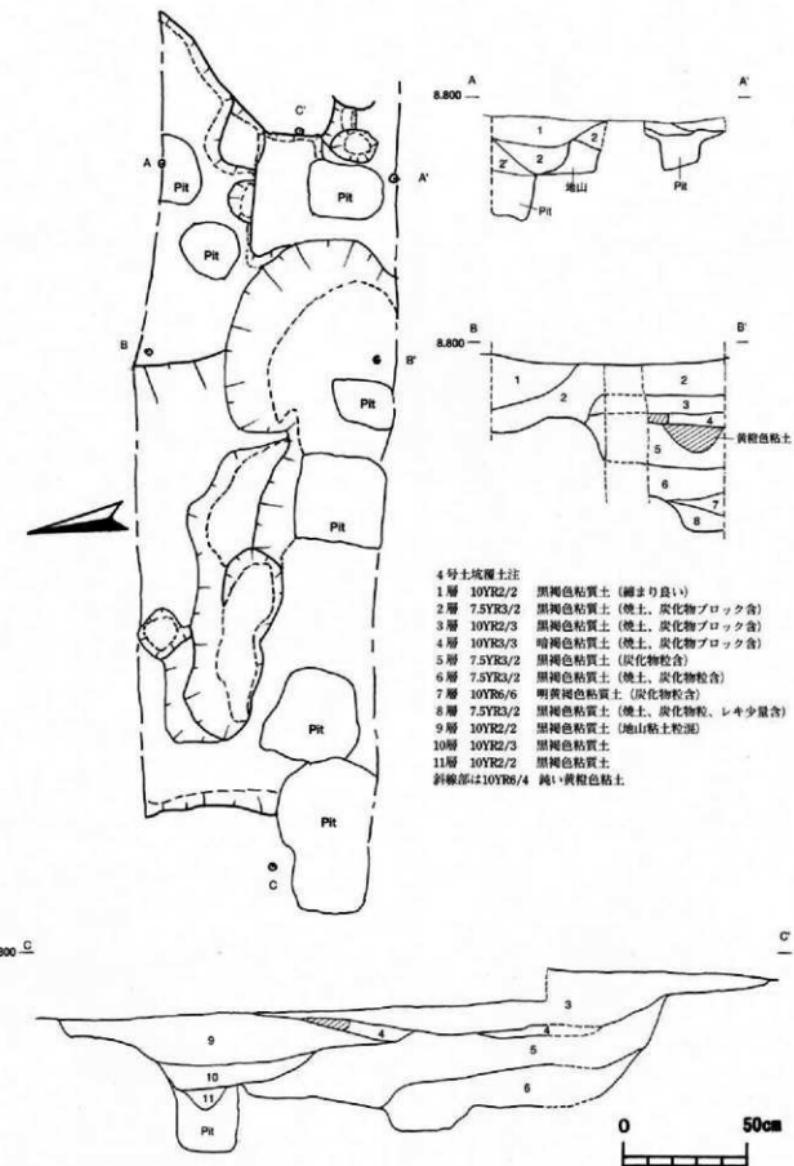
2号土坑



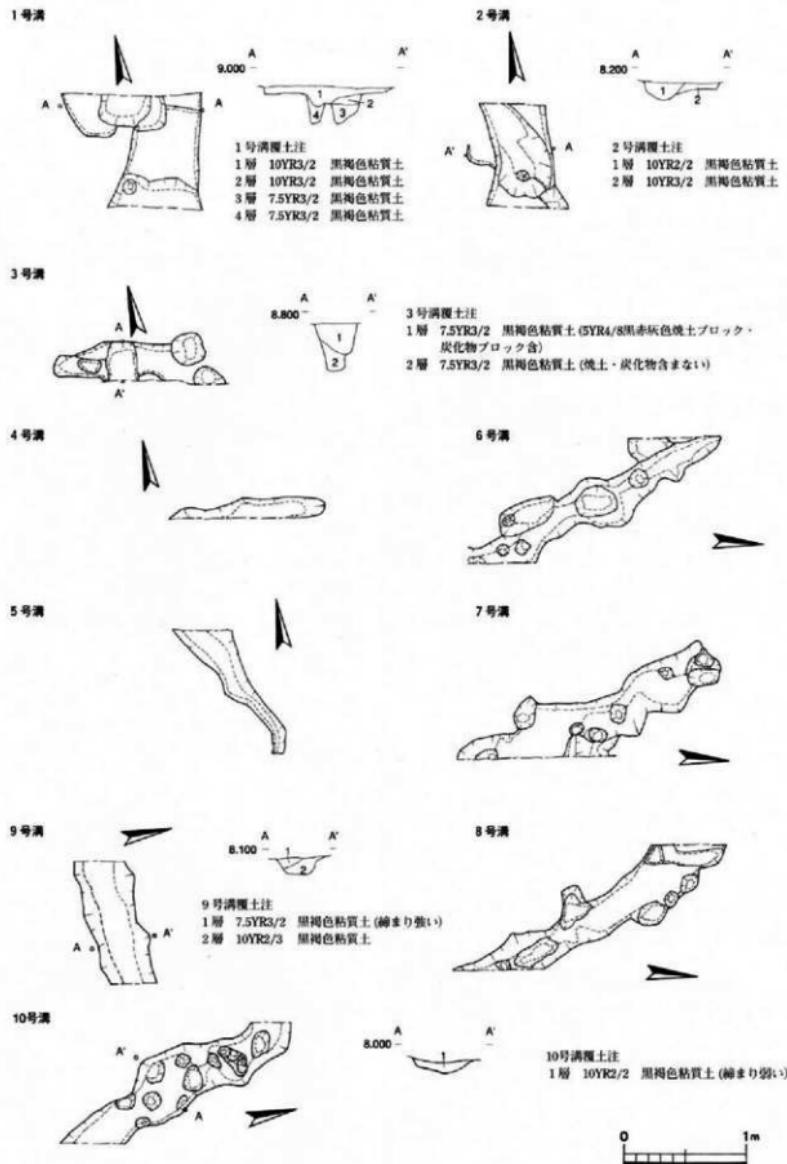
3号土坑



第16図 1号・2号・3号土坑実測図 (S=1/20)



第17図 4号土坑実測図 (S=1/20)



第18図 1~10号溝実測図 (S=1/40)

5号溝

3地区B区で検出された南北にはしる溝である。最大幅約50cm、最小幅約10cmと南へ行くほど細くなっている。深さは約8cmを測る。

覆土は、黒褐色粘質土で埋まっている。

遺物の出土しておらず、時期は確定できない。

6号溝～8号溝

4地区E・F区で検出された北西から南西にはしる溝である。6号溝は、幅約30cm、深さ約10cm、7号溝は、幅約40cm、深さ約10cm、8号溝は、幅約30cm、深さ約10cmを測る。

どの溝からも遺物は出土しておらず、時期は確定できない。また、形もいびつなため、風倒木痕である可能性が高い。

9号溝

5地区A区で検出された東西にはしる溝である。幅約40cm、深さ約24cmを測る。東から西に向かって下っている。

覆土は、黒褐色粘質土で埋まっている。

遺物の出土量は非常に少なく時期は確定できないが、IV-2期頃の須恵器の坏片が出土している。

10号溝

5地区G区で検出された北西から南西にはしる溝である。幅約50cm、深さ約10cmを測る。

覆土は、黒褐色粘質土で埋まっている。

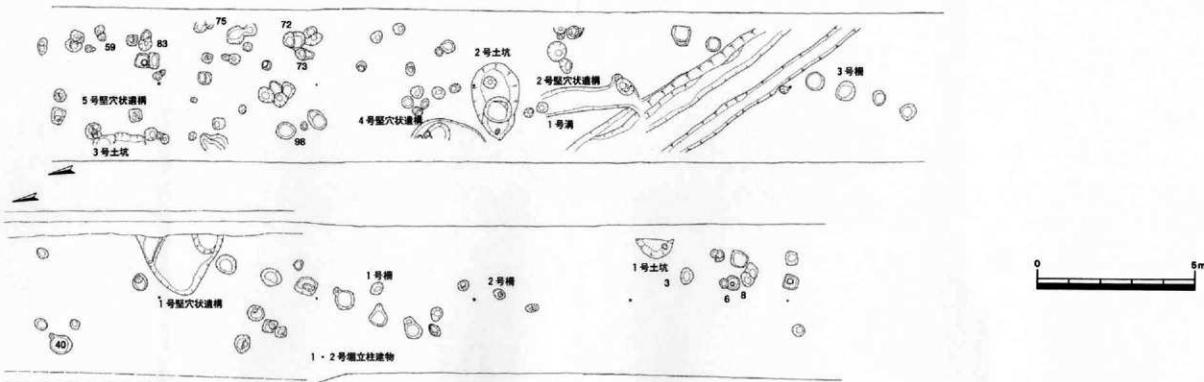
遺物は出土しておらず、時期は確定できない。また、形もややいびつで、前述の6号溝～8号溝と同じ方向であるため、風倒木痕の可能性も考えられる。

注 (1) 田嶋 明人「古代編年軸の設定」「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題（報告編）」
(北陸古代土器研究会 1988)

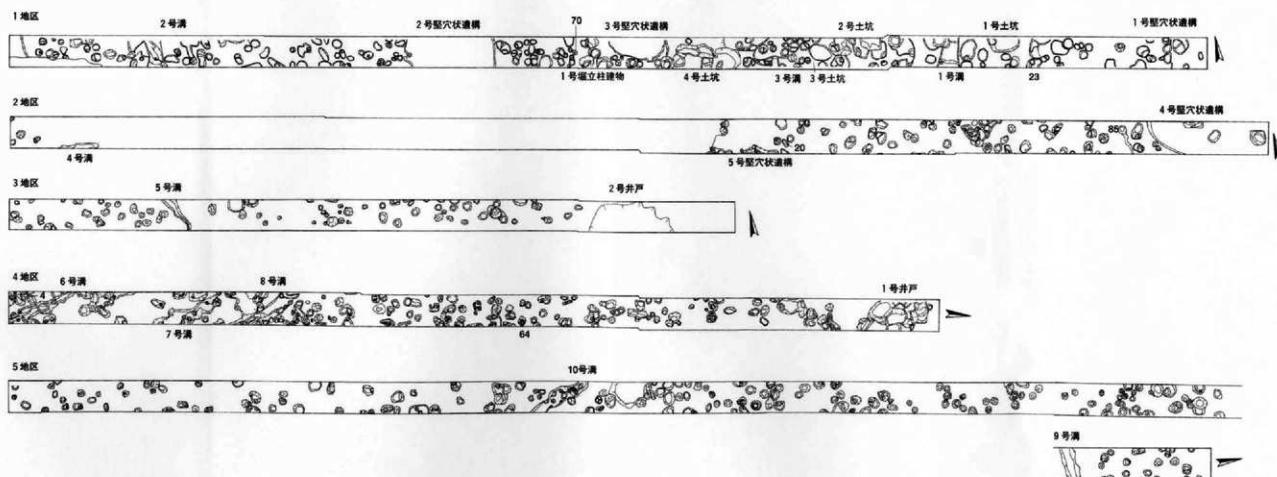
第1表 挖建柱建物跡・柵跡計測表

() 内は現存値、欄は桁行の欄に記入

造構番号	地 区	調査 年次	桁 行	梁 間	桁行 (m)		梁間 (m)		方 位	時 期
					全長	柱 間	全長	柱 間		
S B 1	8区	S.58	(1)	(1)	(2.5)	2.5	(1.6)	1.6	N34° E	?
S B 2	8区	S.58	(2)	(2)	(4.8)	2.4・2.4	(2.3)	1.1・1.2	N32° E	?
S A 1	8区	S.58	2		4.7	2.6・2.1			N29° E	?
S A 2	9-10区	S.58	2		2.4	1.3・1.1			N33° E	?
S A 3	5-6区	S.58	(5)		7.8	1.1・3.4・1.1・ 1.2・1.0			N32° E	IV2古 ～V1
S B 1	1地区E	H.7		(3)			3.0.	1.5・1.5	N11° E	?



第19图 昭和58年度調査区遺構図 (S=1/120)



第20图 平成7年度調査区遺構図 (S=1/120)

第4章 遺物

第1節 出土遺物について

第1項 はじめに

昭和58年度調査区333m²からパンケース（685×425×160mm）で7箱、平成7年度調査区178.6m²より同じく17箱の遺物が出土した。弥生中期から14世紀代までの非常に広範な遺物を確認している。報告では、出土した遺物を全て図面にすることはできなかったが、できる限り実測図を作成した。遺物は基本的には1／3縮小図で示してあるが、壺・鍋・甕などの大型器種は1／6縮小図で示した。

なお、個々の遺物の説明は、図上および観察表でまとめるにした。遺構出土遺物と包含層遺物とに分け、それぞれ昭和58年度調査区分と平成7年度調査区分とに分けて掲載した。

鍛冶関連遺物については、節を改めて述べることとした。

第2項 土器類・陶磁器類について

器種分類と時期

古墳時代土器 田嶋 明人「IV考察－漆町遺跡出土土器の編年的考察－」「漆町遺跡I」（石川県立埋蔵文化財センター 1986）に基づいている。

古代土器 田嶋 明人「古代編年軸の設定」「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題（報告編）」（北陸古代土器研究会 1988）に基づいている。

中世陶磁器 加賀焼は、宮下 幸夫・田嶋 正和・藤田 邦雄・垣内 光次郎「中世加賀の窯業研究－加賀焼の現状と課題－」「石川考古学研究会誌第33号」（石川考古学研究会 1990）に、青磁類は、上田 秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類」「貿易陶磁研究2」（日本貿易陶磁研究会 1982）に基づいている。

法量

口径、器高、底径（台径）を示した。土錐に関しては口径の欄に長さを、器高の欄に幅を記載してある。

色調

須恵器 焼け具合や還元の程度によって影響されるが、外面の色調を7系統に分類した。

灰色系 やや濃淡差はあるが、一番多く見られる色調。

黒灰色系 黒味が強い色調。

緑灰色系 緑が強い色調。焼が弱いものに多い。

黄灰色系 黄色が強い色調。

青灰色系 青味が強い色調。

灰白色系 白味が強い色調。未還元のもので焼が弱いものが多い。

褐色系 褐色味が強い色調。未還元ではあるが、焼き締まりは強い。

土師器 古墳時代のものと古代のものに対して分類をおこなった。7系統に分かれる。

灰白色系 白味が強い色調。

黄橙色系 濃い黄色の色調。

浅黄橙色系 薄い黄色の色調。

- 淡橙色系 純粹な橙色。
 赤橙色系 濃い赤色の色調。
 褐色系 茶色の濃い色調。

胎土

須恵器と土師器について肉眼により分類した。須恵器はアルファベットの大文字、土師器には小文字で表記した。土師器については、ほぼ小松市南部地区産と推定できるものであるため（望月氏教示）、器表面のザラつくものと、比較的滑らかな質感もつものとにだけ分類した。

中世陶磁器類に関しては、緻密か粗かのみを記した。

須恵器胎土

- A類 南加賀窯跡群産の胎土。砂粒を多く含み、表面がザラザラする。
 B類 南加賀窯跡群産の胎土。砂粒の混入が目立たないもの。
 C類 能美窯跡群産の胎土。砂粒の混入が少なく緻密な胎土。

土師器胎土

- a類 細かな砂粒を多く含むため、器表面がザラザラしている胎土。
 b類 粘土素地をもち、比較的滑らかな質感を示す胎土。

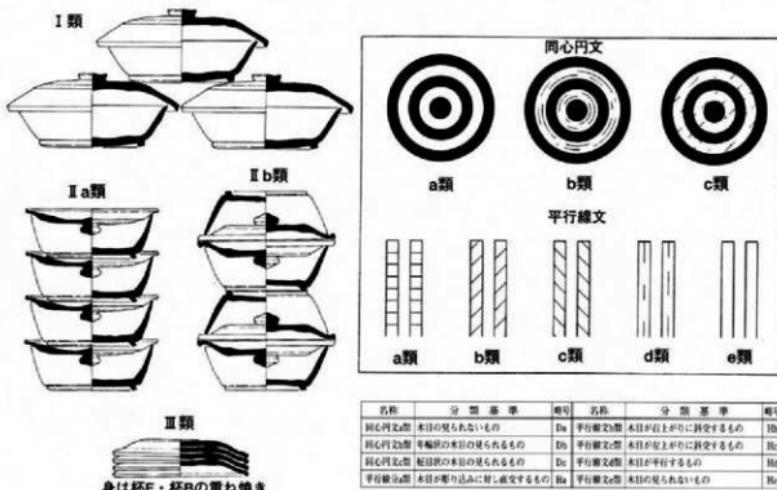
その他

一部該当器種については、図上に以下の記号を付してある。

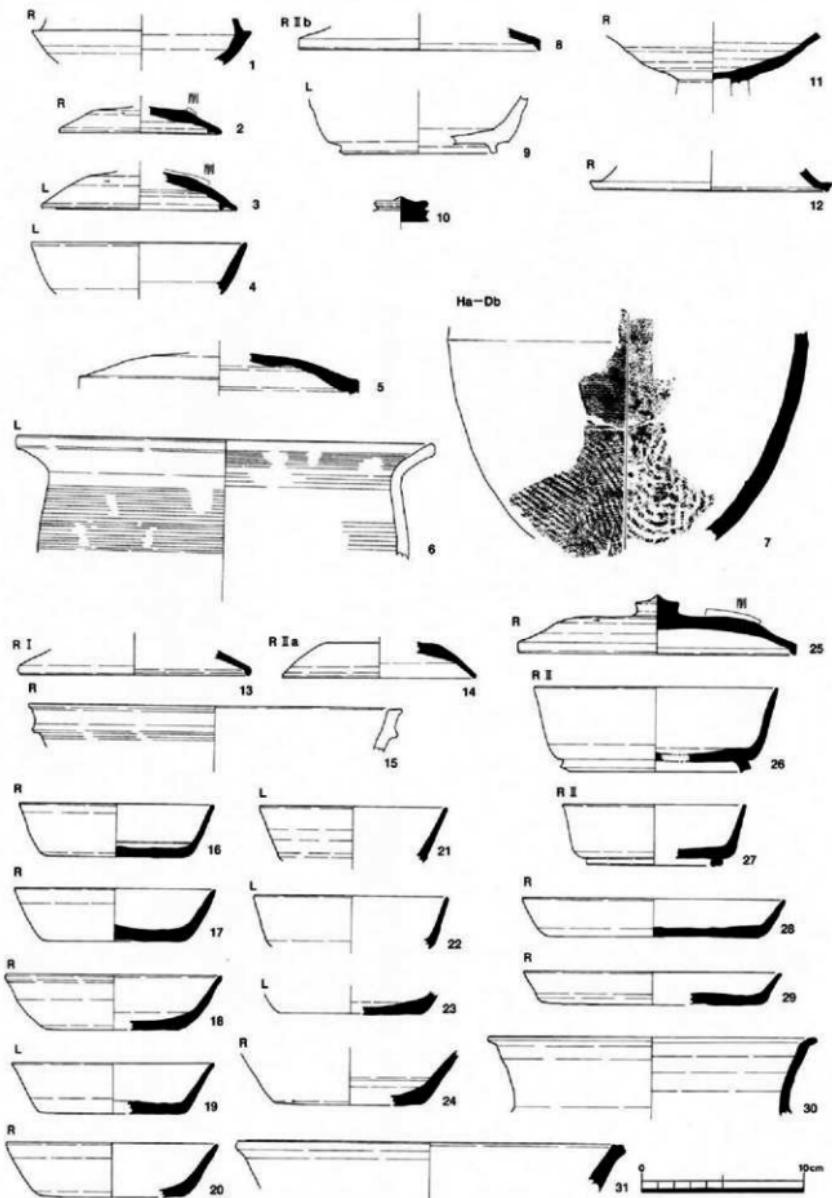
ロクロ成形時の回転方向 右回転を「R」で、左回転を「L」で記した。

坏B蓋の重ね焼痕 北野博司「重ね焼きの観察」「辰口西部遺跡群Ⅰ」（石川県立埋蔵文化財センター 1988）に基づいて提示した。分類図参照。

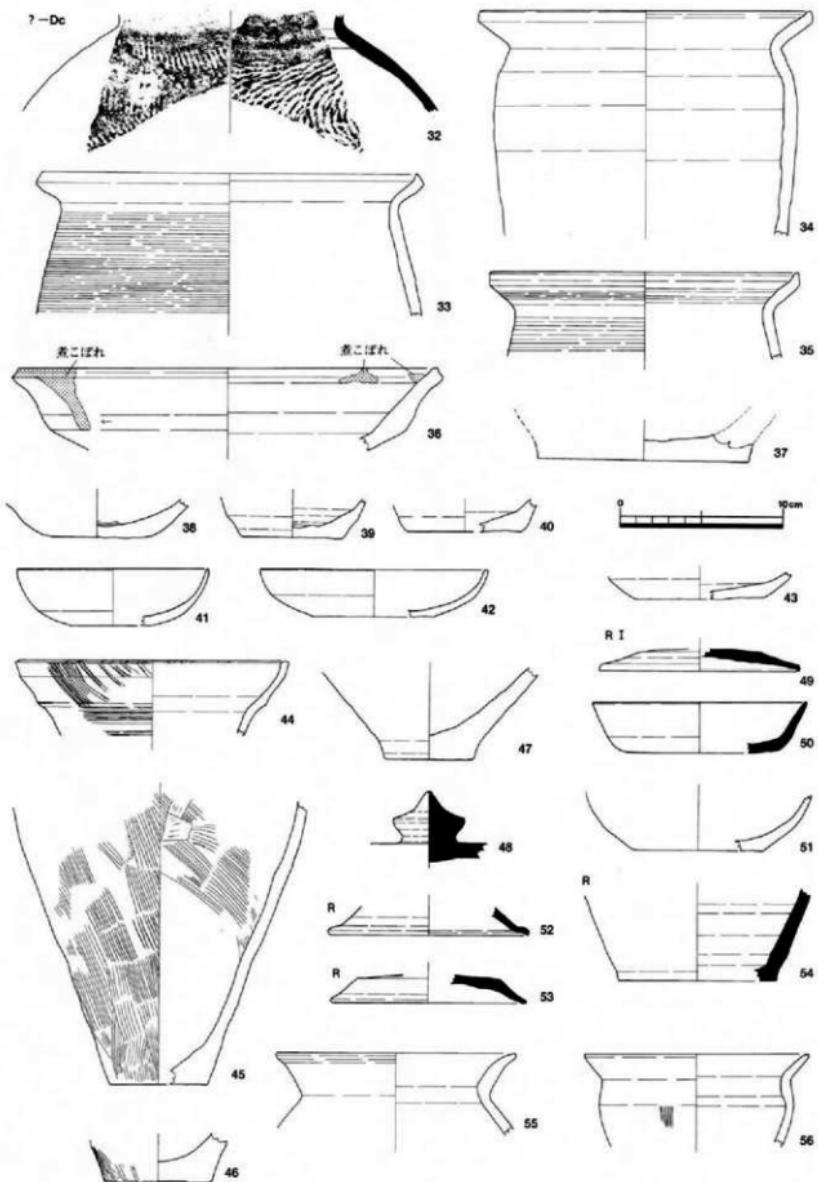
甕類胴部叩き目分類 花塚信雄「叩き目文の原体同定一生産組織の解明に向けてー」「辰口町湯



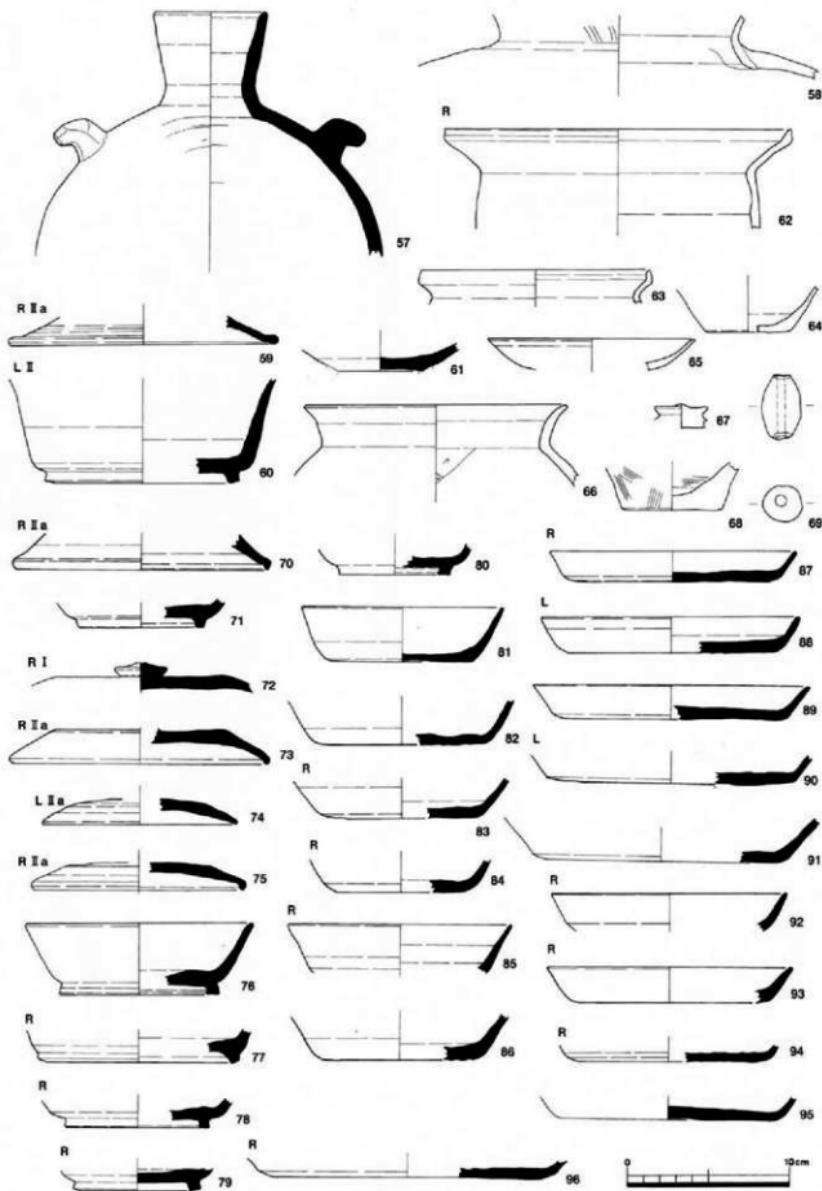
第21図 杯B重ね焼分類・甕類胴部叩き目分類（上記より転載、文字の体裁を変更）



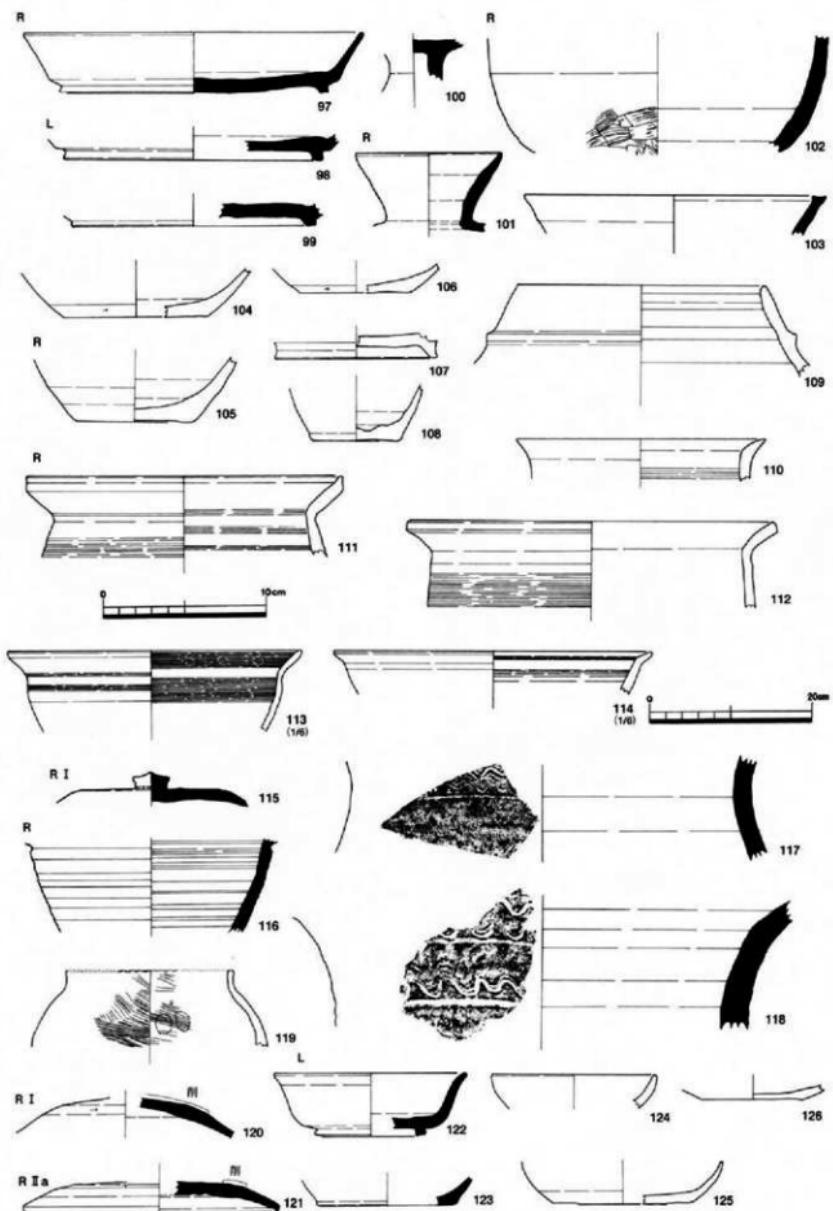
第22図 遺構出土遺物実測図 (昭和58年度調査分 S=1/3)



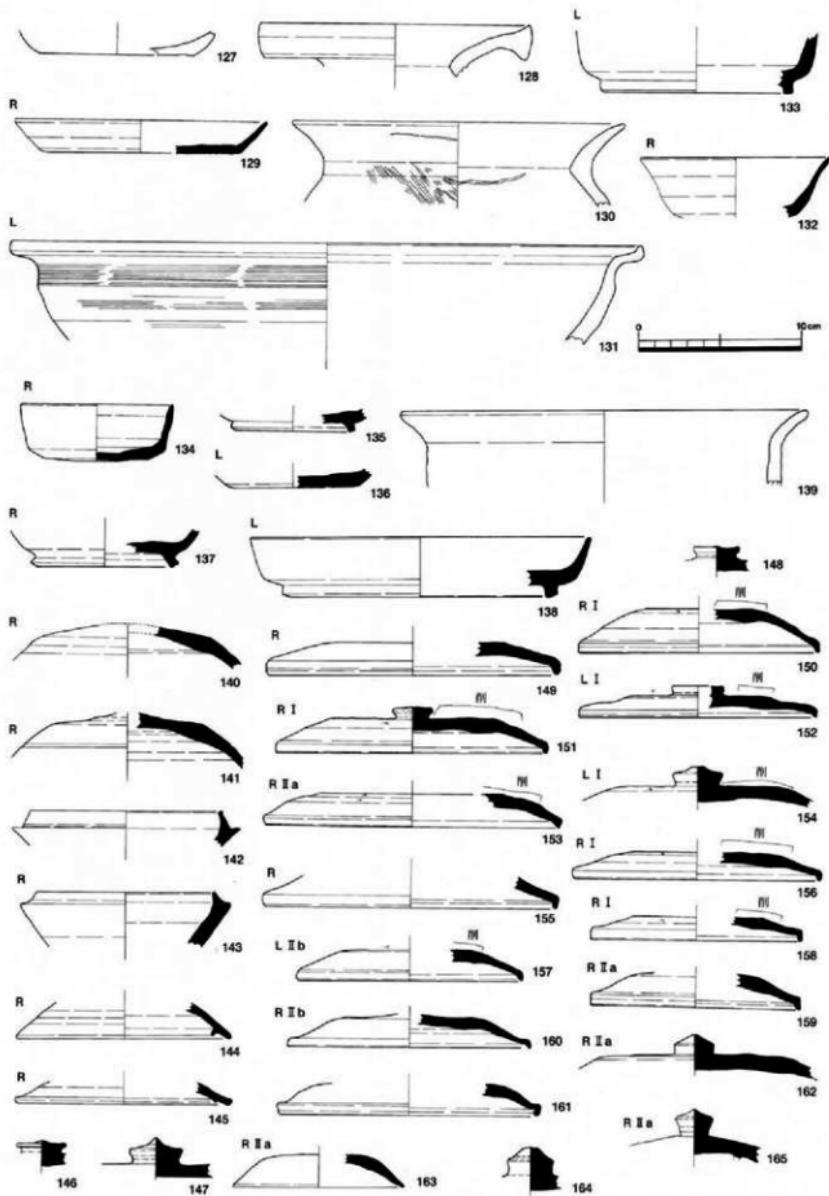
第23図 遺構出土遺物実測図 (昭和58年度調査分 S=1/3)



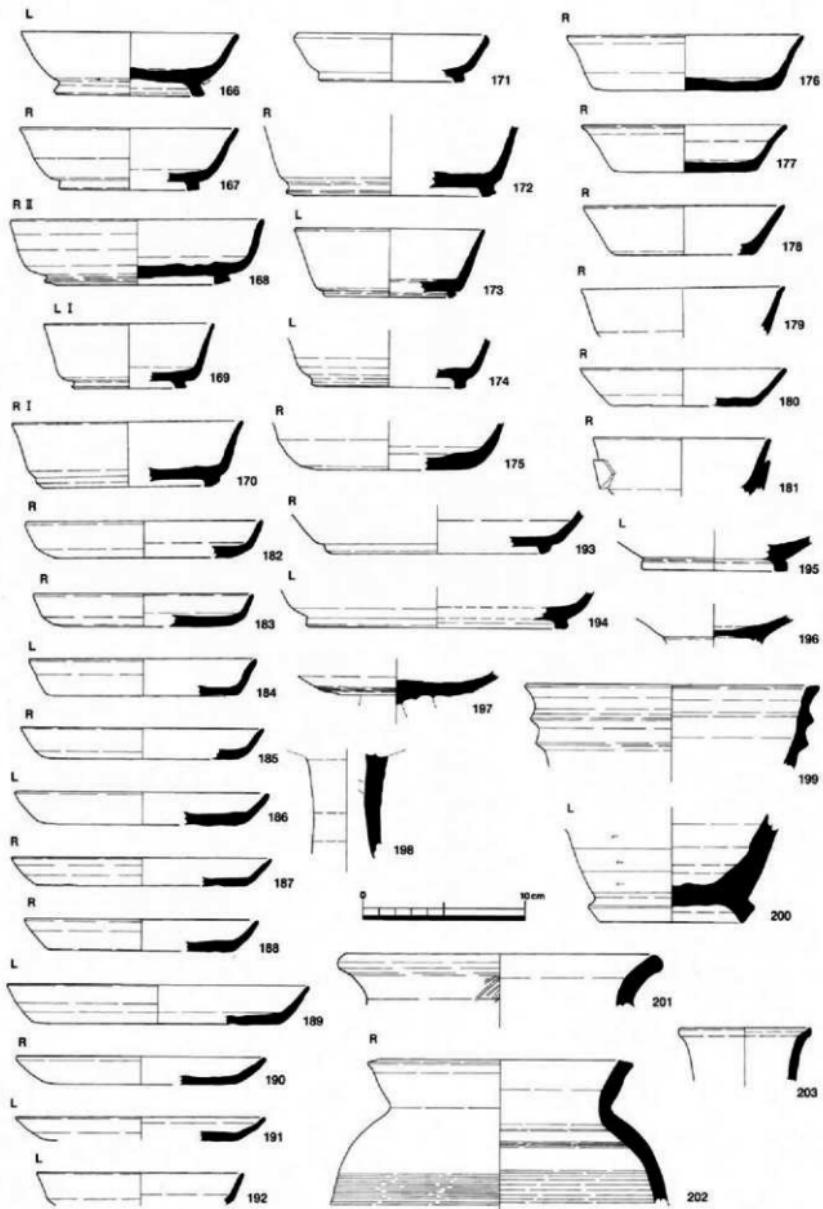
第24図 遺構出土遺物実測図 (昭和58年度・平成7年度調査分 S=1/3)



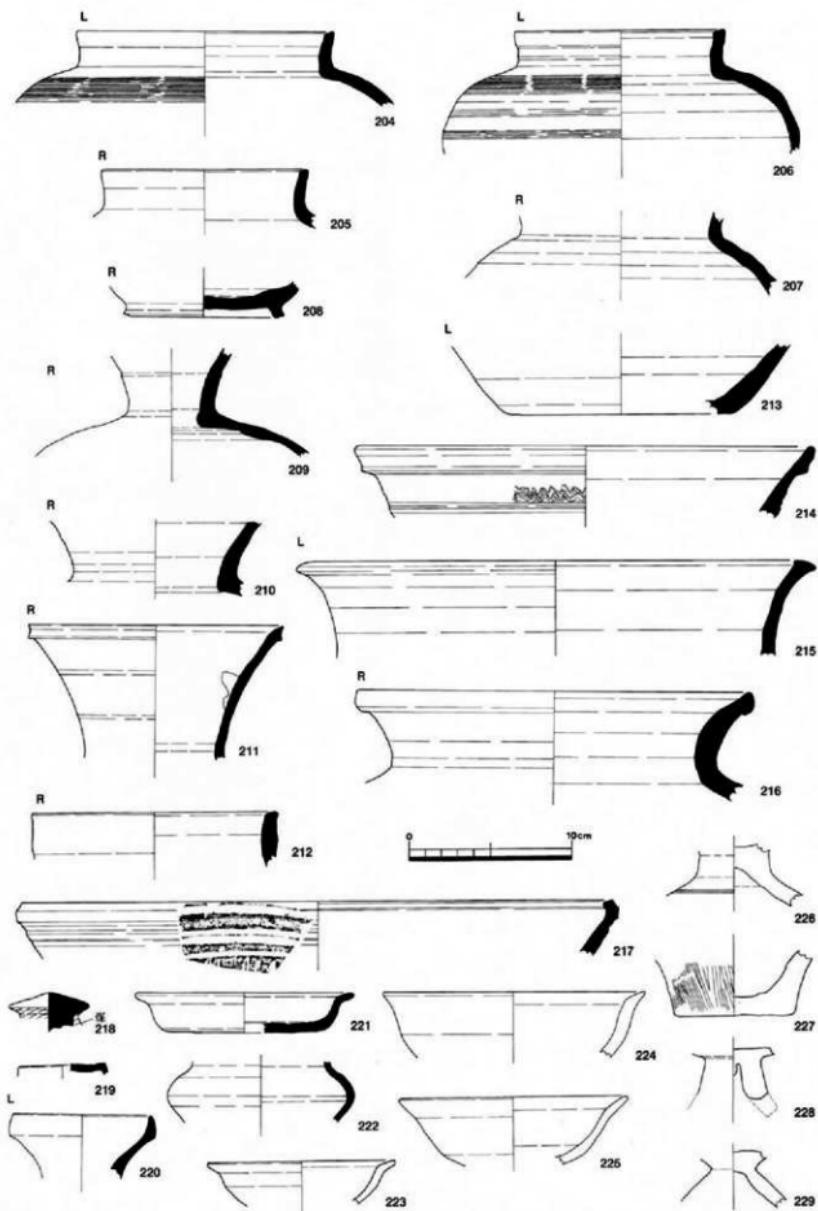
第25図 造構出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3・1/6)



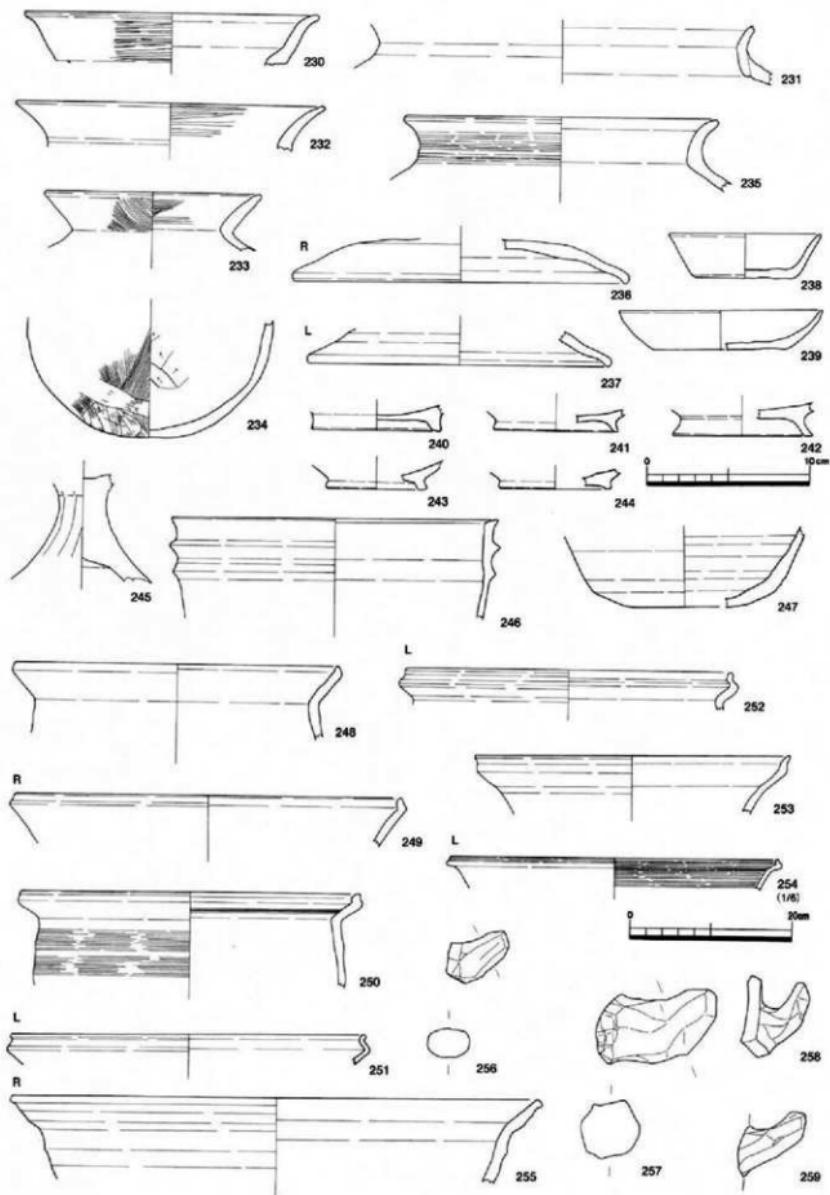
第26図 造構出土及び包含層出土遺物実測図 (平成7年度・昭和58年度調査分 S=1/3)



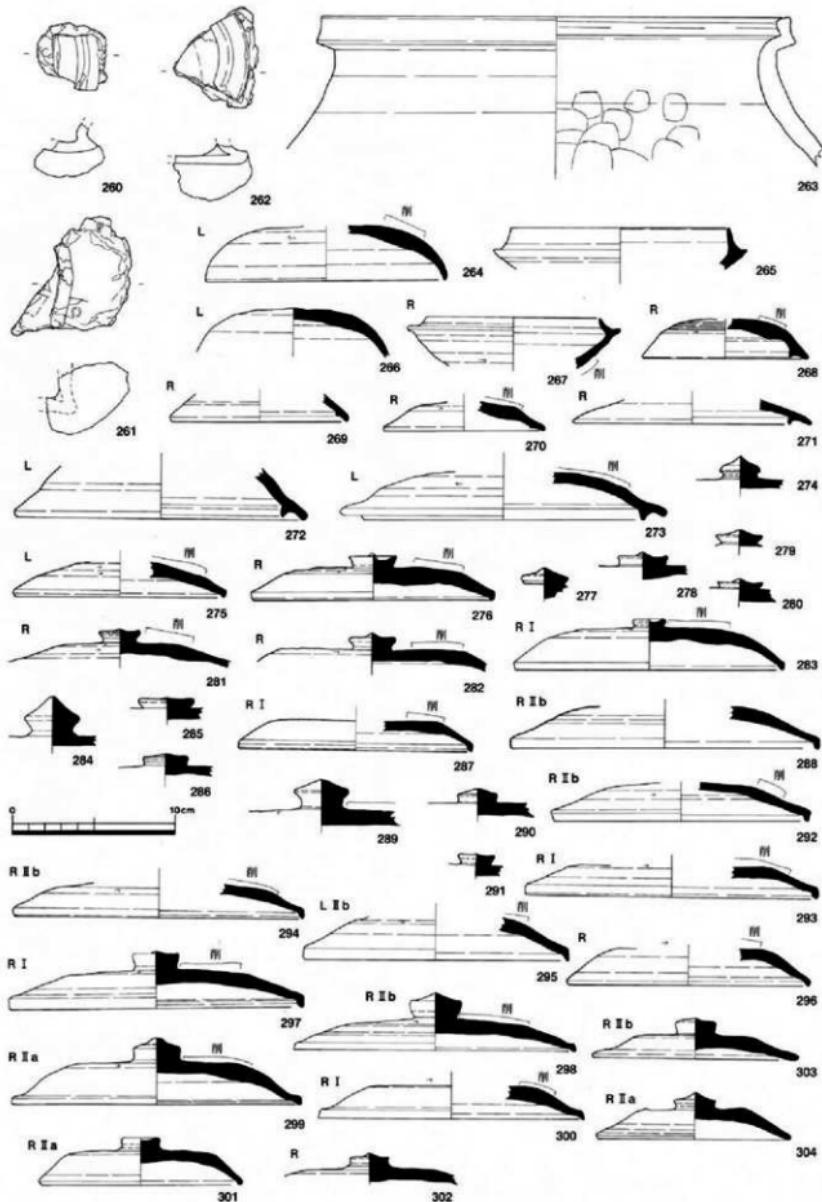
第27図 包含層出土遺物実測図 (昭和58年度調査分 S=1/3)



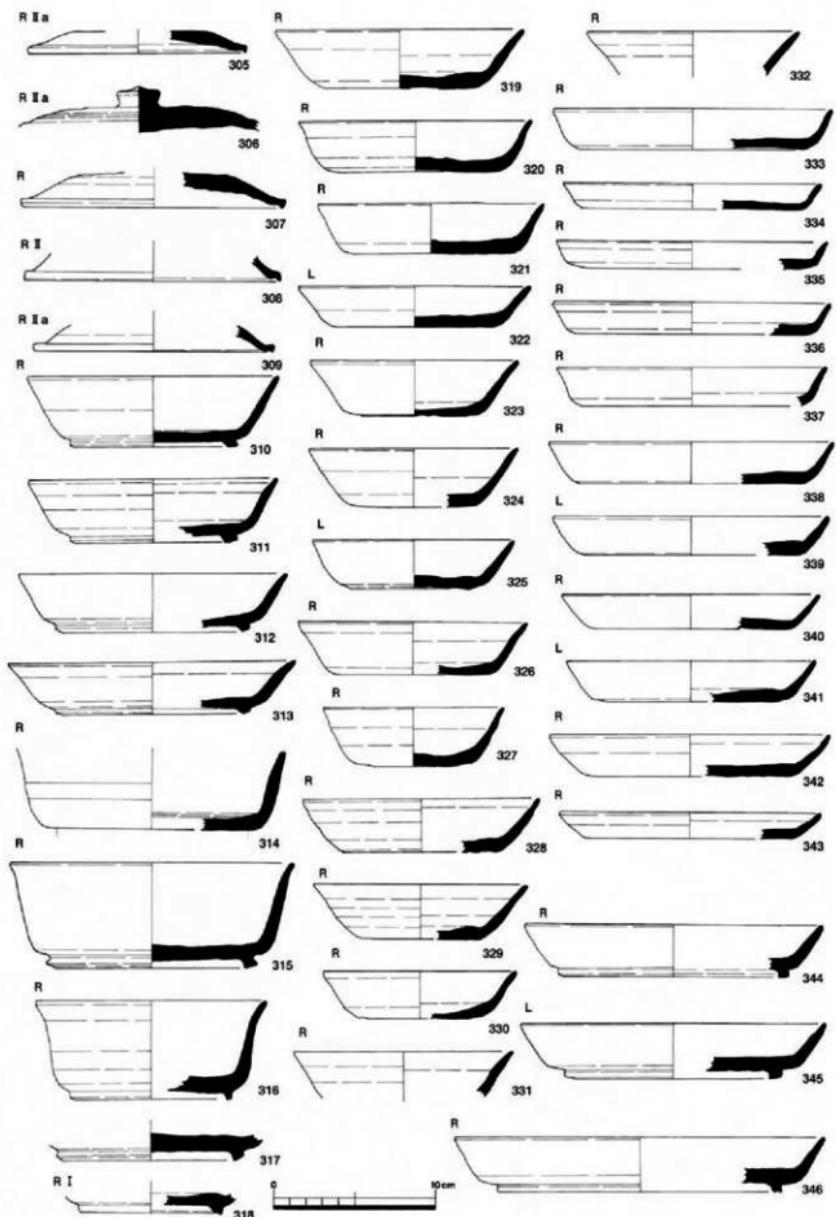
第28図 包含層出土遺物実測図 (昭和58年度調査分 S=1/3)



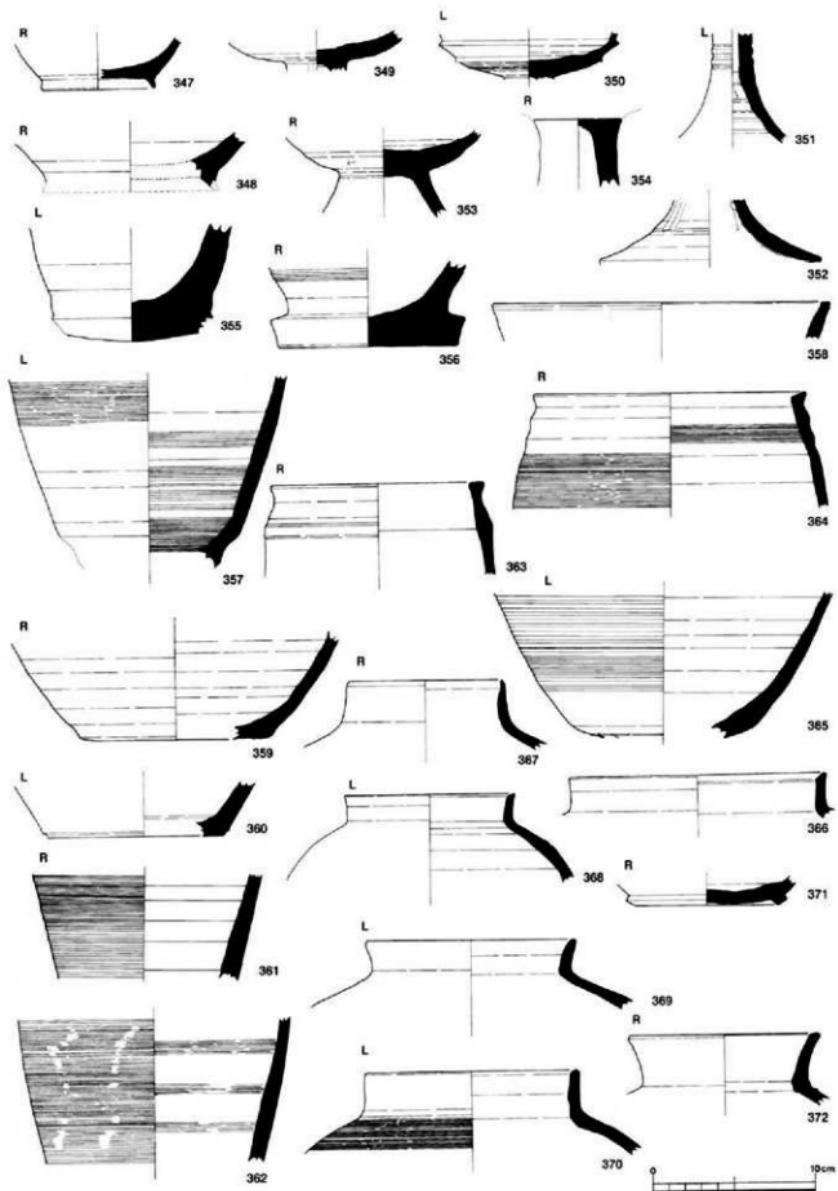
第29図 包含層出土遺物実測図 (昭和58年度調査分 S=1/3・1/6)



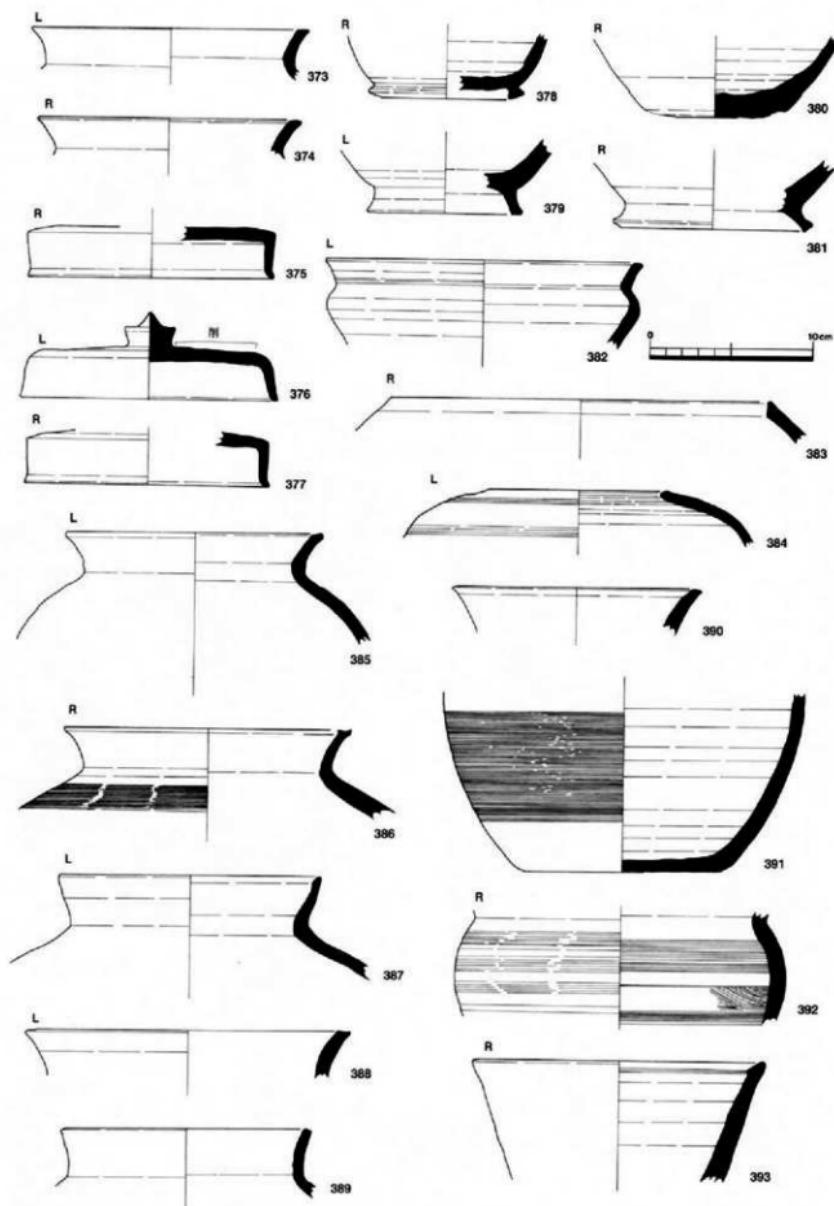
第30図 包含層出土遺物実測図 (昭和58年度・平成7年度調査分 S=1/3)



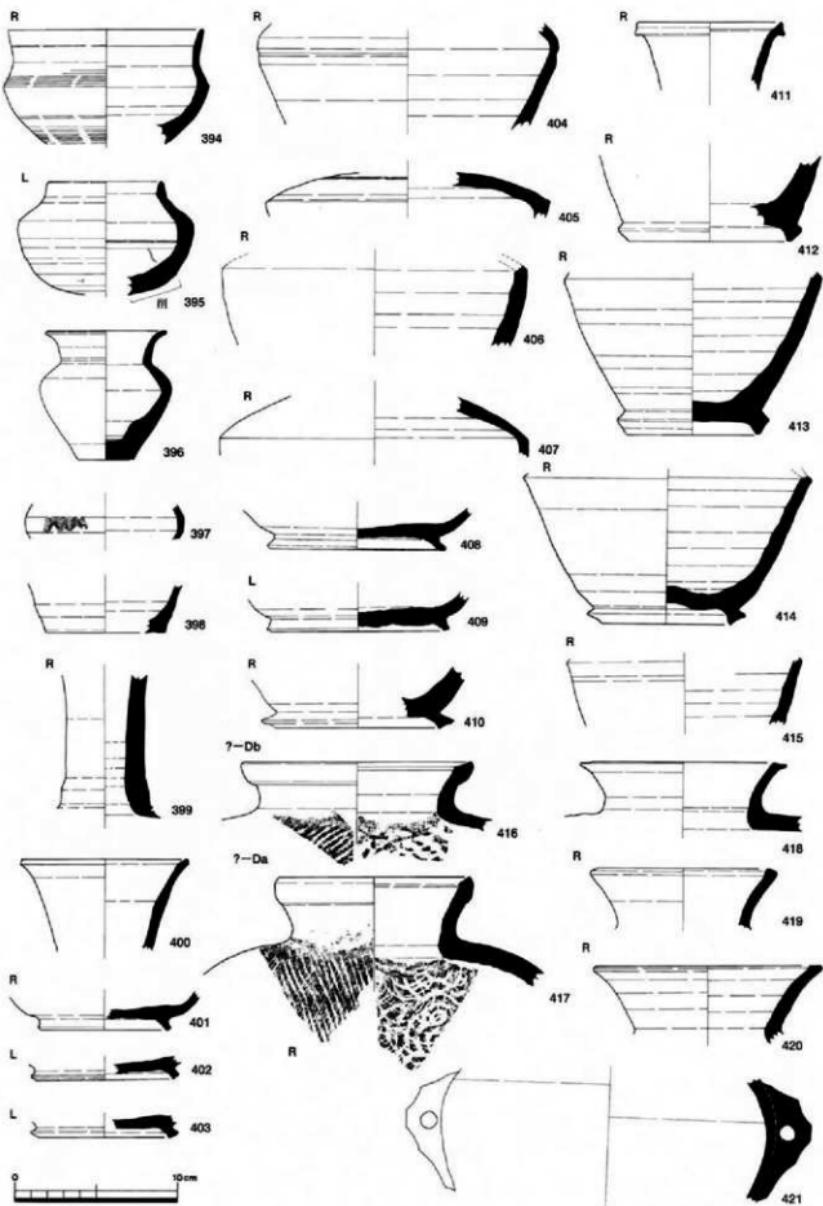
第31図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3)



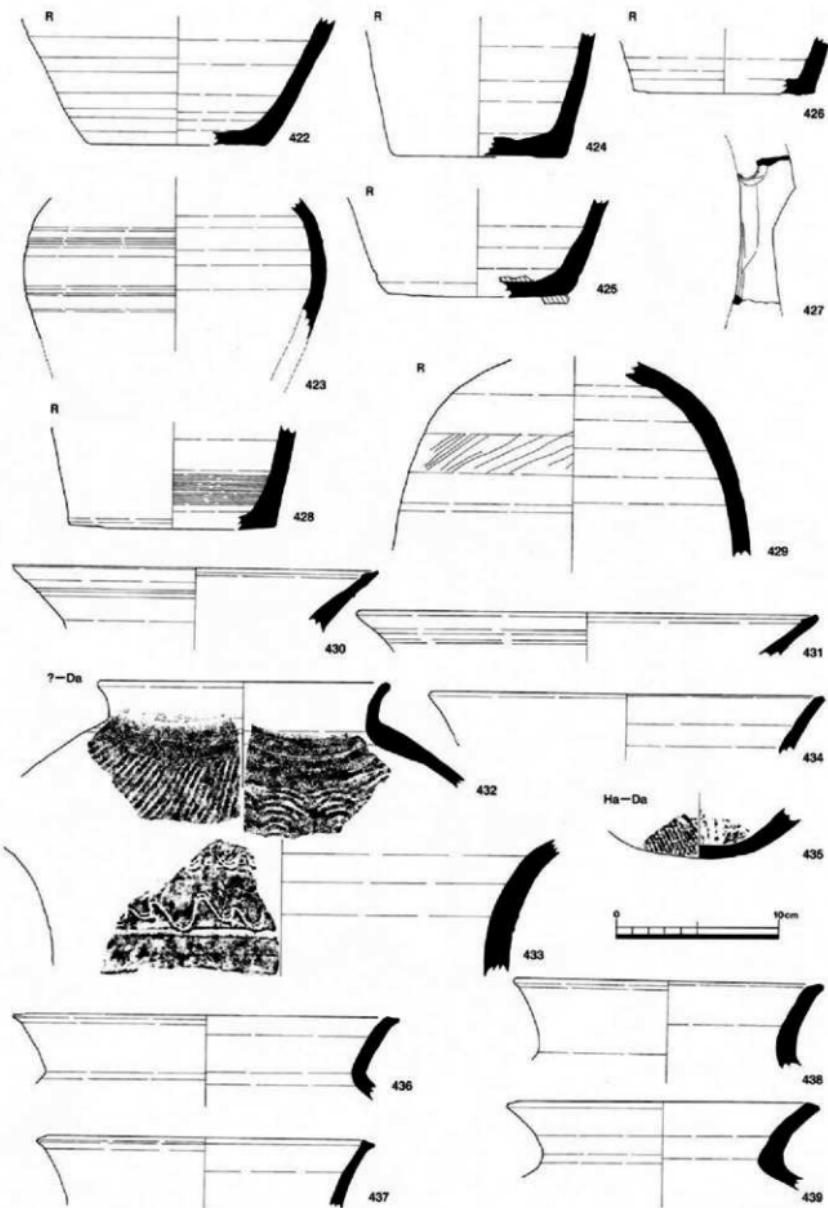
第32図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3)



第33図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3)

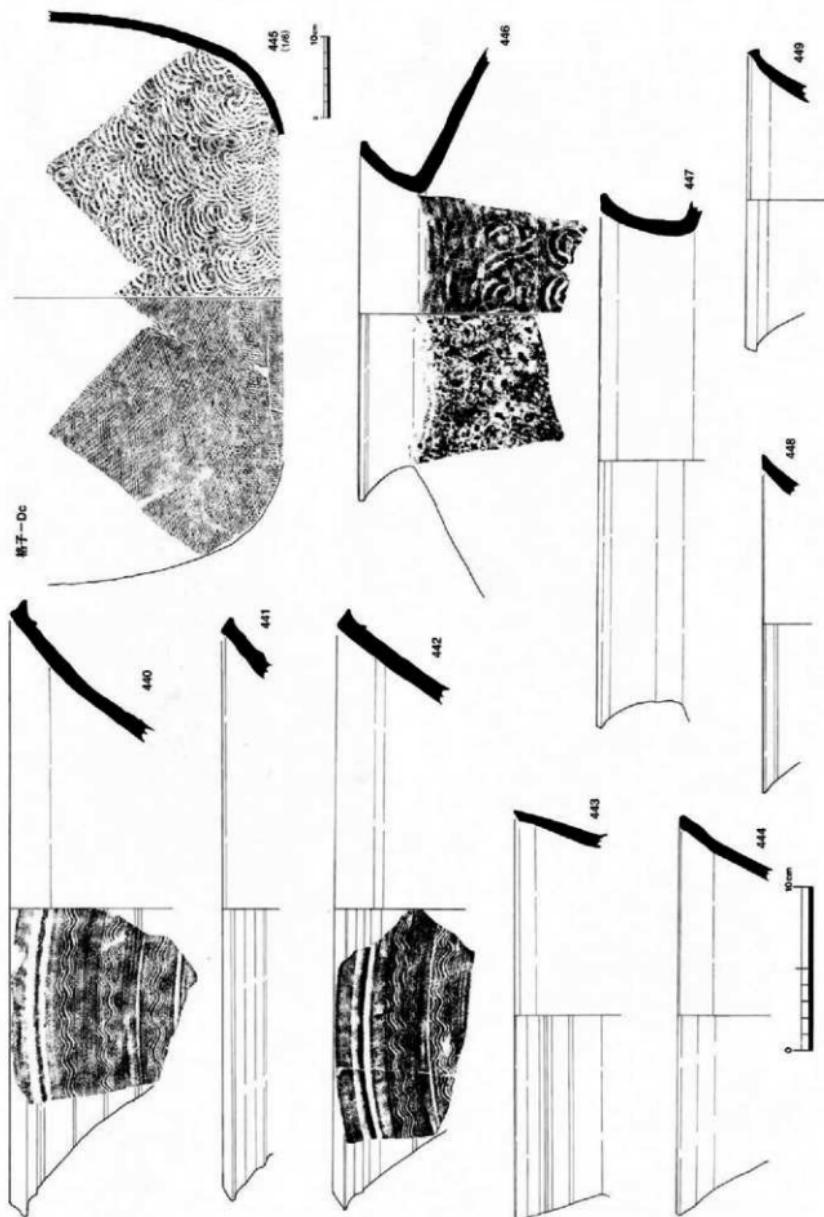


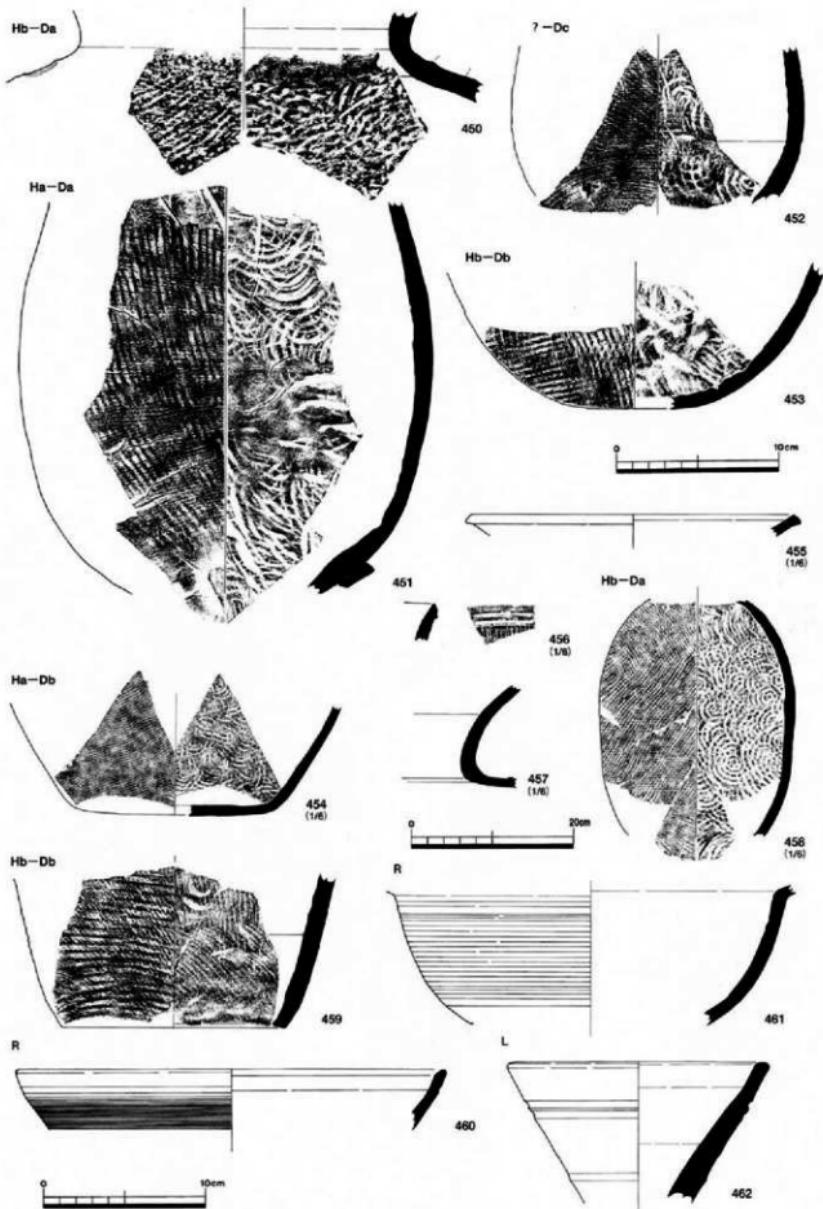
第34図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3)



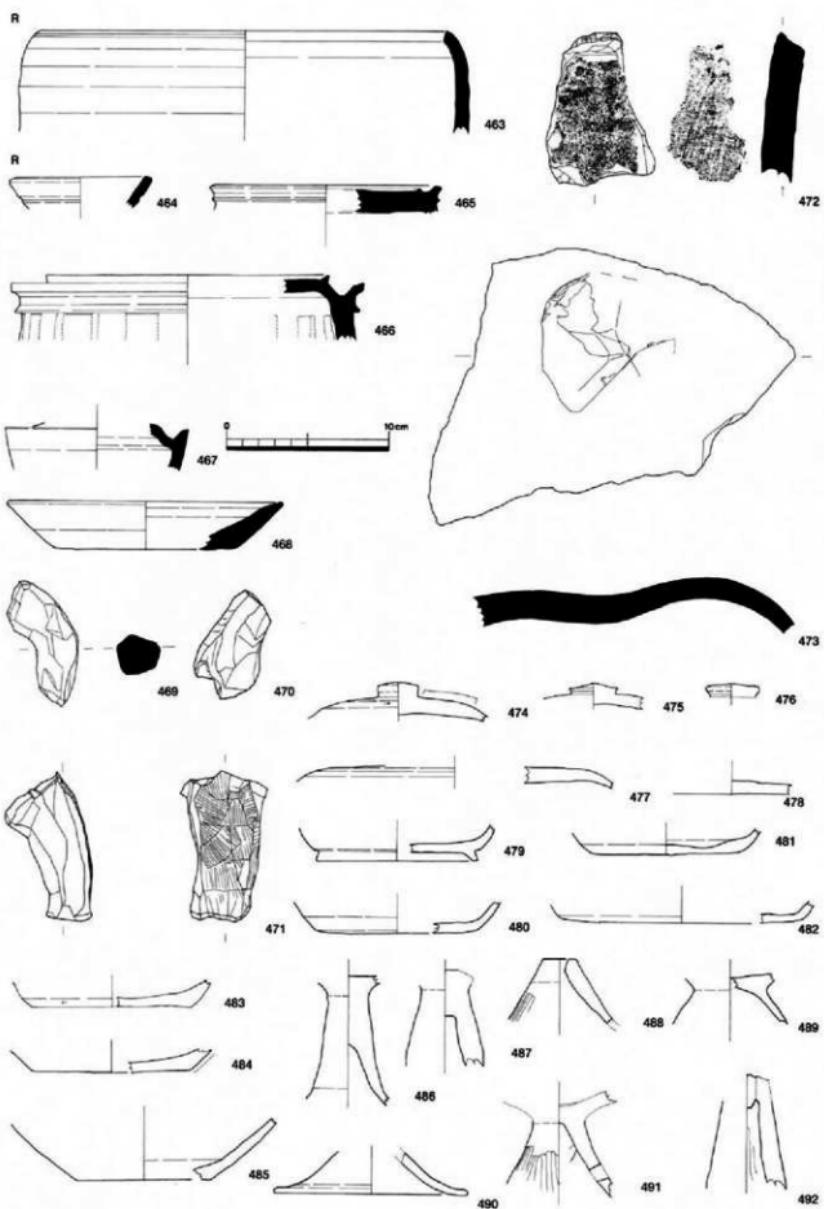
第35図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3)

第36圖 包含層出土植物剖面圖 (平成7年度測定分 S=1/3·1/6)

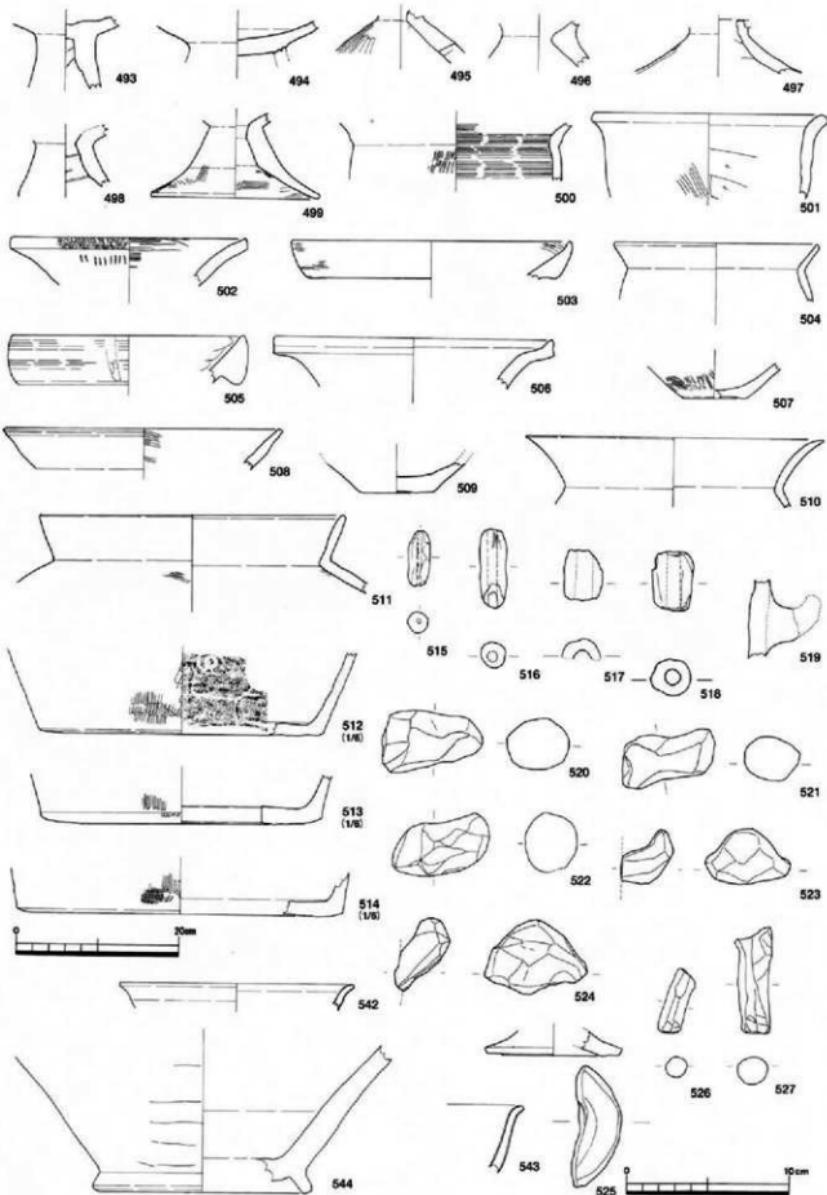




第37図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3・1/6)

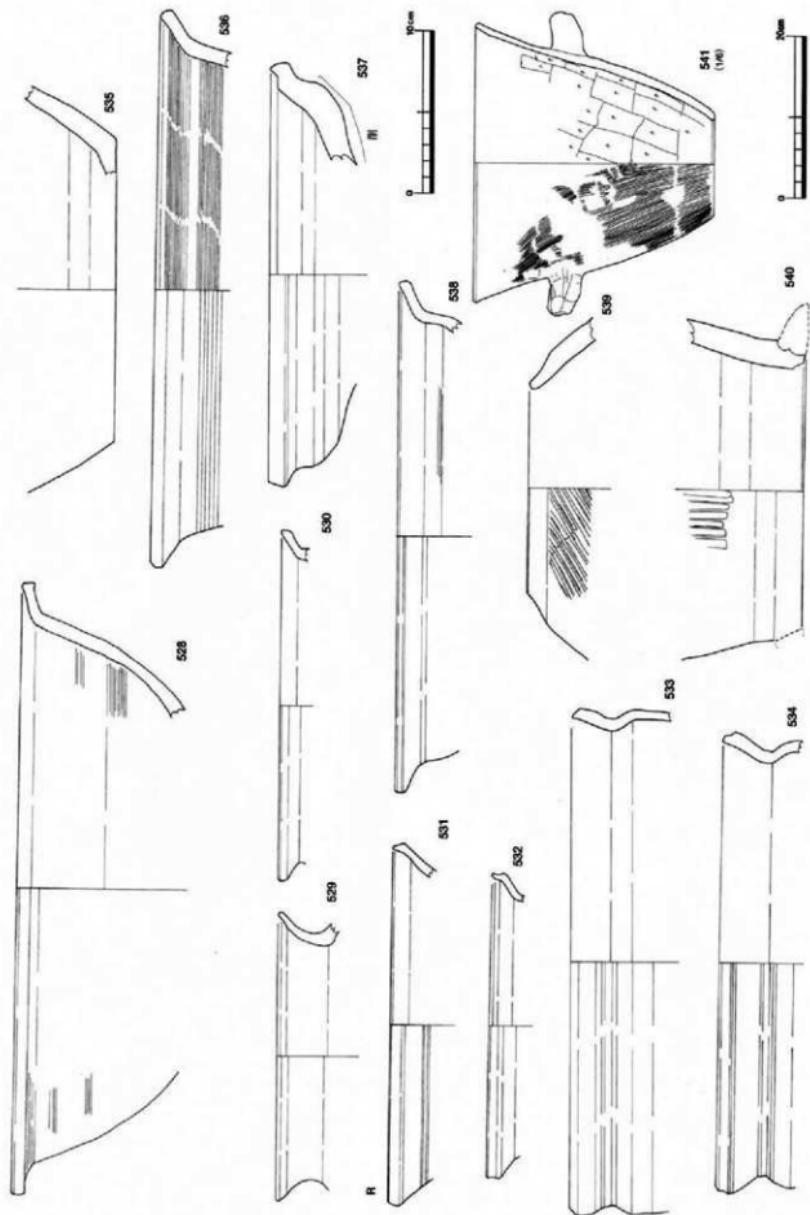


第38図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3)



第39図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3・1/6)

第40図 包含層出土遺物実測図 (平成7年度調査分 S=1/3・1/6)



第2表 出土土器・陶磁器観察表

No.	造 構	器 形	口径	高	底径	色 調	時 期	胎 土	
22. 1	1脚穴下器	坪B	13.4	透灰	1.2~E.1	B			
2. 2	1脚穴下器	坪B蓋	10.0	灰	1.2~E.1	B			
3. 3	1脚穴	坪B蓋	12.0	灰	1.2~E.1	A			
4. 4	1脚穴中層	坪	13.2	灰	1.2~E.1	A			
5. 5	1脚穴	鐵D	透灰	1.2~E.1	A				
6. 6	1脚穴	壺	25.4	透	1.2~E.1	A			
7. 7	1脚穴上器	壺		青灰	1.2~E.1	B			
8. 8	2脚穴	坪B蓋	14.6	灰	E	B			
9. 9	2脚穴アゼ	坪B		9.8	浅黄褐	E	b		
10. 10	2脚穴	坪B	3.4	透灰	E.3	A			
11. 11	5脚穴P1	高坪		4.4	灰	?	A		
12. 12	5脚穴小P1	坪B蓋	14.2	灰白	E.1~	B			
13. 13	鐵SP1	坪B蓋	14.0	灰	E.2古	A			
14. 14	鐵SP1	坪B蓋	11.8	灰白	V.1	A			
15. 15	鐵SP1	湯	20.9	灰白	?	b			
16. 16	2号土坑24	坪A	11.8	3.2	9.4	黄灰	E.2古	B	
17. 17	2号土坑9.18	坪A	12.4	3.2	9.0	黄灰	E.2古	A	
18. 18	2号土坑29.46	坪A	13.2	3.5	8.4	灰白	E.2古	B	
19. 19	2号土坑28	坪A	12.4	3.1	9.0	黄灰	E.2古	A	
20. 20	2号土坑4.6	坪A	12.0	3.5	8.4	灰白	E.2古	B	
21. 21	2号土坑上器	坪A	11.6		灰	E.2古	B		
22. 22	2号土坑上器	坪A	11.8		透灰	E.2古	A		
23. 23	2号土坑上器	坪A		9.1	白	E.2古	A		
24. 24	2号土坑2	坪A		8.6	浅黄褐	E.2古	B		
25. 25	2号土坑7	坪B蓋	17.0	3.6	灰白	E.2古	A		
26. 26	2号土坑12.16	坪B	14.8	5.2	11.7	青灰	E.2古	A	
27. 27	2号土坑7層	坪B	11.1	3.7	8.3	灰	E.2古	B	
28. 28	2号土坑13	盤A	16.0	2.3	13.2	灰	E.2古	A	
29. 29	2号土坑	盤A	15.8	2.0	13.8	灰	E.2古	A	
30. 30	2号土坑7層	盤	20.2		灰	E.2古	A		
31. 31	2号土坑下器	盤	22.4		灰	E.2古	A		
33-32	2号土坑#	盤		23.0		浅黄褐	E.2古	b	
34. 34	2号土坑下器	盤	20.0		浅黄褐	E.2古	b		
35. 35	2号土坑#2	盤	18.6		浅黄褐	E.2古	b		
36. 36	2号土坑下器	盤	25.0		浅黄褐	E.2古	a		
37. 37	2号土坑1.5	?	13.0		浅黄褐	E.2古	a		
38. 38	2号土坑4層	盤B		6.6	浅黄褐	E.2古	b		
39. 39	2号土坑23	盤B		6.2	黄灰	E.2古	a		
40. 40	2号土坑下器	盤		7.6	浅黄褐	?	b		
41. 41	2号土坑36	赤彩輪	11.8	3.6	5.0	灰白	E.2古	a	
42. 42	2号土坑7層	赤彩輪	13.8	2.9	7.4	灰	E.2古	a	
43. 43	2号土坑下器	赤彩輪		7.8	浅黄褐	E.2古	a		
44. 44	1脚4	盤	16.2		浅黄褐	強生中期	(b)		
45. 45	1脚1	盤		6.6	浅黄褐	強生中期	(b)		
46. 46	1脚2	盤		6.6	透灰	強生中期	(b)		
47. 47	1脚6	盤		5.2	浅黄褐	強生中期	(b)		
48. 48	2脚	坪B蓋			灰	V.1~	B		
49. 49	3脚下器	坪B蓋	12.2		青灰	V.2古	A		
50. 50	3脚下底	坪A	13.2	3.1	9.9	透灰	V.2古	A	
51. 51	3脚下底	赤彩輪		7.8	浅黄褐	E.2古	b		
52. 52	3脚	坪B蓋	12.2		灰	V.1~	B		
53. 53	3脚下器	坪B蓋	11.0		黄灰	V.1	A		
54. 54	3脚下器	盤		9.7	灰	V.1	A		
55. 55	土器#4	盤		14.6	盤	B	b		
56. 56	土器#4	小型土器	13.6		浅黄褐	10~11世	b		
24-57	土器#4	圓瓶	6.8		透灰	1~2~	A		
58.	土器#4	壺	G?						
59. 59	25号P1	坪B蓋	16.0			浅黄褐	15群	a	
60. 60	6号P1	坪B				灰	V.1~	A	
61. 61	7号P1	坪B				青灰	?	A	
62. 62	10号P1	壺	21.0			浅黄褐	V.2新	b	
63. 63	3号P1	壺	14.0			青灰	V.2~	a	
64. 64	39号P1	壺				5.2	灰褐	a	
65. 65	45号P1	壺F	12.8			浅黄褐	V.3	b	
66. 66	40号P1	壺	15.8			浅黄褐	15群~V.2	b	
67. 67	8.9号P1	坪B蓋				青灰	V.2	a	
68. 68	69号P1	壺				6.2	浅黄褐	強生中期	(b)
69. 69	72.73号P1	土罐	4.0	2.4		浅黄褐	?	a	
70. 70	1号盤6	坪B蓋	15.4			灰白	V.2新~V.1	B	
71. 71	1号盤6	坪B				7.8	灰白	V.2新~V.1	B
72. 72	2号盤6	坪B蓋				灰	V.3	A	
73. 73	2号盤6	坪B蓋	15.7			灰	V.3	B	
74. 74	2号盤6	坪B蓋	11.8			灰	V.3	A	
75. 75	2号盤6	坪B蓋	12.8			灰白	?	A	
76. 76	2号盤6	坪B	11.8	4.4		青灰	V.2古	A	
77. 77	2号盤6	坪B				12.4	青灰	V.2古	A
78. 78	2号盤6	坪B				8.8	灰	V.2古	B
79. 79	2号盤6	坪B				7.8	灰	?	A
80. 80	2号盤6	坪B				6.8	青灰	V.1~2古	A
81. 81	2号盤6	坪A	12.2	3.4	8.4	綠褐	V.2古	B	
82. 82	2号盤6	坪A				10.0	灰	V.3	B
83. 83	2号盤6	坪A				10.2	黃褐	V.3	A
84. 84	2号盤6	坪A				7.8	灰	V.2古	A
85. 85	2号盤6	坪A				13.7	綠褐	?	B
86. 86	2号盤6	坪A				9.4	黃褐	?	A
87. 87	2号盤6	坪A	15.0	1.9	11.3	綠褐	V.2古	A	
88. 88	2号盤6	坪A	15.8	2.2	12.6	灰白	V.3	A	
89. 89	2号盤6	坪A	17.0	2.1	13.6	灰白	V.2古~新	A	
90. 90	2号盤6	坪A				15.2	灰	V.3	A
91. 91	2号盤6	坪A				14.4	灰白	V.3	B
92. 92	2号盤6	坪A				14.4	灰白	?	A
93. 93	2号盤6	坪A	15.0	2.2	11.6	灰白	?	B	
94. 94	2号盤6	坪A				11.2	灰	?	A
95. 95	2号盤6	坪A				13.2	灰白	?	a
96. 96	2号盤6	坪A				16.4	綠灰	?	A
25-97	2号盤6	坪B	20.8	3.7	16.5	灰	青古	A	
98. 98	2号盤6	坪B				16.0	灰	?	B
99. 99	2号盤6	坪B				15.0	灰	?	A
100. 100	2号盤6	坪B				15.0	灰	V.3	B
101. 101	2号盤6	坪	9.0			青灰	V.2古	A	
102. 102	2号盤6	赤D				灰	?	A	
103. 103	2号盤6	赤D				灰	?	A	
104. 104	2号盤6	赤彩輪				8.8	浅黄褐	V.3	b
105. 105	2号盤6	赤彩輪				7.0	浅黄褐	?	a
106. 106	2号盤6	赤彩輪				6.8	相	V.1	b
107. 107	2号盤6	坪B				10.0	浅黄褐	V.1	b
108. 108	2号盤6	赤彩輪				5.6	浅黄褐	V.2~V.1	b
109. 109	2号盤6	壺				15.0	灰白	?	a
110. 110	2号盤6	壺				15.4	浅黄褐	?	a
111. 111	2号盤6	壺				19.3	浅黄褐	V.1	a
112. 112	2号盤6	壺				21.4	相	V.1	b
113. 113	2号盤6	壺				30.2	相	V.1	b
114. 114	2号盤6	壺				37.0	相	V.1	b

図No.	遺構	器種	口径	器高	底径	台形	色調	時期	胎土
115	1号井II	平口壺			灰	Ⅱ-2古	A		
116	1号井II	壺			青灰	Ⅱ-2	A		
117	1号井II	壺			灰	Ⅱ-2	A		
118	1号井II	壺			灰	Ⅱ-2	A		
119	2号土坑	壺	9.4		浅黄褐	發生	(b)		
120	4号土坑	平口壺			青灰	Ⅲ-1	A		
121	4号土坑上層	平口壺	14.6		灰白	Ⅲ-1	A		
122	4号土坑	壺B	11.4	3.8	6.8	綠灰	Ⅲ-1	A	
123	4号土坑	?			8.8	青灰	?	A	
124	4号土坑	赤陶杯	10.0		灰白	?	b		
125	4号土坑	赤陶杯			8.4	紅	Ⅲ-1	b	
126	4号土坑	内黑陶			6.3	灰白	V-1-	a	
29-127	4号土坑	赤陶杯			9.4	灰白	Ⅲ-1	b	
128	4号土坑圓入	壺	16.6		褐	古青	(b)		
129	1号溝	壺A	15.6	2.0	12.0	褐灰	V-1-2	B	
130	1号溝	壺	20.4		浅黃褐	V-1	a		
131	1号溝	壺	38.8		淺褐	V-1	b		
132	4号溝	壺A	11.6	3.7	7.6	灰	Ⅲ-3	B	
133	9号溝	平口壺			11.8	綠灰	Ⅲ-2	A	
134	2地区20号Pn	壺G	9.2	3.5	6.2	灰	I-2-Ⅱ-2	C	
135	2地区65号Pn	壺B			7.6	青灰	?	B	
136	1地区23号Pn	壺A			7.4	青灰	?	A	
137	4地区54号Pn	壺			8.2	青灰	?	A	
138	1地区70号Pn	壺B	20.8	3.7	17.0	灰	Ⅲ-1	A	
139	4地区64号Pn	壺	24.5		浅黃褐	Ⅱ-2-Ⅲ	b		
140	11区東I-Ⅱ層	平口壺			灰白	1-1	A		
141	11区東II層上	平口壺			灰	1-2	A		
142	12区S-7	平口壺	11.8		灰	1-2	A		
143	15区東II層上	平口壺	10.6		灰	1-2	A		
144	15区東	平口壺	13.0		灰	Ⅲ-2	B		
145	15区東II層下	平口壺	13.0		灰	Ⅲ-2	A		
146	日・昔壺中	平口壺			灰	Ⅲ-3	B		
147	11区東II層	平口壺			灰	Ⅲ-3	B		
148	6区I層上	平口壺			灰	Ⅲ	A		
149	去探	平口壺	17.3		灰	Ⅲ	A		
150	11区西	平口壺	14.6		黃灰	Ⅲ	B		
151	11区西II層	平口壺	16.6		灰	Ⅲ	B		
152	不明	平口壺	14.5	1.9	灰	Ⅲ	A		
153	25区東II層上	平口壺	18.0		黃灰	Ⅲ-1	B		
154	11区西II層上	平口壺			灰	Ⅲ-1	A		
155	11区東II層	平口壺	17.8		灰白	Ⅲ-1	A		
156	7区I-Ⅱ層上	平口壺	15.0		黃灰	Ⅲ-1	A		
157	25区東	平口壺	13.8		灰	Ⅲ-2古	A		
158	11区東II層	平口壺	12.8		灰	Ⅲ-2古	A		
159	11区西II層	平口壺	12.8		綠灰	Ⅲ-2古	A		
160	11区東II層	平口壺	14.9		灰	Ⅲ-1	A		
161	不明	平口壺	15.6		灰白	Ⅲ-1	B		
162	11区南北アゼ	平口壺			灰	V-1-2	A		
163	11区東II層	平口壺	10.4		灰	Ⅲ-1	A		
164	6区東II層	平口壺			黑灰	V-1-2	A		
165	25区西II層上	平口壺			濃灰	V-1-2	A		
27-166	11区東I層	平口壺	13.4	3.8	9.2	灰	Ⅲ-2-3	B	
167	不明	平口壺	13.4	3.8	8.6	青灰	Ⅲ-3	A	
168	表探	平口壺	15.4	4.0	11.4	周灰	Ⅲ	B	
169	11区西II層	平口壺	10.4	4.0	7.0	灰	Ⅲ-1	A	
170	11区西I層	平口壺	14.0	4.0	11.2	灰	Ⅲ-1	A	
171	不明	平口壺	11.4	2.9	9.0	黑灰	Ⅲ-2	B	

図No.	遺構	器種	口径	器高	底径	台形	色調	時期	胎土
172	4区I-Ⅱ層上	平口壺					13.0	灰	Ⅲ-2古
173	11区東II層	平口壺	11.6	4.2	7.8	周灰	Ⅲ-2古	A	
174	11区東II層	平口壺					9.4	灰	Ⅲ-新-V-1
175	不明	平口壺					9.6	灰白	Ⅲ
176	25区東II層上	平口壺	14.4	3.4	11.8	灰	Ⅲ-2古	A	
177	11区東II層上	平口壺	12.6	2.9	8.8	灰	Ⅲ-2古	B	
178	9区II層上	平口壺	12.4	3.0	8.4	周白	Ⅲ-2古	A	
179	不明	平口壺	12.6						
180	5区南北アゼ	平口壺	12.4	2.3	9.0	灰	V-1-2	B	
181	5区西	平口壺	10.8						
182	不明	平口壺	14.4	2.3	10.8	灰	Ⅲ-1	A	
183	11区東II層	平口壺	13.4	2.0	10.8	灰	Ⅲ-1	A	
184	11区東II層	平口壺	13.9	2.3	12.0	灰	Ⅲ-2	B	
185	不明	平口壺	14.8	1.9	12.0	周白	Ⅲ-2古	A	
186	11区東II層	平口壺	15.6	2.0	13.0	灰	Ⅲ-2古	B	
187	11区東II層上	平口壺	16.0	1.7	13.0	灰	Ⅲ-2古	B	
188	11区東II層下	平口壺	14.4	1.9	11.8	周白	V-1	B	
189	不明	平口壺	18.4	2.4	15.2	青灰	V-1	A	
190	1区東I層	平口壺	15.2	1.7	10.0	灰	V-1-2	B	
191	1区東II層上	平口壺	15.0	1.4	11.8	灰	Ⅲ-2	A	
192	不明	平口壺	12.6						
193	7区東II層	平口壺	13.8						
194	11区西II層	平口壺					16.0	灰	?
195	不明	壺B					9.0	青灰	?
196	1区東II層	壺B							
197	7区東II層	壺B							
198	11区西II層	壺B							
199	5区西北	壺					28.0	青灰	V-1~
200	表探	壺						9.0	灰
201	11区東II層	?					19.0	周灰	?
202	11区東	壺D	14.6					11.0	灰
203	7区西II層	壺B	?					8.0	青灰
204	不明	壺A	15.8					8.0	周白
205	11区西II層上	壺A	12.4					12.4	灰
206	清水溝	壺B	12.8					12.8	灰
207	5区南北アゼ	壺D							
208	表探	?					9.9	周白	?
209	11区西II層	壺D							
210	11区西II層	双耳壺							
211	11区東II層	双耳壺	14.8						
212	11区東II層	壺A	15.0						
213	11区西II層下	壺灰					13.6	周灰	?
214	11区西II層	壺	27.6						
215	2区東II層	壺	29.4						
216	表探	壺	24.0						
217	11区東II層上	壺	35.3						
218	不明	蓋つきみ							
219	3区中央アゼ	小型壺	5.2						
220	7区東II層	はそき	8.4						
221	2区東II層	灯明壺	13.5	2.4	10.4	灰	Ⅲ-2古	A	
222	11区東II層上	小型壺A							
223	11区東II層	内黒陶	11.8						
224	不明	内黒陶	14.0						
225	5区西II-2層	内黒陶	13.8						
226	5区南北アゼ	高环							
227	表探	壺					7.4	浅黄褐	發生中期
228	25区西II層	高环							?

No.	遺構	器種	口径	器高	底径	色調	時期	胎土
229	5区北アゼ	高环			浅黄褐	8群	(b)	
292	5区東Ⅱ層	壺	16.0		赤褐	4群	(b)	
234	不明	壺G?			浅黄褐	8群	(a)	
232	日~董朝	壺	18.8		浅黄褐	?	b	
233	11区東Ⅱ層	壺	13.0		浅黄褐	7~8群	(b)	
234	不明	壺			浅黄褐	11群	(a)	
235	11区東Ⅱ層上	壺A	19.0			14群~1~2	b	
236	11区西Ⅱ層上	赤彩盤	20.4		浅黄褐	8~1~2古	b	
237	不明	赤彩盤	18.4		浅黄褐	?	b	
238	5区東Ⅱ層上	赤彩环	9.2	2.7	6.0	浅黄褐	?	b
239	5区西Ⅱ層下	赤彩碗	12.4	2.4	8.2	浅黄褐	?	b
240	11区東Ⅱ層上	碗B			7.8	浅黄褐	古代後半	b
241	11区東Ⅰ層	内圈碗			7.6	浅黄褐	古代後半	b
242	11区東Ⅱ~Ⅲ層	内圈碗			8.6	外浅黄褐	古代後半	b
243	25区Ⅱ層	外盒内圈			6.2	浅黄褐	古代後半	b
244	25区東Ⅱ層上	碗B			6.8	浅黄褐	8~3?	b
245	11区I~II層	高环			10群	1~2~II~1	b	
246	11区東側溝	舟	30.2		浅黄褐	8~2?	b	
247	5区西北Ⅱ層上	?		7.2	浅黄褐	?	a	
248	11区西Ⅱ層	壺	19.4		浅黄褐	?	b	
249	不明	壺	23.6		浅黄褐	8~2~	b	
250	11区東Ⅱ層	壺	20.6		浅黄褐	V~2	a	
251	25区東Ⅱ層上	舟	21.4		10群	V~2	b	
252	11区東Ⅱ~Ⅲ層	壺A	20.0		浅黄褐	8~3	b	
253	25区東Ⅱ~Ⅲ層下	?	19.4		浅黄褐	?	b	
254	25区東	碗	40.6		浅黄褐	V~2	b	
255	11区東側溝	舟	30.2		浅黄褐	?	b	
256	4区西I~II層	把手			浅黄褐	?	b	
257	4区西I~II層	把手			浅黄褐	?	a	
258	25区Ⅱ層上	把手			浅黄褐	?	b	
259	7区I~II層上	把手			白	14群~1~後	密	
302	25区東Ⅱ層上	环台			古代	A		
264	25区東Ⅱ層	环台			古代	A		
265	25区東Ⅱ層	环台			古代	A		
266	4区西Ⅱ~Ⅲ層	环台			古代	A		
267	5区東Ⅱ~Ⅲ層	环台			古代	A		
268	25区Ⅱ層上	环台			古代	A		
269	25区Ⅱ層上	环台			古代	A		
270	5区Ⅱ層	环台			古代	A		
271	3区Ⅱ層	环台			古代	A		
272	25区Ⅱ層	环台			古代	A		
273	25区Ⅱ層	环台			古代	A		
274	25区D I層	环台			古代	B		
275	5区Ⅱ層	环台			古代	B		
276	5区Ⅱ層	环台			古代	B		
277	1区D II層	环台			古代	B		
228	25区Ⅱ層	环台			古代	B		
279	1地区C	环台			古代	B		
280	1地区C	环台			古代	B		
281	4地区A	环台			古代	B		
282	2地区E	环台			古代	B		
283	2地区E	环台		16.4	3.1	古代	B	
284	1地区D I層	环台			古代	B		
285	1地区A	环台			古代	B		

No.	遺構	器種	口径	器高	底径	色調	時期	胎土
286	1地区D III層	环B瓶				灰	V	A
287	1地区H	环B瓶		14.2		灰	V~I	A
288	2地区E	环B瓶		18.8		灰	V~I	A
289	2地区F	环B瓶				灰	V~I	B
290	1地区A	环B瓶				灰	V~I	B
291	1地区G	环B瓶				灰	V~I	A
292	2地区E	环B瓶		15.8		灰白	V~II古	A
293	1地区E	环B瓶		17.8		灰	V~II古	A
294	1地区I~II層	环D瓶		17.6		灰白	V~II古	A
295	2地区E	环B瓶		16.2		灰	V~II古	B
296	3地区C	环B瓶		14.8		灰白	V~II古	A
297	2地区E	环B瓶		18.0	3.5	绿灰	V~II古	A
298	2地区E	环B瓶		17.0	3.5	灰	V~II新	A
299	2地区E	环B瓶		17.7	4.1	黄灰	V~II新~V~I	B
300	2地区A	环B瓶		16.4		灰	V~II新~V~I	A
301	2地区E	环B瓶		12.2	3.0	灰	V~I	A
302	2地区E	环B瓶				青灰	V~I	B
303	2地区E	环B瓶		12.4	2.5	灰	V~I	B
304	2地区E	环B瓶		11.4	2.9	灰	V~I	B
313	2地区H	环B瓶		13.2		灰	V~I	A
306	2地区E	环B瓶				黄灰	V~I	A
307	2地区E	环B瓶		16.0		灰	V~I	B
308	1地区C II層	环B瓶		15.6		灰	V~I	B
309	4地区A	环B瓶		14.6		灰白	V~I~	A
310	2地区F	环B	15.4	4.35	10.2	灰	II~3	A
311	2地区F	环B	15.2	3.9	10.3	青灰	V	B
312	2地区F	环B	16.4	3.6	12.0	青灰	V	B
313	2地区E	环B	17.6	3.2	12.0	黄灰	V	B
314	3地区F	环B				黄灰	V	A
315	2地区E	环B	17.4	6.5	13.0	灰	V~I	A
316	2地区E	环B	14.0	6.1	10.0	青灰	V~II古	A
317	2地区E	环B			11.5	黄灰	?	A
318	2地区C	环B			8.6	灰	?	B
319	2地区E	环A	15.0	3.6	9.3	绿灰	V~II	A
320	2地区E	环A	14.2	3.2	11.2	黑灰	V	A
321	2地区E	环A	15.8	3.1	10.0	黄灰	V	A
322	2地区E	环A	14.2	2.5	10.6	灰	V	A
323	1地区D II層	环A	12.6	3.4	8.0	绿灰	V~I	A
324	2地区E	环A	12.8	3.6	8.0	绿灰	V~II新~V~I	A
325	1地区D	环A	12.2	3.0	7.0	青灰	V~I	A
326	1地区D III層	环A	14.0	3.2	9.4	灰	V~I	B
327	2地区E	环A	11.0	3.6	7.2	灰	V~I	B
328	2地区F	环A	14.6	3.3	9.6	绿灰	V~I~2	A
329	2地区E	环A	13.2	3.35	8.0	黄灰	V~2~	A
330	1地区D II層	环A	11.8	2.9	7.6	灰白	V~2	B
331	2地区E	环A	13.4			灰	V~I~	A
332	1地区D II層	环A	13.0			青灰	V~2~VI~1	C
333	1地区D	管A	17.0	2.5	14.0	绿灰	V~I~2古	A
334	1地区D II層	管A	15.8	1.5	13.6	灰	V~2古	B
335	4地区A	管A	16.0	1.7	13.2	灰	V~II古	A
336	1地区C	管A	17.0	1.9	14.0	灰	V~II古	A
337	1地区C	管A	16.6	2.4	13.4	灰	V~II古	A
338	1地区D II層	管A	17.4	2.5	14.0	绿灰	V~2古	A
339	4地区B	管A	16.8	2.4	13.2	绿灰	V~II新~V~I	A
340	1地区D II層	管A	15.8	2.1	12.6	绿灰	V~II新~V~I	A
341	1地区D II層	管A	15.2	2.5	12.0	绿灰	V~I	A
342	2地区E	管A	17.2	2.6	13.1	灰	V~I	B

图No.	造 構	器 横	口 径	器 高	底 杆	台 杆	色 調	時 期	動 土
343	1地区B II層	盤A	16.0	1.6	12.6	灰	青灰	V-3	B
344	2地区E	盤B	18.4	3.2	14.2	黄灰	V-1	B	
345	2地区E	盤B	18.0	3.4	13.4	灰	V-1	B	
346	2地区E	盤B	22.6	3.3	17.6	灰	V-1	A	
32-347	2地区E	碗B			2.0	青灰	V-1	B	
348	2地区D	碗B			黑灰	?	灰	B	
349	4地区H	高杯			黄灰	?	灰	A	
350	5地区A	高杯			青灰	?	灰	B	
351	4地区E	高杯			灰	1-1	灰	B	
352	2地区F	高杯			灰	-I-1	灰	B	
353	2地区E	高杯			青灰	B-2断	A		
354	2地区E	高杯			灰白	B-2古	A		
355	2地区E	碗			青灰	?	灰	A	
356	2地区	碗			11.2	灰	?	A	
357	2地区D-E	碗B			青灰	?	A		
358	1地区B II層	盤?	20.6		青灰	?	A		
359	2地区E	碗D			陶灰	?	A		
360	5地区E	?			9.8	灰	?	A	
361	2地区E	碗			黑灰	?	A		
362	3地区E	碗			灰	?	A		
363	3地区E	碗			13.0	灰白	V-1	A	
364	2地区E	碗			绿灰	V-1	B		
365	2地区E	碗			灰白	?	A		
366	1地区B I層	盘A	15.6		黄灰	B-2?	A		
367	2地区F	盘B	9.4		灰	I-2	B		
368	2地区D	盘A	18.4		灰	B-I-B-1	B		
369	2地区E	盘A	12.8		绿灰	B-2	A		
370	1地区D II層	盘A	12.6		灰	V-1	B		
371	5地区E	盘A?			10.0	黑灰	?	A	
372	2地区F	碗C	11.6		灰	V-1	B		
33-373	2地区F	碗C	15.8		灰	B-2-	B		
374	2地区F	碗C	15.4		灰	B-2-	A		
375	1地区H	盘A基	15.0		灰	B-I-B-1	A		
376	2地区B	盘A基	13.8	5.4	陶灰	B-I-B-1	A		
77	2地区F	盘A基	15.0		灰	B-I-B-2	A		
378	2地区E	碗			9.6	灰	?	A	
379	2地区E	碗C			9.6	青灰	?	A	
380	2地区E	碗C?			灰	?	A		
381	2地区E	碗C			12.2	灰	V-1-	B	
382	2地区E	碗F	19.4		陶灰	?	B		
383	1地区A I層	铁棒	23.2		灰	?	A		
384	2地区E	盘D	19.8		黄灰	?	A		
385	2地区E	盘D	15.6		灰	?	B		
386	2地区F	盘D	16.0		灰	B-2	A		
387	2地区D	盘D	16.0		黄灰	B-2古	B		
388	5地区E	盘D?	18.5		灰	B-2?	B		
389	2地区F	盘D	14.6		灰	B-2?	A		
390	1地区D II層	盘D?	14.2		黑灰	B-2?	A		
391	2地区E	盘D			12.0	灰	B-2	A	
392	5地区E	盘D			黄灰	?	A		
393	3地区E	盘J?	17.4		灰	?	A		
34-394	2地区F	盘H	6.8		灰	-I-1?	A		
395	2地区F	盘H	10.8		黑灰	-I-3?	A		
396	2地区E	盘	7.4	7.9	3.6	灰	?	A	
397	1地区D II層	盘A?			灰	?	B		
398	1地区H	盘			7.4	灰	B-2-	B	
399	1地区B II層	瓶			灰	B-2-III	A		
图No.	造 構	器 横	口 径	器 高	底 杆	台 杆	色 調	時 期	動 土
400	5地区B	瓶D			10.0	青灰	晋-I	B	
401	4地区B	瓶D				7.8	黄灰	?	A
402	4地区B	瓶D				8.4	黄灰	?	A
403	4地区B	瓶D				8.0	灰	?	A
404	2地区E	瓶C				黑灰	?	B	
405	1地区A II層	瓶D				灰	晋-II-Ⅲ	A	
406	4地区B	瓶				黑灰	?	A	
407	5地区E	瓶C A-D				灰	?	B	
408	2地区E	瓶D?	11.0			灰	V-1	B	
409	2地区E	瓶D				11.2	灰	?	B
410	3地区E	瓶C				10.0	灰白	V-4-2	A
411	不明	瓶B				灰	晋-晋-V-1	A	
412	5地区A	瓶C				10.0	青灰	V-2	A
413	2地区E	瓶D				9.4	灰	晋-I	B
414	2地区E	瓶C A-D				9.7	黑灰	晋-I	B
415	4地区B	瓶瓶				灰	?	A	
416	2地区F下	瓶瓶				14.0	灰白	?	A
417	2地区E	瓶瓶				11.8	灰	V-4	A
418	2地区E	瓶瓶				11.1	灰	晋-晋	B
419	2地区E	?				10.4	灰	?	B
420	3地区A	双耳瓶				13.8	灰	V-2-晋-V-1	B
421	2地区E	双耳瓶				13.8	灰	晋-晋-V-1	A
35-422	4地区E	双耳瓶				11.0	灰	V-2	B
423	2地区E	双耳瓶				灰	V-4	B	
424	3地区B	双耳瓶				10.2	灰灰	V-1?	A
425	2地区E	双耳瓶				11.0	黑灰	V-4?	B
426	4地区A	双耳瓶				11.2	灰	V-1	A
427	2地区F	双耳瓶				黄灰	V-4-M-1	A	
428	2地区E	双耳瓶				12.8	灰	V-4	A
429	2地区F	双耳瓶				灰	V-2-	A	
430	5地区A	晋?				青灰	?	B	
431	5地区B	晋				28.2	灰	II-4	A
432	2地区E	晋				17.2	灰	B-4?	A
433	3地区E	晋				灰	II-2	A	
434	2地区E	晋?				24.0	浅黄褐	B-2?	B
435	5地区E	晋				灰	?	A	
436	2地区A	晋				22.0	灰	V-2断	A
437	3地区E	晋				19.4	灰	B-2	A
438	2地区E	晋				18.6	灰	B-2?	B
439	2地区D	晋				17.6	灰	V-1	B
36-440	2地区E	晋				36.2	灰	II-2	A
441	2地区F	晋				24.1	黑灰	II-3?	A
442	2地区E-F	晋				34.8	黑灰	II-3	A
443	2地区D	晋				24.9	黑灰	II-3-II	B
444	5地区?	?				24.4	黑灰	?	B
445	2地区E	晋				灰	?	B	
446	2地区F	晋				19.4	灰	B-2?	B
447	2地区E	晋				33.8	青灰	B-2断	A
448	2地区F	晋				19.0	黑灰	?	B
449	2地区D	晋				18.1	黑灰	?	B
27-450	2地区E	晋				灰白	?	B	
451	2地区E	晋				灰	晋-	B	
452	2地区E	晋				青灰	?	A	
453	2地区E	晋				青灰	?	A	
454	2地区E	晋				25.4	青灰	?	A
455	2地区E	晋				40.0	灰白	?	A
456	2地区E	晋				黄灰	?	A	

图No.	道 横	渠 带	口径	渠高	底径 台径	色 调	时 期	胎 土
457	28E E	渠			灰	?	A	
458	28地区 E	渠			灰	Ⅳ-Ⅴ?	A	
459	28地区 E	渠			13.6	灰白	Ⅳ-Ⅴ古	A
460	28E E D	渠?	26.2		灰白	?	A	
461	28E E	渠?			灰白	?	A	
462	28地区 A	渠?	15.2		灰	古暗	B	
463	28地区	渠	24.8		黑灰	?	B	
464	38地区 D	?	8.9		黄灰	?	A	
465	38地区 E	沟渠带	14.4		黄灰	?	A	
466	28地区 E	沟渠带	21.6		黄灰	Ⅲ	B	
467	38地区 E	渠	11.2		灰	?	B	
478	28地区 D	?	16.8	3.0	11.4	灰	?	a
469	1地E E	土质带			灰	?	A	
470	28E E F	土质带			灰	?	A	
471	28地区 D	土质带			灰	?	A	
472	28地区 A	瓦			黄灰	?	A	
473	2地E E	粘土带			灰	?	A	
474	28地区 A	赤红带			浅黄棕	Ⅳ-Ⅴ折	b	
475	28地区 F	赤红带			浅黄棕	Ⅲ	b	
476	1地E E Ⅱ层	赤红带			红	Ⅲ	b	
477	28地区 E	赤红带			浅黄棕	?	b	
478	1地E E	渠 A			赤棕	?	b	
479	28地区 E	渠 B		10.0	灰白	?	a	
480	28地区 E	渠 A		10.0	灰白	?	a	
481	28地区 E	渠 A		9.2	灰白	?	a	
482	1地E E D	渠 A		14.2	灰白	?	a	
483	1地E E Ⅱ层	赤红带		9.8	灰	?	a	
484	1地E E I 层	赤红带		9.6	黄棕	?	b	
485	4地E E B	?		8.2	浅黄棕	?	a	
486	28地区 E	高坏			浅黄棕	6群 (b)		
487	28地区 E	高坏			红	6群 (b)		
488	2地E E	高坏			赤棕	6群 (b)		
489	28地区 E 下	高坏			浅黄棕	8群 (a)		
490	2地E E	高坏		12.0	浅黄棕	8群 (b)		
491	28地区 E	高坏			浅黄棕	7-8群 (b)		
492	28地区 E	高坏			浅黄棕	10-11群 (a)		
493	2地E E G	高坏			红	I-3-I	a	
494	28地区 E	高坏			浅黄棕	Ⅲ	a	
495	1地E E Ⅱ层	蓄台			红	7群 (a)		
496	2地E E	蓄台			洪棕	8-9群 (a)		
497	28地区 E	蓄台			浅黄棕	7-8群 (b)		
498	2地E E	蓄台			红	8-9群 (b)		
499	28地区 F	蓄台		9.4	棕	9-10群 (a)		
500	1地E E I 层	赤			赤棕	古暗	(b)	
501	28地区 F	?	13.7		浅黄棕	古暗	(a)	
502	28地区 D	渠	14.2		赤棕	终生生带	(a)	
503	28地区 F	渠	17.0		浅黄棕	终生	(b)	
504	1地E E Ⅱ层	小巷	12.4		洪棕	6-7群 (b)		
505	28地区 E	渠	14.0		红	7-8群 (a)		
506	28地区 D	?	17.2		灰白	?	a	
507	1地E E 43号 F	渠		3.6	深灰	?	(a)	
508	1地E E Ⅱ层	渠	16.8		浅黄棕	古暗?	(b)	
509	28地区 E	?		4.6	浅黄棕	?	b	
510	2地E E	渠	18.3		洪棕	Ⅲ-I	a	
511	2地E E	渠 F 1	18.6		浅黄棕	2群	a	
512	2地E E	渠		25.4	浅黄棕	?	b	
513	28地区 E	渠		34.8	浅黄棕	?	b	

图No.	道 横	渠 带	口径	渠高	底径 台径	色 调	时 期	胎 土
514	28地区 E	渠				40.2	浅黄棕	?
515	1地区 H I 层	土堆			3.3	1.3	褐	?
516	2地区 D	土堆			4.9	1.7	浅黄棕	?
517	3地区 D	土堆			3.9	2.3	浅棕	?
518	5地区 F	土堆			3.7	2.4	浅棕	?
519	5地区 F	淤手					青灰	?
520	28地区 F	淤手					浅黄棕	?
521	28地区 F	淤手					棕	?
522	4地区 A	淤手					黄棕	?
523	2地E E	淤手					浅黄棕	?
524	28地区 E	淤手					浅黄棕	?
525	2地E E	土脚下脚			8.4		浅黄棕	?
526		土马					浅黄棕	?
527	不明	土马					浅黄棕	?
40-528	1地区 D	渠			37.0		N-1	b
529	2地区 F	渠			17.6		棕	a
530	1地E C	渠			21.4		浅黄棕	?
531	2地E E	渠			21.6		浅黄棕	?
532	1地E D II 层	渠			18.6		浅黄棕	?
533	1地E D II 层	渠			30.2		浅棕	IV-Ⅴ折
534	1地E D II 层	渠 B			27.1		灰	b
535	1地E A I 层	渠?				?	18.4	灰白?
536	28地区 F	渠			33.6		浅棕	?
537	1地E D I 层	渠?			25.2		浅黄棕	?
538	1地E D	渠			31.2		浅黄棕	IV-1
539	28地区 E	渠			12.8		浅棕	?
540	1地E E I 层	渠					浅黄棕	?
541	28地区 E 下	渠			34.6	29.6	12.6	浅黄棕
39-542	2地区 C	青砖墙			14.4		绿色	D E
543	4地区 A	青砖墙					绿色	D B a
544	1地E E	砖				13.4	赤褐	砖

第2節 鍛冶関連遺物について

第1項 鉄製品

1~9は鉄製品。全て鍛造品であるが、錫の付着が著しく詳細は分からず。3・4は断面が梢円形の棒状の鉄製品。

第2項 羽口

10~22は軸の羽口。羽口は、製鉄炉や鍛冶炉に空気を送り込むための送風管の先端部分である。鍛冶炉に伴う羽口が13点出土している。完形のものではなく、13点の内11点が口先部分の破片である。暗いトーンを覆せた部分はガラス質の物質が付着する部分、薄いトーンを覆せた部分は黒色に焼けただれた部分を示している。21には、炉壁が癒着する。

第3項 鉱滓

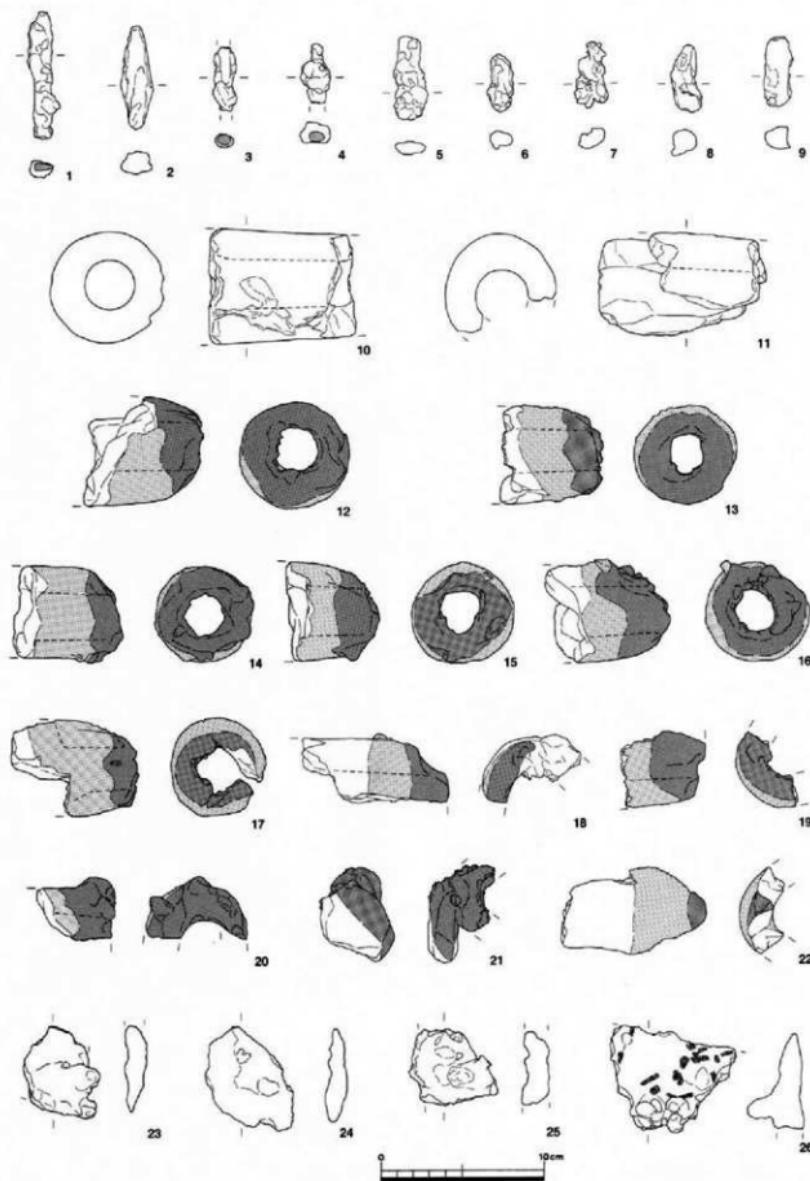
23~26は鍛冶炉の炉壁。27~34、58~61は楕円形鍛冶滓（精鍊鍛冶）。27には羽口の付着が認められる。35~47は不定形滓（精鍊鍛冶）。35には工具痕が見られる。48~50は工具付着滓（精鍊鍛冶）。51~57は楕円形鍛冶滓（鍛鍊鍛冶）。62~70は鍛冶滓（鉄塊系遺物）。71は金床石の破片、鍛造剝片が付着する。72は炉材石。

第3表 鍛冶関連遺物観察表

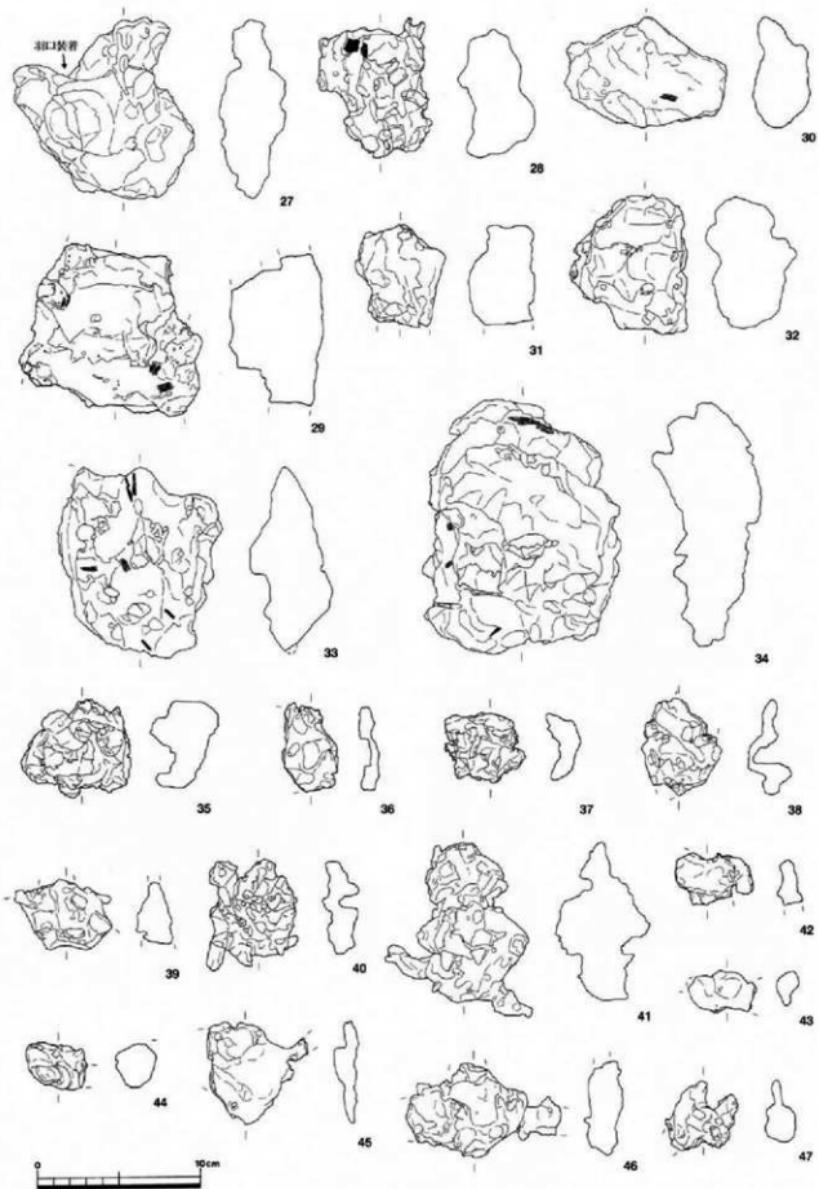
番号	名 称	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点
1	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	7.8 1.5 1.0	13.0 4区 2号土坑-14
2	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	6.3 1.9 1.4	21.6 5・6区 2号溝 床底
3	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	3.9 1.3 0.8	6.4 5区 3号溝 下層
4	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	3.7 1.8 1.2	7.2 1・2区 南北ベルト
5	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	5.1 2.0 0.8	12.0 1区東 II層上部
6	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	3.6 1.6 1.1	5.9 2区 南北ベルト
7	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	4.1 2.1 1.1	8.0 1地区 1号型穴状遺構B
8	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	4.1 1.8 1.4	11.8 1地区D区
9	鉄製品 鍛造品	長さ 幅 厚さ	4.3 1.7 1.4	11.0 1地区C区 アゼ
10	羽口 鍛冶	最大径 内径 残存長	7.1 3.0 9.0	1地区D区 2号型穴状遺構D
11	羽口 鍛冶	最大径 内径 残存長	7.0 3.2 10.3	1地区D区 2号型穴状遺構
12	羽口 鍛冶	最大径 内径 残存長	6.8 3.0 7.3	1地区D区 2号型穴状遺構C 上層
13	羽口 鍛冶	最大径 内径 残存長	6.4 2.7 6.3	1地区D区 2号型穴状遺構
14	羽口 鍛冶	最大径 内径 残存長	6.0 2.9 6.7	1地区D区 2号型穴状遺構
15	羽口 鍛冶	最大径 内径 残存長	6.4 3.0 5.8	1地区D区 2号型穴状遺構
16	羽口 鍛冶	最大径 内径 残存長	6.3 3.1 7.7	1地区D区 2号型穴状遺構
17	羽口 鍛冶	最大径 内径 残存長	6.0 2.7 7.8	1地区C・D区 2号型穴状遺構 C・B(アゼ)上層
18	羽口 鍛冶	残存長	9.0	1地区D区 2号型穴状遺構
19	羽口 鍛冶	残存長	5.2	1地区D区 包含層 II層
20	羽口 鍛冶	残存長	4.8	1地区D区 2号型穴状遺構D
21	羽口 鍛冶	残存長	4.6	1地区D区 包含層
22	羽口 鍛冶	残存長	8.9	1地区D区 2号型穴状遺構
23	6型 (鍛冶炉)	長径 短径 厚さ	5.6 4.7 1.3	30.1 1地区D区 2号型穴状遺構
24	6型 (鍛冶炉)	長径 短径 厚さ	6.4 5.4 1.3	30.1 1地区D区 包含層 II層

番号	名 称	法量 (cm)	重 量 (g)	出土地点
25	砂壁 (船形印)	長径 5.5 短径 4.7 厚さ 1.7	25.9	1 地区 D 区 3 号竖穴状遺構 D 上層
26	砂壁 (船形印)	長径 7.7 短径 6.5 厚さ 3.4	87.4	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
27	楕圓形沿溝 椭圓形沿溝 和田型	長径 11.1 短径 11.0 厚さ 4.1	420.0	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構 C 上層
28	楕圓形沿溝 椭圓形沿溝 中型	長径 8.6 短径 7.1 厚さ 4.7	164.1	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
29	楕圓形沿溝 椭圓形沿溝 中型	長径 11.2 短径 10.6 厚さ 5.8	834.2	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
30	楕圓形沿溝 椭圓形沿溝 中型	長径 10.0 短径 6.8 厚さ 3.5	288.6	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
31	楕圓形沿溝 椭圓形沿溝 中型	長径 6.3 短径 5.5 厚さ 4.0	178.8	1 地区 E 区 4 号土坑 C・D アゼ 下層
32	楕圓形沿溝 椭圓形沿溝 中型	長径 8.6 短径 7.2 厚さ 5.6	361.0	1 地区 C・D 区 2 号竖穴状遺構 D 上層
33	楕圓形沿溝 椭圓形沿溝 中型	長径 11.8 短径 10.2 厚さ 5.1	568.0	1 地区 C・D 区 2 号竖穴状遺構 C 上層
34	楕圓形沿溝 椭圓形沿溝 中型	長径 15.7 短径 12.1 厚さ 6.7	1282.5	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構 D 上層
35	楕圓形沿溝 不定形沿溝 工具附着	長径 6.8 短径 6.1 厚さ 4.2	141.6	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構 C 上層
36	楕圓形沿溝 不定形沿溝 不定形	長径 5.4 短径 3.4 厚さ 1.2	24.5	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
37	楕圓形沿溝 不定形沿溝 不定形	長径 5.0 短径 4.3 厚さ 2.1	51.2	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構 D
38	楕圓形沿溝 不定形沿溝 不定形	長径 6.1 短径 5.0 厚さ 2.6	50.0	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
39	楕圓形沿溝 不定形沿溝 不定形	長径 5.9 短径 4.3 厚さ 2.2	48.3	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
40	楕圓形沿溝 不定形沿溝 不定形	長径 6.8 短径 5.6 厚さ 2.2	84.2	1 地区 D 区 包含層 II 層
41	楕圓形沿溝 不定形沿溝 不定形	長径 10.7 短径 9.0 厚さ 5.8	214.0	1 地区 D 区 包含層 II 层
42	楕圓形沿溝 不定形沿溝 流动狀	長径 4.8 短径 3.2 厚さ 1.5	31.7	1 地区 D 区 包含層 II 层
43	楕圓形沿溝 不定形沿溝 流动狀	長径 4.2 短径 2.6 厚さ 1.4	13.3	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構 上層
44	楕圓形沿溝 不定形沿溝 流动狀	長径 3.8 短径 2.9 厚さ 2.5	37.8	1 地区 2 号溝 覆土
45	楕圓形沿溝 不定形沿溝 流动狀	長径 9.6 短径 5.8 厚さ 2.4	35.4	1 地区 D 区
46	楕圓形沿溝 不定形沿溝 流动狀	長径 6.3 短径 6.2 厚さ 1.6	83.4	1 地区 D 区
47	楕圓形沿溝 不定形沿溝 工具附着 水流入痕	長径 4.2 短径 4.4 厚さ 1.7	34.5	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
48	楕圓形沿溝 工具附着	長径 3.8 短径 2.8 厚さ 1.0	8.5	1 地区 D 区

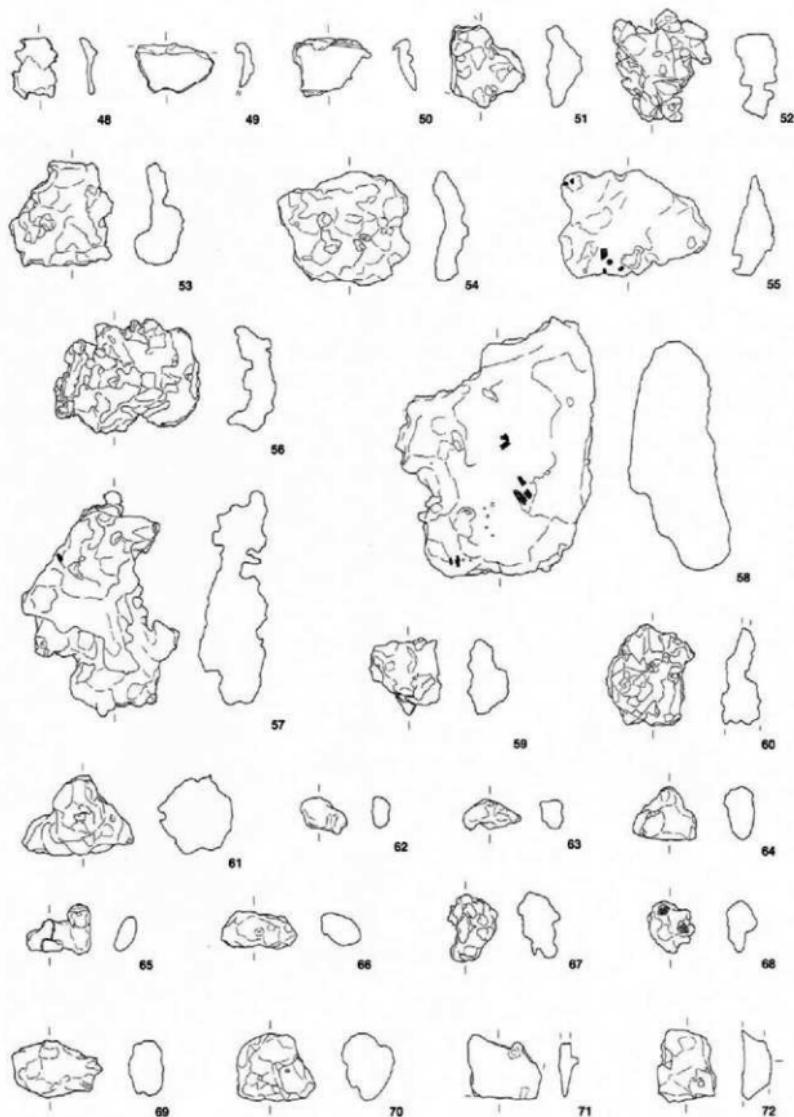
番号	名 称	法量 (cm)	重 量 (g)	出土地点
49	精緻沿溝 工具付着溝	長径 4.8 短径 3.1 厚さ 1.1	15.1	1 地区 D 区
50	精緻沿溝 工具付着溝	長径 4.8 短径 3.6 厚さ 1.4	17.0	1 地区 D 区 包含層 II 层
51	精緻沿溝 模型沿溝 小型	長径 5.1 短径 4.6 厚さ 2.1	69.6	5 区 II 层下部
52	精緻沿溝 模型沿溝 小型	長径 6.9 短径 6.0 厚さ 2.6	97.3	1 地区 B 区 1 号竖穴状遺構 A
53	精緻沿溝 模型沿溝 小型	長径 6.4 短径 6.3 厚さ 3.1	91.1	1 地区 D 区 包含層 II 层
54	精緻沿溝 模型沿溝	長径 8.1 短径 7.0 厚さ 2.1	147.2	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
55	精緻沿溝 模型沿溝 小型	長径 9.3 短径 6.6 厚さ 2.5	193.7	1 地区 D 区 包含層 II 层
56	精緻沿溝 模型沿溝 二重	長径 8.9 短径 7.1 厚さ 2.9	190.1	2 地区 B 区 包含層
57	精緻沿溝 模型沿溝 厚さ	長径 13.8 短径 9.6 厚さ 4.1	321.4	1 地区 D 区
58	精緻沿溝 模型沿溝 包含層	長径 15.9 短径 12.4 厚さ 6.2	1556.1	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
59	精緻沿溝 椭圓形沿溝 小型	長径 4.4 短径 4.8 厚さ 2.5	45.1	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
60	精緻沿溝 椭圓形沿溝 小型	長径 6.2 短径 5.5 厚さ 2.4	99.2	2 地区 C 区 包含層
61	精緻沿溝 椭圓形沿溝 小型	長径 6.8 短径 4.9 厚さ 4.5	114.3	1 地区 C・D 区 2 号竖穴状遺構 C 上層
62	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 2.8 短径 2.3 厚さ 1.1	12.0	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
63	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 3.5 短径 1.9 厚さ 1.4	15.9	1 地区 D 区 包含層 I 层
64	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 3.9 短径 3.3 厚さ 1.8	34.9	4 区 2 号土坑 ペルト上層
65	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 3.9 短径 3.1 厚さ 1.4	22.3	1 地区 D 区 包含層 II 层
66	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 4.6 短径 2.3 厚さ 2.4	44.9	11 区東 I ~ II 层
67	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 4.1 短径 3.0 厚さ 2.6	33.3	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
68	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 3.1 短径 2.9 厚さ 1.8	14.1	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構
69	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 5.5 短径 3.5 厚さ 2.1	71.7	1 地区 C ライン
70	跳躍系遺物 鶴沿溝	長径 4.8 短径 4.1 厚さ 3.2	84.1	5 区西北 II 层下部
71	金庫石 破片	長径 4.5 短径 4.0 厚さ 1.2	20.1	1 地区 D 区 2 号竖穴状遺構 D
72	伊稚石	長径 4.4 短径 3.6 厚さ 1.8	25.5	2 地区 D 区 表土



第41図 銅冶開遺物実測図 ($S=1/3$)



第42図 鎏冶関連遺物実測図 ($S=1/3$)



0 10cm

第43図 鎌治関連遺物実測図 (S=1/3)

第5章 まとめ

第1項 遺構の変遷

島遺跡は、遺物の出土量からは8世紀後半から9世紀前半に主体が認められる。しかし、前回及び今回の調査では完掘した住居跡・掘建柱建物ではなく、住居跡から出る遺物の出土量も少ない。よって、その年代が不明な造構が多く、造構の変遷がわからない。しかし、ここでは建物主軸という概念を使って、復元できないか試みた。

前述のとおり、完全に検出された住居跡等がないため、便宜的に方位を全てN-Eに統一した。その結果、図に示したとおりA-D群に分けることが可能である。それぞれ、A群I-2-II-2期、B群II-3-IV-1期、C群IV-2古-V-1期、D群?頃と考えられる。西の方にふった主軸から、B群に移った頃に磁北に近い方向に向き、C群では、また西側に振り北西方向をとるようになる。A群は2棟のみではっきりした住居跡ではないので保留部分を残す。B群では、①号竪穴状造構からV-1期頃の遺物が出土しているが、この頃まで竪穴住居が存続していたとは考えにくいため、混入であると判断する。②号竪穴造構については遺物の出土状況から予想した時期と合致するものと考える。C群は他群よりもまとまりがあり、掘建柱建物や櫛のみであることから信頼性が高いといえる。B群とC群に挟まれたD群は、1棟のみで確定はできないが、隅丸方形で4本主柱をもつ形態をとると考えられることや、C群がこの形態の竪穴住居が存続していると考えにくい時期であることから、B群の時期か、A群より前の時期と考える。

第2項 遺物の出土量

島遺跡は出土遺物だけみると、弥生時代中期から14世紀代までの広範な遺物が出土している。その中で主体を占めるのが古代の土器である。総破片数12,910片のうち古代遺構出土分が2,856片(約22%)を占める。その出土傾向をみると、遺構出土須恵器では須恵器坏類が破片数では絶対的に多くなる斐片の2倍の量が出土している。これは総破片数でもほぼ同数であり、須恵器食器具が多い傾向がみられる。また、須恵器では、南加賀古窯跡群の他に若干ではあるが能美窯産の供給も認められた。

土器では判別できない細片が多く不明が圧倒的に多くなってしまったが、斐片が非常に多い結果が出ている。他は碗類が若干多い。ただし、全体量からみればさほど多いわけではないが、個体が小さいにもかかわらず鍛冶関連遺物である輪の羽口片が斐・碗以外の器種より多く出土している点が注目される。また、粉々に割れた状態であったが、土製の置き竈片が多く見つかっている点も古代の火所を考える上で重要な発見であろう。

第4表 破片数累計表

(須恵器)

器種	环	环芯	縄	盤	高环	壺	甕	鉢	瓶	壺台	皿	瓦	瓶底	不明	計
古代遺構破片数	251	83	0	13	2	52	131	2	0	0	0	0	0	96	632
約 %	39.72	13.3	0	2.06	0.32	8.23	20.73	0.32	0	0	0	0	0	15.51	
總破片数	1406	485	4	70	12	633	1430	23	4	11	3	1	2	973	3057
約 %	27.80	9.59	0.08	1.38	0.24	12.52	28.28	0.45	0.08	0.22	0.06	0.02	0.04	19.24	

(土師器)

器種	环	环芯	縄	盤	高环	甕	壺	鉢	瓶	土罐	甕	羽口	不明	計
古代遺構破片数	13	9	93	3	0	7	794	0	6	0	0	96	1201	2224
約 %	0.58	0.49	4.18	0.13	0	0.31	35.70	0	0.27	0	0	4.41	54.00	
總破片数	68	37	241	4	21	18	2423	1	61	5	81	142	4751	7853
約 %	0.87	0.47	3.07	0.05	0.27	0.23	30.85	0.01	0.78	0.06	1.03	1.81	69.50	

第44図 島遺跡概略図 (S=1/1000)



SI-2, SI-4
SI-1, SI-2, SI-3, SI-5

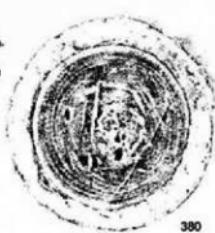
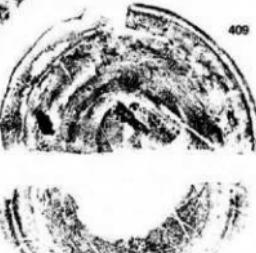
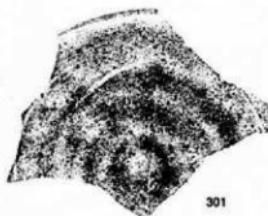
N B D SI-4
A SI-1
E

竪穴状遺構

SB-1
C SA-1, SA-2
SA-3
SB-1, SB-2

柱立柱建物・構

第45図 主軸方位図



0 10 cm

第46図 島遺跡出土中世陶器押印・古代須恵器ヘラ配合拓本図 (S=1/2) 番号は実測図と対応

次に出土した鉱滓の出土分布をみると、総個数1,473個、総重量20,548.38g のうち遺構出土分が1,098個を数え、その95%が②号竪穴状遺構から出土している。廃棄場であったため当然ともいえるが、他の地区でその分布が2%を超えるところはなく、②号竪穴状遺構とその周辺のごく狭い範囲に局地的に集中している。そのためこの付近が鍛冶工房の存在域ではないかと考えられる。

第3項 その他の遺物

ここでは紙幅の関係上、第4章で触れられなかった須恵器にみえるヘラ記号と、中世陶器の加賀焼の押印資料について補足しておきたい。押印資料は、加賀焼のものと考えられ、格子文とユノカミダニⅣ類のものである。

須恵器のヘラ記号資料は、壺A・B、壺B蓋、盤A、高台付きの瓶子類に認められた。「I」、「II」、「+」、「×」の記号が確認されている。

第4項 特殊遺物と島遺跡の性格

鍛冶関連遺物の他に島遺跡からは様々な特殊遺物が出土している。生産関係の遺物として須恵器窯で使用する焼台が出土している。粘土塊が應じた専用焼台の他に須恵器窯胴部破片を転用したものも出土している。また、鉱滓の中には製鉄炉で使われるような立派な工具痕が付着したものもあり(穴沢氏教示)、木場潟の対岸には製鉄遺跡群や南東方向の丘陵部には南加賀古窯跡群が存在しており、島遺跡には製陶・製鉄に関係した人々が存在したと考えられる。律令制と関わる遺物では、硯や祭祀遺物である土馬が出土しており、役人層の存在も考えられる。特に硯では透かし高台付きの円面硯の他に中空円面硯と考えられるものが出土している。胎土は南加賀産で、包含層出土品で時期は特定できないが、類例は7世紀前半の京都府の隼上り窯出土品など数例しかなく、南加賀産のものが発見されたことは、それらの関係を考える上で貴重な発見といえる。

このように島遺跡は、上記のような一般集落とは異なった様相が見られた。また、この地には「洪水時でもこの地は島状に残る」という言い伝えがあり、木場潟を一望出来ると言う立地の良さからも考えると、この地が古代において要所であった点は間違いないであろう。

ただし、上記事柄はこの先島遺跡が全面調査された時に、自ずと修正される可能性を含むものである。

第5表 鉱滓出土数累計表

出土地点	個数	約 %	重量 (g)	約 %
5号竪穴 (Pt3)	1	0.09	3.34	0.02
2号土坑	3	0.27	123.96	0.91
11区上器まだり	1	0.09	12.71	0.09
42号 Pt	1	0.09	14.06	0.10
95号 Pt	1	0.09	79.64	0.58
①号竪穴	5	0.46	20.16	0.15
②号竪穴	1055	95.91	12893.37	94.52
③号竪穴	2	0.18	13.67	0.10
④号土坑	15	1.36	253.67	1.86
⑤号井	1	0.09	9.73	0.07
⑥号井	3	0.27	14.98	0.11
1地区42号 Pt	1	0.09	3.30	0.02
1地区50号 Pt	4	0.36	20.89	0.15
1地区53号 Pt	1	0.09	5.92	0.04
1地区55号 Pt	1	0.09	17.34	0.13
1地区56号 Pt	1	0.09	115.96	0.85
1地区147号 Pt	1	0.09	3.48	0.03
2地区113号 Pt	1	0.09	13.67	0.10
合計	1098		13619.84	

出土地点	個数	約 %	重量 (g)	約 %
1区	1	0.27	21.72	0.31
1・2区	2	0.53	10.72	0.15
2区	3	0.86	112.16	1.61
3区	2	0.53	16.76	0.24
4区	0	0	0	0
4・5区	2	0.53	104.77	1.50
5区	5	1.32	196.34	2.81
6区	5	1.32	119.97	1.72
7区	0	0	0	0
8区	2	0.53	51.88	0.74
9区	0	0	0	0
10区	0	0	0	0
11区	3	0.79	119.07	1.71
1地区A	0	0	0	0
1地区B	3	0.79	40.23	0.58
1地区C	6	1.60	3.34	0.05
1地区D	290	77.33	4734.17	68.33
1地区E	8	2.11	204.37	2.9
1地区F	5	1.32	72.74	1.04
1地区G	0	0	0	0
1地区H	2	0.53	76.21	1.09
1地区不明	1	0.26	15.63	0.22
2地区A	0	0	0	0
2地区B	0	0	0	0
2地区C	1	0.26	14.78	0.21
2地区D	4	1.05	301.52	4.32
2地区E	6	1.58	269.62	3.86
2地区F	2	0.53	66.82	0.95
2地区G	0	0	0	0
2地区H	2	0.53	49.90	0.72
3地区A	0	0	0	0
3地区B	2	0.53	183.30	2.63
3地区C	0	0	0	0
3地区D	0	0	0	0
3地区E	0	0	0	0
4地区A	2	0.53	13.09	0.19
4地区B	0	0	0	0
4地区C	0	0	0	0
4地区D	0	0	0	0
4地区E	0	0	0	0
4地区F	0	0	0	0
5地区A	0	0	0	0
5地区B	0	0	0	0
5地区C	0	0	0	0
5地区D	2	0.53	38.82	0.56
5地区E	1	0.26	16.72	0.24
5地区F	0	0	0	0
5地区G	0	0	0	0
5地区H	1	0.26	4.48	0.06
5地区I	0	0	0	0
出土地不明	1	0.16	75.37	1.08
合計	375		6928.54	



②号竖穴状遺構遺物出土状況



①号竖穴状遺構床面



④号竖穴状遺構完成



1号竖穴状遺構出土

6



25



28



26



10



17



45



33



2号土坑出土

41

1号溝出土

45

○番字は、平成7年度調査遺構

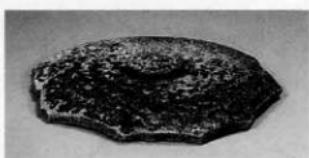


2号溝出土 48



土器だまり出土

57



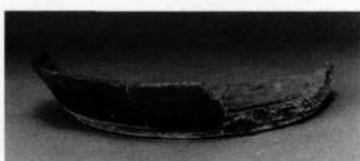
72



73



87



97

②号堅穴状遺構遺物出土



中空円面視
467



134



526

527

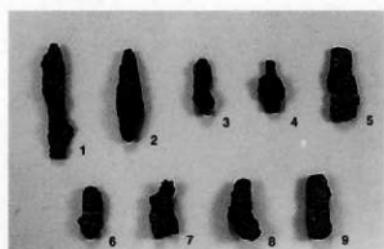
土馬脚



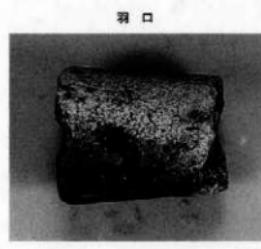
須恵質土製脚

471

○数字は、平成7年度調査遺構



鉄製品



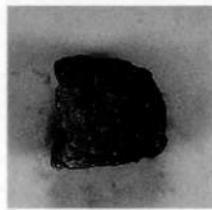
10



11



12



13



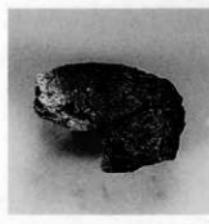
14



15



16



17



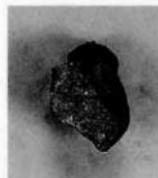
18



19



20



21



22

報告書抄録

ふりがな 書名	しまいせき 島遺跡						
副書名	昭和58年度市道島～宮前線道路改良工事及び平成7年度下水道汚水管渠埋設工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	川畠 謙二・坂下 義視						
編集機関	小松市教育委員会						
所在地	〒923-0904 石川県小松市小馬出町91番地						
発行年月日	西暦1998年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
島	石川県小松市 島町り番地	03118	36度	136度	1983/12/01	333m ²	市道島～宮前線 道路改良工事
			20分	26分	～1984/03/18	178.6 m ²	下水道汚水管渠 埋設工事
			50秒	0秒	1995/10/11 ～1996/03/21		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項
島	集落跡	弥生	溝1			弥生土器	
		古墳				土師器	
		古代	竪穴状遺構10・掘建柱建物3 櫛3・井戸2・土坑7・溝13			須恵器・土師器・円面鏡 鉄製品・鉄滓	
		中世				国産陶器・輸入磁器	

島 遺 跡

昭和58年度 市道島～宮前線道路改良工事及び
平成7年度 下水道污水管渠埋設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成10年3月25日 印刷
平成10年3月31日 発行

編集・発行 石川県小松市教育委員会
石川県小松市小馬出町91番地
〒923-0904 電話 0761(22)4111

印 刷 英 文 堂 印 刷 (株)

